

【 生物 】 令和4年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	高宮正之	実務経歴	理学博士。元熊本大学大学院先端科学研究部教授、及び元熊本大学理学部学部長、熊本大学名誉教授、現在は熊本大学大学教育統括管理運営機構シニア教授。研究専門分野は植物系統分類学。
授業との関連性	理学博士としての研究や大学での講義を踏まえ、生物の細胞構造や機能などの基礎知識や生命の連続性について講義・演習する。		
履修学年・学期	1年前期	授業方式	講義
		単位数	2単位(30時間)
		授業回数	15
授業目標	生物の基本的な単位である細胞の構造と機能、代謝、細胞分裂、遺伝の法則や分子遺伝学を理解した上で、生命の連続性を学びとる。生物学の基本を習得し、専門科目学習のための基礎を作る。iPS細胞、ヒトゲノム、クローン動物、ゲノム編集など、日常の生物学的話題を理解する基礎的能力を習得する。		
評価方法	定期試験(100点満点)		
教科書名	最新歯科衛生士教本「生物学」 川合進二郎著 他 医歯薬出版KK		
参考文献	高校での「生物基礎」や「生物」で使用した教科書や生物資料集。その他、授業中に紹介する。		
履修上の注意	プリントを毎時間配るので、プリント用のファイルを用意し、毎時間前回のものを含めて持ってくる。板書量が多いので専用のノートを用意し、ノートをきちんととること。		
回	授業計画	到達目標	
1	導入。生物知識の必要性。生命の起源からヒトの進化までを概説する。	毎日の生活において、生物の知識がいかに必要かを導入する。今日の生命がどのように誕生し、進化してきたのか。35億年の流れと現在のヒトの在り方について、概要を知り、生命の連続性の意味を知る。生物学について必要性を感じ興味を持つようになる。	
2	生命の単位 生命とは何か、細胞の大きさはどのくらいか、生命と細胞との関係を知る。	生命とは何かを述べることができる。細胞の大きさの範囲を知り、述べるができる。顕微鏡の種類による写真の違いを類別できる。原核生物と真核生物、単細胞生物と多細胞生物を類別できる。	
3	細胞の構造と機能(1) 細胞の基本的構造、細胞小器官とは、生体膜、核、ミトコンドリア、小胞体、ゴルジ体、リボソームなどの構造と機能などを理解する。	細胞とは、細胞小器官とは何かを説明することができる。生体膜、核、ミトコンドリア、小胞体、ゴルジ体、リボソームの構造と機能を列記できる。	
4	細胞の構造と機能(2) リソソーム、色素体、細胞質基質、細胞骨格などの構造と機能、原核細胞と真核細胞、ウイルスなどを理解する。	リソソーム、色素体、細胞質基質、細胞骨格などの構造と機能を列記できる。細胞内のさまざまな小器官の係り合いを理解することができる。原核細胞と真核細胞の違いを列記し、真核細胞の起源について述べるができる。ウイルスと細胞との違いを類別し、列記することができる。	
5	細胞の構造と機能(3) 細胞の活動(生物とエネルギー、代謝)について理解する。	生物にとってエネルギーとは何かを理解し、エネルギーを受け渡す物質であるATPについて述べるができる。代謝、異化、好気呼吸と嫌気呼吸との違いについて述べるができる。	
6	生命の連続性(1) 細胞分裂(体細胞分裂)、染色体について理解する。	生命の連続性の基礎となる細胞分裂を理解し、体細胞分裂の各期の特徴を説明できる。染色体、紡錘体、中心体などの専門用語の意味を述べることができる。	
7	生命の連続性(2) 細胞周期、減数分裂について理解する。	細胞周期と減数分裂の各期の特徴を説明できる。相同染色体、対合、組み換えなどの専門用語の意味を述べることができる。体細胞分裂と減数分裂の共通点や差異を列記できる。	
8	生命の連続性(3) 配偶子とは何かを知り、ヒトの卵と精子の形成について理解する。	配偶子、卵、精子などの意味を述べるができる。ヒトの卵と精子の形成過程を理解し、共通点や差異を列記できる。	
9	生命の連続性(4) ヒトでの受精と発生基礎的知識を身につけ、幹細胞やiPS細胞とは何かを知る。	受精と発生の概要について述べるができる。減数分裂・配偶子形成・受精・体細胞分裂・発生の一連の流れを理解できる。幹細胞やiPS細胞について述べるができる。	
10	これまでの纏めと解説1	これまでの授業で習った基礎知識に対し、小テストを行った後に内容を解説し、各自の理解度をチェックし不足な点を補う。	
11	遺伝と変異(1) 遺伝の法則、遺伝の基礎的用語を理解する。	メンデル遺伝の法則について、列記できる。対立遺伝子、遺伝子型、対立形質、劣性形質などの用語の意味を、述べることができる。	
12	遺伝と変異(2) ヒトの遺伝(耳垢、血液型など)、遺伝子と染色体(染色体異常、判性遺伝など)を理解する。	耳垢、血液型などの遺伝子型や表現型について理解し、説明できる。染色体異常について述べることができる。判性遺伝について、理解し、説明できる。	
13	遺伝と変異(3) DNA、RNA、タンパク質合成、セントラルドグマなどについて理解する。	DNAとRNAについて、構造と機能を列記できる。DNAからタンパク質合成までの一連の流れを理解し、遺伝子発現のセントラルドグマについて述べることができる。	
14	遺伝と変異(4) 遺伝子から細胞、個体までの一連の流れを理解する。遺伝子工学、遺伝的変異、遺伝子組み換え、ゲノム編集などについて理解する。	遺伝子から細胞、細胞分裂、形質発現、個体発生などの一連の流れを説明することができる。遺伝子工学や遺伝的変異のしくみについて述べることができる。	
15	これまでの纏めと解説2 全体の纏め	これまでの授業で習った基礎知識に対し、小テストを行った後に内容を解説し、各自の理解度をチェックし不足な点を補う。全体の纏めも行い、生物義内容を確認する。	

【 化学 】 令和4年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学院

講師名	澤村精昭	実務経験	熊本学園大学付属高等学校理科(化学)教諭。
授業との 関連性	化学の教諭として長年の経験をおして、科学的思考の基盤となる物質の性質や構造、変化を知り、歯科医療に用いる関連物質の組成構造や使用時の注意点について講義・演習する。		

履修学年・学期	1年前期	授業方式	講義・実験	単位数	2単位(30時間)	授業回数	15
---------	------	------	-------	-----	-----------	------	----

授業目標	化学は、物質の性質・構造、変化に関する学問である。本院の学生が志す歯科衛生士は、医療の現場で、種々雑多な歯科材料などの物質に日常的に接する立場にあり、化学の基礎知識が必要不可欠である。高等学校で化学を履修した学生も履修しなかった学生もいるであろう。講義時間数が限られている中、学生に理解できるよう、平易に効率よく授業に取り組む予定である。		
評価方法	定期試験(100点満点)及び平常時の小テスト (定期考査90% 小テスト10%)		
教科書名	最新歯科衛生士教本「化学」 鶴房繁和著 他 医歯薬出版KK		
参考文献	講談社ブルーバックスシリーズ(化学、医療関係)平易にわかりやすく解説した本が多い。※『歯科医療最前線 自分の歯を守るための最新情報』下野真基著 ※歯を守る歯の病気の仕組みとその予防 覚道幸男著など		
履修上の 注意	本講義では、教科書を基にできるだけ分かりやすく解説し、化学の基礎を重点的に授業で取り組みます。授業時間に制約がありますので、授業で理解できないことはどんな些細なことでも、授業中あるいは、授業時間外に気軽にどんどん質問して下さい。また、化学専門の授業内容のノートを作って下さい。テスト時の見返しに役に立つと思います。どうしても理解できないときは補講をしますので、遠慮なく申し出て下さい。		
回	授業計画	到達目標	
1	化学(chemistry)とはどのような学問か。 物質の基礎(その1) 物質の分類 物質を構成する基本粒子 物質を表す化学式	①化学で取り扱う内容について理解すること。 ②元素と原子の概念を説明し、主な元素記号を書く。 ③具体例から、混合物と純物質の違いを理解する。 ④純物質には化合物と単体があることを理解する。 ⑤元素記号や物質の化学式(電子式・構造式を含め)が書ける。	
2	物質の基礎(その2) 物質を構成する原子 原子番号と質量数 原子の電子配置 原子と分子・イオン 同位体 元素の周期律と周期表	①原子を構成している基本粒子である陽子、中性子、電子を説明し、それらの概念を理解する。 ②原子番号、質量数を説明し、元素記号とともにそれらを表示する。 ③電子殻における電子配置を軌道のエネルギー順位から説明する。 ④分子のでき方、イオンのでき方を理解する。 ⑤周期律発見の歴史を理解し、周期表の概略を理解する。	
3	物質の基礎(その3) 原子量と分子量・式量 物質質量(mol)について モルの応用 化学結合の種類と結晶	①化学で用いる相対質量概念を理解し、説明する。そして原子量と分子量・式量について習熟する。 ②アボガドロ数とモルの概念について理解する。 ③モルを使った計算について習熟する。 ④物質を構成する粒子の結合であるイオン結合、共有結合、金属結合について理解する。結晶が分類できる。	
4	気体(その1) アボガドロの法則やボイルの法則 とシャルルの法則 理想気体の状態方程式 ヘンリーの法則と気体の溶解	①アボガドロの法則、ボイルの法則とシャルルの法則、ボイル・シャルルの法則について理解する。 ②気体の状態方程式や分圧の法則について理解する。 ③ヘンリーの法則とは何か。水への気体の溶解について理解する。	
5	気体(その2) さまざまな気体とその性質 空気、二酸化炭素、酸素、オゾンについて 気体を使う(医療・生活への応用)	①身近な気体(ガス)についての知識を身につける。 ②大気成分と地球環境について理解する。 ③二酸化炭素の性質・特徴と温室効果について理解する。 ④発生器の酸素、オゾンの殺菌作用を説明する。	
6	物質の水への溶解(その1) 液体としての水 質量パーセント濃度 モル濃度・ppm 希釈液の作り方について	①砂糖水を例に、溶質・溶媒・溶体を説明し、理解する。 ②水の特異な性質(物理・化学的性質)を理解する。 ③質量パーセント濃度を理解し、計算ができるようになる。 ④モル濃度やppmを理解し、計算ができるようになる。 ⑤希釈液の作り方について理解を深める。	
7	物質の水への溶解(その2) 希薄水溶液の性質 気体・液体・固体の溶解 浸透圧について コロイドについて	①水に気体、液体、固体が溶けるという現象を、身近な例を通して理解する。 ②蒸気圧降下、沸点上昇・凝固点降下について理解する。 ③気体、液体、固体の溶解度の計算法を習得する。 ④浸透圧について理解する。 ⑤身の回りのコロイドとその性質について理解する。	
8	物質の水への溶解(その3) 酸とアルカリの反応 水素イオン濃度とPH 中和反応	①酸とアルカリの性質を比較し、アレニウスの定義が理解できる。 ②主な酸とアルカリ、その強弱について理解する。 ③水素イオン濃度とPHについて理解する。 ④中和反応の化学反応式の表し方ができる。	
9	酸化と還元(その1) 酸化還元例 酸化剤と還元剤 酸化還元反応について 金属のイオン化傾向	①酸化・還元の定義を理解する。 ②酸化数の表記、酸化数の計算ができる。 ③酸化剤と還元剤の定義を理解する。 ④酸化還元反応の化学反応式が理解できる。 ⑤金属のイオン化傾向と金属の反応について理解する。	

回	授業計画	到達目標
10	化学反応(その1) 物理変化と化学変化 化学反応式とは 反応速度と触媒 化学反応と熱	①物質の状態変化と化学反応との違いを理解する。 ②水ができる変化など化学反応式の表し方が理解できる。 ③化学反応の速さを変える要因(触媒等)が理解できる。 ④身近な発熱反応の例と吸熱反応の例に関する知識。 ⑤活性化エネルギーの意義について学ぶ。
11	化学反応(その2) 化学反応と化学平衡 化学平衡の法則 ルシャトリエの原理	①化学平衡とは何かを理解する。 ②化学平衡の法則が理解できる。 ③ルシャトリエの原理の一般則を理解する。 ④身近な化学反応について考える。
12	有機化合物(その1) 有機化合物の成り立ち 有機化合物の名前の付け方 異性体について	①有機化合物の特徴を理解する。 ②単結合、二重結合、ベンゼン環の構造を理解する。 ③官能基の特徴を説明し、化学式(示性式)を書く。 ④構造異性体、立体異性体、光学異性体について理解する。
13	有機化合物(その2) 有機化合物の反応 炭化水素の分類 代表的な化合物とその性質 高分子化合物	①イオン反応とラジカル反応の反応機構の違いを理解する。 ②置換反応、付加反応、脱離反応、転移反応を説明する。 ③飽和炭化水素と不飽和炭化水素の違いについての知識。 ④代表的な有機化合物とその性質を知る。 ⑤高分子化合物とは何か。また、その生成反応について理解する。
14	物質と人間 糖質 アミノ酸とタンパク質 脂質 核酸と核酸関連物質 医療と人間	①ヒトにおける水の重要性、ヒトを形づくる元素を理解する。 ②具体的な単糖類、二糖類、多糖類を理解する。 ③タンパク質合成に関わるアミノ酸と構造、その性質を理解する。 ④脂肪酸と脂質について理解する。 ⑤核酸(ヌクレオシドとヌクレオチド)やDNA・RNAについて理解する。 ⑥医療技術の進歩についての基礎知識を学ぶ。
15	まとめ この講義の総集編と化学実験	①重要な事項の再確認と期末試験への対策 ②簡単な化学実験の実習

【社会学】 令和4年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	松田裕一郎	実務経験	(株)熊本放送報道制作局次長、(株)熊本放送キャリアスタッフ報道部デスクとして勤務。人権擁護委員(法務大臣委嘱)、熊本民事調停委員も務めている。
授業との関連性	報道製作での実績を活かし多様な現代社会について講義を行う。		

履修学年・学期	1年前期	授業方式	講義・演習	単位数	2単位(30時間)	授業回数	15
---------	------	------	-------	-----	-----------	------	----

授業目標	社会はどのような法則や仕組みで動いているのか。講師が解説するジャーナリズムの視点から地域社会の課題、震災からの復興等について学び、自立した歯科衛生士になることをめざす。		
評価方法	定期試験(100点満点)		
教科書名	講師資料		
参考文献			
履修上の注意	報道資料を多用するので可能な限り、テレビニュース等報道系番組を視聴し、また新聞の解説記事、コラム等にも目を通す習慣をつけてください。		
回	授業計画	到達目標	
1	オリエンテーション 自己紹介 地震アンケート作成	テレビニュース等、報道の仕組みや前期講義計画の概要について理解を深める。	
2	熊本地震から5年、震災体験を踏まえ、これからの地域社会のあり方を考える。	学生アンケート結果などを踏まえ、現状への理解を深めるとともに今後の復興、地域社会のありかたについて考える。	
3	SNS,ネット社会について考える また、2022年4月からの成年年齢引き下げに伴う課題、問題点について学習する	情報化社会が急速に進む中、ネット、SNS社会を賢く生きるために何が必要か、DVDの視聴等を織り込みながら考える	
4	選挙制度について学び、有権者としての意識を高める	今年夏に実施される参議院議員選挙を前に民主主義の根幹となる選挙全般について学ぶと共に制度の歴史も踏まえ理解を深める。	
5	人権と差別を考える ①ハンセン病問題から	ハンセン病に関する報道番組等を視聴、熊本の地域社会の大きな課題という視点からこの問題への理解を深め、人権について学ぶ。	
6	人権と差別を考える ②水俣病問題	熊本県政の重要課題で、地域社会の課題でもある水俣病問題について報道番組の視聴等を通じて理解を深める。	
7	危険から身を守るために～社会人としてのリスク管理	多発するストーカー犯罪、日常的に発生する交通事故等、現状について学び、自分の身を守るためどう行動すべきか等学ぶ。	
8	LGBTについて考える。	法務局作成のDVD、RKK制作のニュース番組等を視聴、自治体のパートナーシップの導入等、社会の動きに注目しつつ、理解を深める。	
9	デートDV、性暴力について考える	ドメスティックバイオレンスの中でも特に交際中の若者等にみられる。デートDVの実態を教材DVDなどで学習するとともに性暴力の現状、被害にあわない為の対策について学ぶ	
10	多分化共生について(外国人の人権等)	法務局作成のDVDなどを視聴、技能実習生の問題等喫緊の課題について考える。	
11	戦争と家族	RKK制作のドキュメンタリー「祖父の日記」を視聴、戦争とは何か、戦争がもたらすものと平和について考察する。	
12	熊本県民の行動(演習) 100人アンケートから	熊本県民はどんな時、いかなる行動を取るのか、学生自らテーマを設定し、次回まで調査する。	
13	熊本県民の行動 ～アンケート調査～	前回講義の集計と分析、および次回用の大判表を作成する。	
14	熊本県民アンケート調査から(最終回)と後期まとめ	前回作成した大判表をボードに掲示し、班のリーダーが発表する。	
15	社会学試験		

【 英語 】 令和4年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	浦島有希	実務経験	歯科診療所勤務後、英会話講師。		
授業との 関連性	英会話講師や歯科診療所での受付業務の経験を活かし、英会話を用いた患者対応ができるよう講義する。				
履修学年・学期	1年前期	授業方式	講義	単位数	2単位(30時間)
授業回数	15				
授業目標	英語に対する苦手意識を取り除き、楽しく英語でコミュニケーションをとる。				
評価方法	本試験(90%)、出席日数、宿題、小テスト、授業の積極的な姿勢・態度など(10%) (履修上の注意を必ず守ること)				
教科書名	毎回の授業に沿ったプリントを準備します。				
参考文献					
履修上の 注意	以下の禁止行為を行った場合は評価から減点します。 1. 私語や居眠り 2. 許可なく携帯電話やスマートフォンを使用すること 3. 板書や授業風景を無断で撮影すること ※ シラバスに記載された授業計画を変更することがあります。				
回	授業計画			到達目標	
1	1. 自己紹介 2. 授業に関するアンケート 3. 簡単な英語表現を使った会話練習			英語で簡単な会話ができるようになる。	
2	受付での対応 ①			受付での会話表現を理解し、発話できるようになる。	
3	受付での対応 ②			受付での会話表現を理解し、発話できるようになる。	
4	問診			問診で使用する表現を理解し、発話できるようになる。	
5	むし歯の説明			むし歯の説明をするときの表現を理解し、発話できるようになる。	
6	ブラッシング指導			ブラッシング指導を英語でできるようになる。	
7	スケーリング			スケーリングをするときの表現を理解し、発話できるようになる。	
8	レントゲン室にて			レントゲンを撮るときの指示表現を理解し、発話できるようになる。	
9	歯周検査			歯周検査を英語でできるようになる。	
10	学生が希望する内容を準備します			学生が求める内容に沿って決めます。	
11	学生が希望する内容を準備します			学生が求める内容に沿って決めます。	
12	学生が希望する内容を準備します			学生が求める内容に沿って決めます。	
13	学生が希望する内容を準備します			学生が求める内容に沿って決めます。	
14	学生が希望する内容を準備します			学生が求める内容に沿って決めます。	
15	学生が希望する内容を準備します			学生が求める内容に沿って決めます。	

【 解剖生理学 】 令和4年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	八木俊晃	実務経験	歯科医師。愛知学院大学歯学部付属病院歯科口腔外科勤務。歯科診療所勤務。
授業との 関連性	歯科診療所、大学病院勤務の歯科口腔外科医として手術等の経験を踏まえ、人体の構造や生体のメカニズムについて講義する。		
履修学年・学期	1年前後期	授業方式	講義
		単位数	3単位(45時間)
		授業回数	23
授業目標	医療を修める上で、最初に学ぶ学問が解剖と生理である。この教科の理解なくして他教科の正確な理解は困難であると思われる。歯科衛生士教育でも全身との関わりのなかで、医療を実践していく姿勢が求められる。さらに近年の高齢化の進展により全身疾患をもつ患者が増加し、全身の理解は不可欠であることをよく考え理解を深めてもらいたい。		
評価方法	定期試験(100点満点)		
教科書名	最新歯科衛生士教本「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」前田健康著 他 医歯薬出版株式会社 ポイントチェック 歯科衛生士国家試験対策① 医歯薬出版株式会社		
参考文献	○「解剖生理をおもしろく学ぶ」増田敦子著 サイオ出版 ○「いちばんやさしい生理学」南沢 享、加藤 尚志著 成美堂出版 ○「読んでわかる解剖生理学」竹内修二著 医学教育出版社		
履修上の 注意	国家試験対策は重要な課題であり、履修の必要性の高い分野は、重点的に学習してもらいたい。この学科では、解剖と生理を1セットとし、1単元ごとに学習し理解することを基本としてほしい。また、量的に多いので、後でまとめて勉強しようとしても無理であるということに注意点としたい。		
回	授業計画	到達目標	
1	解剖・生理学概論 ・人体の区分 ・身体の方向用語 生理学概論 ・生理学とは何か	<ul style="list-style-type: none"> ・身体の一部と方向用語・解剖学的名称を理解できる ・解剖学・生理学の基本的な学習を理解する ・生物が生命を維持するメカニズムの概要を知る 	
2	〈骨格系〉	<ul style="list-style-type: none"> ・骨の基本構造と骨の形態、連結様式、骨の改造について概説できる ・主な骨格と解剖学的名称を理解できる ・骨の成長のメカニズムを概説できる 	
3	〈筋と運動 1〉	<ul style="list-style-type: none"> ・筋の形状と分類、筋の構造を説明できる ・体の各部位の筋系について概説できる ・骨格筋の収縮の特徴と筋収縮の機序を概説できる 	
4	〈筋と運動 2〉	<ul style="list-style-type: none"> ・骨格筋の収縮の特徴と筋収縮の機序を概説できる ・心筋の構造と収縮のメカニズムを説明できる 	
5	〈消化・吸収〉 消化・吸収 1	<ul style="list-style-type: none"> ・消化器のそれぞれの解剖的位置と基本構造を理解し説明できる ・小腸壁の組織学的な理解ができる ・それぞれの器官の分泌物の機能を理解できる 	
6	〈消化・吸収〉 消化・吸収 2	<ul style="list-style-type: none"> ・消化器運動とその調節機能を説明できる ・それぞれの消化器・臓器の機能について説明できる ・それぞれの器官の消化酵素の働きと栄養素の吸収について理解し説明できる 	
7	〈循環〉 血液 1 血液 2	<ul style="list-style-type: none"> ・動脈・静脈及び毛細血管の構造を理解し説明できる ・肺循環・体循環における血管系を説明できる ・血管の機能、血圧の調整を理解し説明できる ・血液成分の組成とその機能を説明できる ・血液の凝固の機序を理解し説明できる 	
8	〈循環〉 血液 2 心臓の構造と機能 心臓の活動と心電図	<ul style="list-style-type: none"> ・心臓の解剖学的構造について理解できる ・心臓の血管について理解できる ・心筋の拍動のコントロールを理解できる ・心電図の波形の意味を理解できる ・刺激伝導系と心電図、心臓の筋肉の活動について理解できる 	
9	〈循環〉 動脈系・静脈系 胎児循環 リンパ系	<ul style="list-style-type: none"> ・主な動脈・静脈の走行と解剖学的名称を理解し説明できる ・門脈系とその機能が説明できる ・リンパ系の概要とその機能を説明できる ・胎児循環の特徴を理解できる 	

回	授業計画	到達目標
10	〈感 覚〉	<ul style="list-style-type: none"> ・感覚の基本的性質について理解できる ・皮膚の感覚装置について概説できる ・特殊感覚器(視覚器・平衡調節器、味覚器、嗅覚器)の構造を概説できる
11	〈感 覚〉	<ul style="list-style-type: none"> ・皮膚の感覚装置について概説できる ・特殊感覚器(視覚器・平衡調節器、味覚器、嗅覚器)の構造を概説できる
12	〈神経系〉 神経系の構成と機能 脳と脊髄	<ul style="list-style-type: none"> ・神経系の構成を理解できる ・神経系の基本的機能について理解し説明できる ・神経細胞の興奮と伝導の仕組みを理解できる ・脳(大脳、間脳、中脳、橋、延髄、小脳)と脊髄の解剖学的位置を理解し説明できる
13	〈神経系〉 脳と脊髄 中枢神経系 末梢神経系	<ul style="list-style-type: none"> ・大脳の機能局在について説明できる ・それぞれの器官における中枢の機能を理解できる ・脳脊髄膜の構造と機能について理解できる ・脳の血管を理解できる
14	〈神経系〉 末梢神経系 自律神経 求心性、遠心性伝導路	<ul style="list-style-type: none"> ・末梢神経系の分類と解剖学的分布を理解し説明できる ・脳神経の種類、脊髄神経の走行分布を理解できる ・自律神経の特徴を理解できる ・上行性、下行性の伝導路の意味を理解できる
15	〈神経系〉 求心性、遠心性伝導路 反射と随意運動	<ul style="list-style-type: none"> ・上行性、下行性の伝導路の意味を理解できる ・運動ニューロンの構成、反射、姿勢調節について理解し概説できる ・反射のメカニズムについて理解し概説できる
16	〈呼吸〉 呼吸器系の解剖と構成	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸器の構成と構造を理解できる ・胸郭の構造を理解できる ・呼吸の中枢と調節について理解し説明できる
17	〈呼吸〉 呼吸器系の解剖と構成	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸器系の生理学的意味について理解できる ・血液中のO₂とCO₂の運搬について理解できる ・呼吸の調節のしくみを理解し説明できる
18	〈腎機能と排尿〉	<ul style="list-style-type: none"> ・汗腺、泌尿器、腎臓の解剖学的構造などについて理解し説明できる ・尿生成のメカニズムについて理解し説明できる ・排尿のしくみを理解できる
19	〈内分泌〉	<ul style="list-style-type: none"> ・内分泌器官の名称と解剖学的位置について理解できる ・内分泌器官から分泌されるホルモン、その作用機序について理解できる ・血中カルシウムや血糖値を調節するしくみを理解できる
20	〈生 殖〉	<ul style="list-style-type: none"> ・男性、女性 生殖器の構造と生殖に関わるホルモンについて理解できる ・分娩と乳汁分泌に関わるホルモンについて理解できる ・性周期と体温変化について説明できる
21	〈体 温〉	<ul style="list-style-type: none"> ・体熱の産生機序、体温放散などの調節メカニズムを理解できる ・体温の調節を理解できる ・体温の変動について理解できる
22	解剖・生理学概論～〈循環〉 復習・後期試験対策 国家試験問題	<ul style="list-style-type: none"> ・概論～循環まで要点を復習します
23	〈感 覚〉～〈体 温〉 復習・後期試験対策 国家試験問題	<ul style="list-style-type: none"> ・感覚～体温まで要点を復習します

【 組織発生学 】 令和4年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	関 祐紀	実務経験	歯科医師。熊本大学医学部付属病院歯科口腔外科勤務。					
授業との関連性	臨床における歯科口腔外科医として手術等の経験から細胞の性質や組織の機能について講義する。							
履修学年・学期	1年前期	授業方式	講義	単位数	1単位(15時間)	授業回数	8	
授業目標	組織・発生学を学ぶことにより、正常組織・構造を理解し、臨床の場で正常、異常を判断し患者様やスタッフに説明できるようになる。							
評価方法	定期試験(100点満点)							
教科書名	最新歯科衛生士教本「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」前田健康著 他 医歯薬出版株式会社							
参考文献	「解剖学・組織発生学・口腔解剖学」 井出吉信著 医歯薬出版KK							
履修上の注意	各授業の確認テスト(小テスト)を次週の授業中に行いますので、しっかりと復習して下さい。							
回	授業計画			到達目標				
1	細胞①				①細胞の基本構造を説明することができる。 ②細胞の構成体の各機能を説明することができる。			
2	細胞②				細胞の増殖と寿命について理解し、説明することができる。			
3	組織①				組織を4つに分類し、それぞれの特徴を説明することができる。			
4	組織②				それぞれの組織の特徴を説明することができる。			
5	発生①				①染色体と減数分裂を説明することができる。 ②精子と卵子の発生を説明することができる。 ③受精と着床について説明することができる。			
6	発生②				胚葉の形成とそれぞれの胚葉から分化する主な器官と組織について、説明することができる。			
7	発生③				①歯の発生について説明することができる。 ②胎児の成長と発育について説明することができる。			
8	発生④ まとめ				①顎裂など先天性奇形について説明することができる。 ②鰓弓について説明することができる。 ③まとめ。			

【 口腔解剖口腔生理学 】 令和4年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	矢毛石 玲	実務経験	歯科医師。久留米大学医学部解剖学講座・肉眼・臨床解剖学部門入局、歯科診療所院長。
授業との関連性	大学医学部解剖学講座での研究や臨床歯科医としての経験を踏まえ、口腔の解剖やしくみについて講義する。		

履修学年・学期	1年前後期	授業方式	講義	単位数	3単位(45時間)	授業回数	23
---------	-------	------	----	-----	-----------	------	----

授業目標	口腔とその周囲組織の基本的な構造と機能を理解し説明できる。	
行動目標	口腔は全身の一部である事を忘れずに系統立てて理解する。	
評価方法	定期試験(100点満点)	
教科書名	最新歯科衛生士教本「口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 天野修 著他 医歯薬出版Kk	
参考文献		
履修上の注意		
回	授業計画	到達目標
1	口腔解剖総論 顔面と口腔の発生(1)	消化器系の入り口としての口腔およびその周囲の解剖学的構造の概要を理解し説明できる。 同時に口腔解剖を学ぶ意義を理解し説明できる。 鰓弓について説明できる。
2	口腔付近の解剖	口腔の範囲と機能および各部の名称を説明できる。
3	口腔を構成する骨	頭蓋を構成する骨を説明できる。
4	口腔を構成する骨	口腔を構成する骨を説明できる。
5	頭頸部の筋と作用	表情筋の働きと構成を説明できる。
6	頭頸部の筋と作用	咀嚼筋の働きと構成を説明できる。
7	頭頸部の筋と作用	頸部の筋について説明できる。 顎関節について説明できる。
8	口腔付近に分布する脈管系	口腔付近に分布する動脈系について説明できる。
9	口腔付近に分布する脈管系	口腔付近に分布する静脈系およびリンパ系について説明できる。
10	神経系	脳神経の働きと名称および分布について説明できる。 三叉神経の分布と機能について説明できる。
11	神経系	顔面神経、舌咽神経、迷走神経、舌下神経の分布と働きについて説明できる。
12	神経系	頭頸部に分布する脊髄神経について説明できる。 自律神経について説明できる。
13	顔面と口腔の発生(2)	顔面、鼻腔、口腔の発生を説明できる。 舌、唾液腺の発生を説明できる。
14	歯と口腔の感覚	歯と口腔粘膜の感覚について説明できる。
15	味覚と嗅覚	味覚について説明できる。
16	味覚と嗅覚	嗅覚について説明できる。
17	咬合と咀嚼・吸啜	下顎位と下顎の運動について説明できる。
18	咬合と咀嚼・吸啜	顎反射、摂食行動、咀嚼能力、吸啜について説明できる。
19	嚥下と嘔吐	嚥下と嘔吐に関わる構造について説明できる。
20	嚥下と嘔吐	摂食嚥下の流れとその概要について説明できる。 嘔吐について説明できる
21	発声	発声と発声に関わる構造および仕組みについて説明できる。
22	唾液	唾液腺の種類と解剖学的な位置および機能について説明できる。
23	まとめ	口腔解剖生理学の理解を深めることができる。

【 歯牙解剖学 】 令和4年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	河端憲彦	実務経験	歯科医師。福岡大学病院歯科口腔外科入局、歯科診療所院長。		
授業との関連性	大学病院歯科口腔外科など臨床歯科医としての様々な経験を踏まえ、歯牙の構造や特徴、役割について講義する。				
履修学年・学期	1年後期	授業方式	講義	単位数	1単位(15時間)
授業回数	8				
授業目標	何が基礎なのかを理解し、応用力を身につける。				
評価方法	小テスト32点・定期試験68点(計100点満点)・出席状況 *小テスト[当日授業内容が対象の小テストを各回ごとに行う。6割[平均点による]以上で1回につき4点を定期試験に加算]				
教科書名	最新歯科衛生士教本「歯・口腔の機能と構造 口腔解剖・口腔組織発生学・口腔生理学」 天野修著 他 医歯薬出版KK				
参考文献					
履修上の注意	授業中は私語を慎み、他人に迷惑をかけない。				
回	授業計画			到達目標	
1	◆歯の各部の名称◆歯の表示法◆歯の用語 ◆根管の形態◆ミュールライターの三徴候			歯の表示法や記号について説明できる。 歯の専門用語が使える。 歯の左右、近遠心、頬舌の識別が出来る。	
2	◆永久歯の形態学的特徴 切歯・上下顎側切歯・上下顎犬歯 歯・上下顎第二小臼歯			上下顎中 上下顎第一小臼	歯種を鑑別できる。 歯の形態を歯種別に説明できる。 歯の形態異常について説明できる。 図で示し、各部の名称が説明できる。
3	◆永久歯の形態学的特徴 第一大臼歯・上下顎第二大臼歯・上下顎第三大臼歯			上下顎第	歯種を鑑別できる。 歯の形態を歯種別に説明できる。 歯の形態異常について説明できる。 図で示し、各部の名称が説明できる。
4	◆永久歯との比較による乳歯の形態学的特徴 の形態学的特徴 上下顎乳側切歯・上下顎乳犬歯 下顎第二乳臼歯			◆乳歯 上下顎重中切歯・ 上下顎第一乳臼歯・上	乳歯と永久歯の違いを説明できる。 歯種の鑑別、歯の形態を歯種別に説明できる。 歯の形態異常について説明できる。 図で示し、各部の名称が説明できる。
5	◆特色ある歯の形態			◆咬合と歯列	歯の形態を歯種別に説明できる。 歯の形態異常について説明できる。 歯の萌出と交換を説明できる。 歯列
6	◆歯の構造と機能 牙質・歯髄			エナメル質・象牙	歯の構造と機能について説明ができる。
7	◆歯周組織の構造と機能 根膜・歯槽骨・歯肉			セメント質・歯	歯周組織の構造と機能について説明ができる
8	◆歯と歯周組織の発生◆口腔内の加齢変化◆口腔粘膜の感覚				歯の発生の概要を概説できる。 口腔 粘膜の感覚の変化を概説できる。 口腔・顎顔面の老化と歯の喪失に伴う変化を説明できる。

【 生化学口腔生化学 】 令和4年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	関 祐紀	実務経験	歯科医師。熊本大学医学部附属病院歯科口腔外科勤務。
授業との 関連性	大学病院歯科口腔外科での様々な研究や治療を踏まえ、生体やう蝕、歯周病のしくみについて講義する。		

履修学年・学期	1年後期	授業方式	講義	単位数	1単位(15時間)	授業回数	8
---------	------	------	----	-----	-----------	------	---

授業目標	口腔内を中心に生体内の生命現象を生化学的に理解する。	
評価方法	定期試験(100点満点)	
教科書名	最新歯科衛生士教本「人体の構造と機能2 栄養と代謝」高橋信博著 医歯薬出版KK	
参考文献		
履修上の 注意		
回	授業計画	到達目標
1	生命活動の概要①	生体の構成要素を理解する。
2	生命活動の概要②	生体内でおこる化学反応を理解する。
3	口腔組織の生化学 - 歯周組織 -	歯周組織について生化学的に理解する。
4	口腔組織の生化学 - 歯・骨 -	歯と骨について生化学的に理解する。
5	口腔組織の生化学 - 唾液 -	唾液について生化学的に理解する。
6	口腔組織の生化学 - う蝕 -	う蝕について生化学的に理解する。
7	口腔組織の生化学 - 歯周病 -	歯周病について生化学的に理解する。
8	総復習	今まで学習したことを整理する。

【 病理学 】 令和4年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	古田洋介 実務経験 歯科医師。歯科診療所院長。		
授業との関連性	臨床歯科医師としての様々な診察、治療の経験から病的な機能変化について講義する。		
履修学年・学期	1年前期	授業方式	講義
		単位数	1単位(15時間)
		授業回数	8
授業目標	病理学の基本的な考え方や要点を国家試験及び実際の臨床現場に活かせることを目標とする。		
評価方法	定期試験(100点満点)		
教科書名	最新「疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学」仙波伊知郎著 他 医歯薬出版KK		
参考文献	新歯科衛生士教本(第2版)病理学 (医歯薬出版)		
履修上の注意	授業に集中し、しっかりノートを取り、試験前に見てすぐ理解できるようにしておくこと。 専門用語は覚えるしかない。		
回	授業計画	到達目標	
1	病理学序論と病因論	①疾病の経過について説明できる。 ②脳死について説明できる。 ③内分泌疾患の代表例について説明できる。	
2	遺伝性疾患と奇形	①染色体、テロメアについて概説できる。 ②遺伝性疾患の代表例について説明できる。 ③染色体異常の代表例について説明できる。 ④奇形の発症と原因について説明できる。	
3	循環障害	①循環障害についてその種類と各々の定義について概説できる。 ②血栓症、塞栓症について説明できる。 ③動脈硬化症について概説できる。 ④側副循環について説明できる。	
4	代謝障害と退行性病変	①細胞傷害の転帰とその種類について各々列記できる。 ②変性の各種について列記できる。 ③萎縮の各種について列記できる。 ④壊死とアポトーシスの違いを説明できる。	
5	増殖と修復	①肥大の種類について概説できる。 ②化生の定義と代表例について説明できる。 ③細胞の再生能について列記でき代表例について説明できる。 ④創傷治療、異物処理について分類、説明できる。	
6	炎症	①炎症の定義について説明できる。 ②炎症の経過について説明できる。 ③炎症に関連する細胞を列記、各々を説明できる。 ④急性と慢性の炎症の経過について特徴を説明できる。 ⑤炎症の分類とそれぞれの状態について説明できる。	
7	免疫応答異常	①免疫応答について説明できる。 ②液性免疫と細胞性免疫について説明できる。 ③免疫応答の経時的変化について説明できる。 ④アレルギーの分類と各々について概説できその各々の代表例を列挙できる。	
8	腫瘍	①腫瘍の定義について説明できる。 ②腫瘍の原因、発声機序について説明できる。 ③腫瘍の種類とその代表例を列記できる。 ④良性と悪性の違いを列記できる。 ⑤前がん病変について説明できる。	

【 薬理入門 】 令和4年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	石塚忠男	実務経験	薬学博士(東京大学)。熊本大学大学院生命科学研究部(薬学系)教授。		
授業との関連性	薬学博士としての見識から薬物の組成や生体内での作用、取り扱いについて講義する。				
履修学年・学期	2年前期	授業方式	講義	単位数	1単位(15時間)
授業回数	8				
授業目標	薬物の作用を理解するための薬理学の基本概念を理解する。				
評価方法	定期試験(100点満点)				
教科書名	最新歯科衛生士教本「疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学」 王 宝禮著 医歯薬出版KK				
参考文献	授業用にプリントを配布しますので、利用して下さい。				
履修上の注意	①予習・復習をきちんとして下さい。 ②医療用医薬品に関しては添付文書を調べる習慣をつけて下さい。				
回	授業計画	到達目標			
1	総論1. 薬物の作用	薬物の作用について理解する。			
2	総論2. 薬物動態	薬物が体内でどのように吸収・分布し排泄されるかを理解する。			
3	総論3. 薬物の適用方法の種類と特徴	薬物の適用方法にどのようなものがあるかを知り、適用方法による違いを理解する。			
4	総論4. 薬物の作用に影響を与える要因	薬物の作用に影響する要因を知り、連用・併用による影響を理解する。			
5	総論5. 薬物の副作用、有害作用	薬物の有害作用の種類を知り、その原因を理解する			
6	総論6. 医薬品を適用する際の注意	患者の状態による医薬品の適用法の違いを理解し、適切な服薬指導が出来るようになる。			
7	総論7. 薬物の取り扱い	医薬品の剤形、保存方法を知り、処方せんにしたがった調剤について理解する。			
8	総論8. 薬物と法律・薬物と医薬品	医薬品等に関わる法律について理解する。			

【 薬理学 】 令和4年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	石塚忠男	実務経験	薬学博士(東京大学)。熊本大学大学院生命科学研究部(薬学系)教授。		
授業との関連性	薬学博士としての見識から疾病に対する各種薬物の作用機序について講義する。				
履修学年・学期	2年後期	授業方式	講義	単位数	2単位(30時間)
授業回数	15				
授業目標	①薬物の作用機序、効果、薬物動態、副作用などを勉強することにより、クスリを正しく使うことが出来るようになる。また、患者への、わかりやすい服薬指導が出来るようになる。 ②さまざまな疾病に対する治療薬とその作用機序が理解出来るようになる。				
評価方法	定期試験(100点満点)				
教科書名	最新歯科衛生士教本「疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学」 王 宝禮著 医歯薬出版KK				
参考文献	授業用にプリントを配布しますので、利用して下さい。				
履修上の注意	①予習・復習をきちんとして下さい。 ②医療用医薬品に関しては添付文書を調べる習慣をつけて下さい。				
回	授業計画	到達目標			
1	総論の総復習	薬理入門、で学習した薬理学の概念・用語を思い出し、各論を理解する準備を行う。			
2	各論1. ビタミンとホルモン	ビタミン、ホルモンの種類、働き、欠乏症などについて理解する。			
3	各論2. 末梢神経系に作用する薬物	末梢神経系の受容体と神経伝達物質について知り、それら受容体に関する作動薬と遮断薬について理解する			
4	各論3. 中枢神経系に作用する薬物	中枢神経系に作用する薬物として、全身麻酔薬、アルコール類、催眠薬・抗不安薬、抗痙攣薬、向精神薬などについて理解する。			
5	各論4. 循環器系に作用する薬物	高血圧、不整脈、心不全、狭心症、脂質異常症の治療薬について理解する。			
6	各論5. 腎臓、呼吸器系、消化器系に作用する薬物	腎臓の機能と利尿薬について理解する。気管支喘息治療薬、鎮咳薬、去痰薬について理解する。消化性潰瘍治療薬について理解する。			
7	各論6. 血液に作用する薬物	止血機構について理解する。止血薬、抗血栓薬、抗貧血薬について理解する。			
8	各論7. 免疫と薬	免疫応答について理解する。免疫抑制薬、免疫増強薬、抗アレルギー薬、ワクチンについて理解する。			
9	各論8. 抗悪性腫瘍薬、代謝性疾患治療薬	悪性腫瘍について知り、抗悪性腫瘍薬について理解する。糖尿病、骨粗鬆症治療薬について理解する。			
10	各論9. 炎症と薬	炎症について理解する。抗炎症薬、解熱鎮痛薬について理解する。			
11	各論10. 痛みと薬	痛みについて理解する。鎮痛薬について理解する。			
12	各論11. 局所麻酔薬	局所麻酔薬について知り、作用機序を理解する。			
13	各論12. 抗感染症薬1	感染症と感染症治療について理解する。			
14	各論13. 抗感染症薬2	抗感染症薬について、分類と作用を理解する。			
15	各論14. 消毒に使用する薬	消毒薬の作用機序を知り、主な消毒薬を種類別に理解する。			

【 微生物学 】 令和4年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	諸富 静香	実務経験	歯科医師。熊本大学病院勤務。				
授業との関連性	大学病院歯科口腔外科医としての研究や治療経験を踏まえ、感染症の原因となる病原菌の性状や発達について講義する。						
履修学年・学期	1年前期	授業方式	講義	単位数	2単位(30時間)	授業回数	15
授業目標	う蝕や歯周病などの歯科疾患の多くは微生物による感染症である。微生物の概念、生態との関係について学び、微生物学的観点から各疾患を捉える知識を習得する。						
評価方法	定期試験(100点満点)						
教科書名	最新歯科衛生士教本「疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学」 木村重信著 他 医歯薬出版KK						
参考文献	1. 戸田新細菌学 南山堂 2. 口腔微生物学 免疫学 医歯薬出版						
履修上の注意	教本、授業プリントを持参してください。						
回	授業予定			到達目標			
1	微生物学概論 ー微生物学の発達と歴史ー			微生物の概念と微生物学発展の歴史を理解する。			
2	微生物の一般的性状 (細菌とウイルスの違いについて)			微生物の種類を知り、その違いを理解する。			
3	微生物の培養法と観察方法 (各種培養法および顕微鏡の種類・使い分け)			微生物学における実験の手技を理解する。			
4	感染と発症 (微生物VS宿主、感染経路と感染症の種類)			感染の概念を理解する。			
5	免疫① (免疫のしくみとその種類)			免疫の概念を理解する。			
6	免疫② (免疫機構のバランスについて ーアレルギーや自己免疫疾患を中心としてー)			生体がどのような機構で免疫のバランスを保ち、それがくずれるとどうなるかを理解する。			
7	病原微生物各論① (グラム陽性、陰性菌)			一般病原菌について、その種類と違い、特徴を理解する。			
8	病原微生物各論② (ウイルス、その他の微生物)			ウイルスやその他の微生物について、その種類と違い、特徴を理解する。			
9	化学療法 (各微生物に対する化学療法とその作用機序)			化学療法の種類、使い分けとその作用機序を理解する。			
10	滅菌と消毒 (各種滅菌法について)			滅菌・消毒の概念と違いを理解し、臨床現場で用いられている各種滅菌法を身につける。			
11	口腔内常在微生物 (口腔内の微生物と感染防御機構)			口腔内環境について知り、常在微生物と感染防御機構の関係について理解する。			
12	う蝕症(微生物学的観点からみたらう蝕症)			う蝕症が細菌感染症であることを理解し、う蝕関連の感染症についても理解を深める。			
13	歯周病 (歯周病の種類と病原菌)			歯周病の病態と病原菌の関わりについて知り、その予防法についてまで知識を広げる。			
14	全身の感染症と口腔内症状 (感染症と口腔症状の関係)			全身における感染症が口腔内症状にどのような影響を与えるか、その原因と実際の症状を知る。			
15	総まとめ (過去14回の講義の補足と試験対策)			国家試験対策も視野に入れた総まとめ。			

【 口腔衛生学 】 令和4年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	新谷泰之	実務経験	歯科医師。麻生ビューティーカレッジ、九州医療スポーツ専門学校、九州医療専門学校非常勤講師。歯科診療所院長。
授業との関連性	臨床歯科医師、専門学校非常勤講師としての経験を踏まえ、歯・口腔の健康と予防の基礎、う蝕・歯周疾患の発生機序、予防手段について講義する。		
履修学年・学期	1年前期	授業方式	講義
		単位数	2単位(30時間)
		授業回数	15
授業目標	国家試験に合格する学力を身につける。卒業後の臨床現場で戸惑わない基礎学力を修得する。		
評価方法	定期試験(100点満点)		
教科書名	最新歯科衛生士教本「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学第3版」 可児徳子著他 医歯薬出版KK		
参考文献	「歯科衛生士国家試験問題集」		
履修上の注意			
回	授業計画	到達目標	
1	1章 1-1「歯・口腔の健康と予防」の定義 1-2「歯・口腔の健康と予防」の基礎 1-3「歯・口腔の健康と予防」の方法 1-4「歯・口腔の健康と予防」と健康づくり	①健康の定義を知る。 ②健康増進と疾病予防の3つの場を覚える。 ③1～3次予防の概念を理解する。 ④8020運動を理解する。	
2	1章 2-1 歯・口腔の構造 2-2 歯・口腔の発生と成長・発育 1) -2)	①歯及び口腔組織の構造と名称を覚える。 ②唾液の機能を理解する。 ③外胚葉、内胚葉、中胚葉及び間葉に由来する組織を知る。	
3	1章 2-2歯・口腔の発生と成長・発育 3)～9)	①歯の石灰化及び萌出時期を覚える。 ②五大栄養素やホルモンが口腔形成に及ぼす影響を理解する。 ③口腔の形成異常について理解する。	
4	1章 2-3歯・口腔の機能 2-4口腔の健康と全身の健康	①咀嚼・嚥下について理解する。 ②誤嚥性肺炎について理解する。 ③口腔と全身の健康(歯周病と糖尿病、早産)について理解する。	
5	1章 3-1 ペリクル 3-2 プラーク 3-3 歯石 3-4 舌苔 3-5 外来性色素沈着物	①プラークの生態について深く理解する。 ②ペリクルと細菌の付着機構について理解する。 ③バイオフィルムの概念を十分に理解する。 ④歯石について理解する。 ⑤S.mutansとGTFの関係を理解する。	
6	3章 歯科疾患の疫学 4章 1 う蝕発生のメカニズム 2-1. 2 う蝕の発生要因	①う蝕、歯周病等の疫学を概説する。 ②う蝕発生のメカニズムを脱灰のキーワードで理解する。 ③う蝕発生要因の宿主と歯、口腔細菌、発酵性糖質の関係を理解する。	
7	4章 2-3 う蝕発生に関わる要因 2-4 う蝕発生機序	①う蝕感受性が高い年齢と性別、菌種と歯面、唾液の緩衝能について理解する。 ②ミュータンスレンサ球菌のう蝕誘発性を3つ挙げられる。 ③ステファンカーブを理解する。	
8	4章 3 う蝕活動性 4 う蝕の予防法	①各う蝕活動性試験の検体と評価内容を覚える。 ②う蝕発生の第1～3次予防を理解する。 ③発生要因に対する予防法を理解する。 ④MI(Minimal Intervention)について理解する。	
9	5章 1 我が国のフッ化物応用 2 フッ化物の一般性状と用語 3 人間生態系におけるフッ化物 4 フッ化物摂取量とその基準 5 フッ素の代謝	①日本のフッ化物応用の歴史と現状を理解する。 ②フッ化物の摂取量とその基準をはっきりと覚える。 ③フッ素の代謝を理解する。	
10	5章 6 フッ化物の毒性 7 フッ化物応用によるう蝕予防法	①急性毒性、致死量をはっきりと覚える。 ②慢性毒性を理解する。 ③ppmと%の関係、フッ素濃度に関する基礎を学ぶ。 ④フッ化物歯面塗布の手法と溶液の種類を理解する。 ⑤フッ化物洗口について習熟する。	
11	5章 7 フッ化物応用によるう蝕予防法 8 フッ化物のう蝕予防メカニズム 9 ライフステージに応じたフッ化物応用法	①フッ化物の局所と全身応用の方法について理解する。 ②フッ化物のう蝕予防機序を理解する。 ③ライフステージ別の新しいフッ化物応用法を学ぶ。 ④フッ化物配合歯磨剤に対する新しい考え方を学習する。	
12	6章 1 歯周疾患の症状と分類 2 歯周疾患の発生機序	①歯周組織の構造を覚える。 ②歯肉炎と歯周炎の定義と分類を覚える。 ③歯周疾患の症状を知る。 ④歯周疾患の発生機序を理解する。	
13	6章 3 歯周疾患の全身に与える影響 4 歯周疾患の予防手段と処置	①ペリオドンタルメディスンを理解する。 ②歯周疾患の予防手段と処置を理解する。 ③歯周疾患のリスクファクターについて理解する。 ④定期的予防処置の重要性について理解する。	
14	7章 1 口内炎 2 口腔癌 3 不正咬合 4 顎関節症 5 歯の形成不全 6 口臭症 7 口腔乾燥症	口内炎、口腔癌、不正咬合、顎関節症、歯の形成不全、口臭、口腔乾燥症について分類、要因、予防について概説する。	
15	案①2章 1 口腔清掃の意義 2-1. 2. 3 口腔清掃法 3-1. 2. 3 人工的清掃法の分類と用具 4 不適切な口腔清掃法による有害作用 5 歯磨剤と洗口剤 案②アンケートなどでわからなかった所の復習	①刷掃用具の種類と使用法を習熟する。 ②染め出し剤の色素名を覚える。 ③不適切な刷掃法の有害作用を理解する。 ④歯磨剤と洗口剤の組成とその効能を覚える。	

【 衛生公衆衛生学 】 令和4年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	弘中美貴子	実務経験	歯科医師。歯学博士。日本口腔衛生学会認定医・専門医。日本抗加齢医学会専門医。九州歯科大学口腔衛生学講座臨床研修医、国立予防衛生研究所歯科衛生部研究員、歯科診療所副院長。
授業との関連性	口腔衛生学会認定医、また抗加齢医学専門医としての様々な臨床経験を踏まえ、健康を守るための基礎的な知識や社会制度と社会の出来事が健康に与える影響について講義する。		

履修学年・学期	1年前期	授業方式	講義・演習	単位数	2単位(30時間)	授業回数	15
---------	------	------	-------	-----	-----------	------	----

授業目標	1. 健康とは何か。日本人と世界の健康の現状を知る。 2. 健康を損なわせる疾病について原因と病態を知り、個人レベルでの予防と集団や行政レベルでの予防について考え学ぶ。 3. 将来、自分と家族の健康をまもっていくための基本的知識と社会制度を習得する。 4. 国家試験に合格できるだけの知識を習得する。		
評価方法	定期試験(100点満点) Moodleの小テストの履修状況と評定、グループ発表の内容やパフォーマンスを加点評価する(0~10点)		
教科書名	最新歯科衛生士教本「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学第3版」 可児徳子著他 医歯薬出版KK		
参考文献	厚生統計協会 編「国民衛生の動向」(厚生統計協会)		
履修上の注意	・新聞やニュースをチェックし、現在、身の回りや世界で起きている出来事が、自分や家族の生活と健康に与えている影響を考えること。 ・配布された資料はファイリングして、整理し、毎回持参すること。 ・Moodleを使用するのでネットにつながる端末を用意すること(スマートフォンでも可)		
回	授業計画	到達目標	
1	第1章:総論 Moodle導入 宿題:難病	①健康の概念 ②プライマリーヘルスケアとヘルスプロモーション ③予防医学と予防の段階	
2	小テスト(1) 第2章:疫学	①疫学とは何か ②難病といわれる疾病を覚える。	
3	小テスト(2) 第2章:疫学(2)	①罹患率と有病率 ②疫学の方法と倫理	
4	第3章:人口(1)	①動態統計と静態統計の違いを理解する。 ②人口統計と統計用語 ③出生・死亡の統計	
5	第3章:人口(2)	①平均寿命 ②世界の人口 ③まとめ	
6	小テスト(3) 第4章:環境(1) 宿題:グループ学習(環境)	①概念 ②空気と水 ③放射線	
7	第4章:環境(2)グループ学習の発表	地球環境と公害	
8	第4章:環境(3)グループ学習の発表	①まとめ ②廃棄物処理	
9	第5章:感染症(1)	①感染症の用語を覚える ②感染症の分類と分類された感染症を覚える。 ③感染症の予防と対策を知る。	
10	第5章:感染症(2) パワーポイント	①感染症に分類された病気について詳しく理解する。	
11	第5章:感染症(3) まとめ 小テスト(4)	①ニュースになった感染症を新聞記事で履修する ②予防接種 ③感染症についての理解を深める	
12	小テスト(5) 第6章:食品と健康(1) 計算機持参	①メタボリックシンドロームについて理解する。 ②BMIが計算できる。 ③食中毒の疫学、分類、原因を理解する。	
13	第6章:食品と健康(2) Ⅲ. 第7章:精神保健(1) 宿題:グループ学習(精神保健)	①食中毒の小テスト ②精神保健の意義を知る。 ③心の健康と行動を理解する。 ④精神保健対策の法律を理解する。 ⑤虐待について知る。	
14	Ⅲ. 第7章:精神保健 グループ学習の発表 全体の総括	①精神障害の分類と特性、病態を理解する。 ②発達障害の分類と特性を理解し、対応を考える。 ③最重要ポイントを再確認する。	
15	まとめ学習 わかりにくかったところを重点的に	①疫学 ②人口統計 ③感染症の分類 などを予定	

【 歯科衛生学Ⅰ 】 令和4年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	岩切恵子	実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院教務主任。
授業との関連性	全衛協認定歯科衛生士専任教員として、歯科衛生士法における法的業務と歯科衛生士の社会的使命や活躍の場面について講義や演習を行う。		

講師名	野中友紀子	実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。同教育委員。本学院専任教員。
授業との関連性	歯科衛生士としての臨床経験や全国歯科衛生士教育協議会認定歯科衛生士専任教員、また教育委員としての指導経験をおとして、歯科衛生活動を展開するための歯科衛生過程の講義と演習を行う。		

履修学年・学期	1年前後期	授業方式	講義・演習	単位数	1単位(30時間)	授業回数	15
---------	-------	------	-------	-----	-----------	------	----

授業目標	歯科衛生士の系統専門学問である歯科衛生学について理解を深め、医療専門職としての認識を持つ。また、歯科衛生士法における法的業務の解釈を理解し、国家資格である歯科衛生士の社会における役割を理解する。 科学的根拠をもって歯科衛生活動を展開するためのツールである歯科衛生過程の概要を理解することができる。
------	---

評価方法	定期試験(100点満点→岩切70点、野中30点) 提出物×切厳守。減点対象になることもあります。
------	---

教科書名	①最新歯科衛生士教本「歯科衛生学総論」 遠藤圭子著他 医歯薬出版KK ②最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版」遠藤圭子著他 医歯薬出版KK ③「よくわかる歯科衛生過程」遠藤圭子著他 医歯薬出版KK
------	--

参考文献	1. 「歯科衛生士のための高齢者とのグッドコミュニケーション」中村千賀子著 医歯薬出版 2. 「生活の医療」大久保満男著 中央公論新社 3. 最新歯科衛生士教本「心理学」医歯薬出版
------	--

履修上の注意	授業中は話している内容を聞きながら記録をとるようにしてください。 配布資料は毎回持参し綴じておくこと。 後期からの日程は変更になることもあります。
--------	---

回	授業計画	到達目標
1	(岩切恵子) 医療専門職になるにあたって 1章 「歯科衛生学」とは何か 健康とは何か 健康と疾病、病気の捉え方 5章 歯科衛生士とは何か。 歯科衛生士法の性格と業務内容 歯科衛生士の定義	1. 歯科衛生士になるための心構えが理解でき今後実践することができる。 2. 「歯科衛生学」とは何か、簡単に述べることができる。 3. 「健康」とは何か、説明することができる。 4. 「疾病」と「病気」の違いを医療専門職の観点から説明できる。 5. 歯科衛生士とはどのような医療専門職か説明できる。 6. 歯科衛生士の社会的責任について説明できる。 7. 歯科衛生士の定義について説明できる。
2	(岩切恵子) 5章 歯科衛生士業務の法的性格 (1)歯科予防処置 (2)歯科診療の補助 (3)歯科保健指導 歯科衛生士の義務	1. 歯科衛生士法の要点を説明できる。 2. 「歯科医師の指導の下に」の意味が説明できる。 3. 独占業務(第2条)について説明できる。 4. 歯科予防処置としての歯石除去と歯科診療補助業務としての歯石除去の違いが説明できる。 5. 歯科診療「補助」と「介助」の違いが説明できる。 6. 絶対的歯科医行為と相対的歯科医行為が説明できる。 7. 歯科診療の補助業務としての妥当性について説明できる。 8. 歯科衛生士の義務を説明できる。
3	(岩切恵子) 歯科衛生士法の復習 2章 歯科衛生の歴史と発展	1. 前回学んだ歯科衛生士法の重要な事項を再確認することができる。 2. 歯科衛生士の教育、発展について年次を追って簡単に説明できる。
4	(岩切恵子) 7章 歯科衛生士の活動と組織 (1)歯科衛生士の動向 (2)歯科衛生士の就職先 歯科医療保健に携わる人(マンパワー)と多職種連携	1. 全国の就業歯科衛生士数を知り自身の役割を考える。 2. 全国の就業歯科衛生士数と就業先分布を把握する。 3. 行政が関わる国民健康増進のための施策を列記し、簡単に説明することができる。 4. 歯科医療に関わるマンパワーを列記できる。 5. 多職種の名称と法的業務や役割を簡単に説明できる。
5	(岩切恵子) 7章 歯科衛生士と組織 8章 諸外国の歯科衛生士 これからの歯科衛生士	1. 歯科衛生士の能力向上のための組織や各種認定制度を知る。 2. 諸外国の歯科衛生士の業務について知る。

回	授業計画	到達目標
6	(野中友紀子) 4章 歯科衛生過程(教本①) 歯科衛生過程の概要1 歯科衛生過程の必要性とは 3章 歯科衛生活動のための理論 (教本①P20～31) 資料 1. 歯科衛生過程の概要1要綱 2. スライド ※スライドと教本に沿って要綱にポイントを記入	1. 歯科衛生過程を活用する意義を説明することができる。 2. 歯科衛生過程の概要を説明できる。 3. 歯科衛生過程のプロセスと構成要素を列挙できる。 4. クリティカルシンキングについて説明できる。 5. ヒューマンニーズ理論について説明できる。 6. DarbyとWalshのヒューマンニーズ概念モデルについて説明できる。
7	(野中友紀子) 4章 歯科衛生過程(教本①) 歯科衛生過程の概要2 歯科衛生過程の構成 資料 1. 歯科衛生過程の概要2要綱 2. スライド ※スライドと教本に沿って要綱にポイントを記入	1. 歯科衛生アセスメントおよび歯科衛生診断の概要を説明できる。 2. 歯科衛生計画立案の概要を説明できる。 3. 歯科衛生介入の概要を説明できる。 4. 歯科衛生評価の概要を説明できる。
8	4章 歯科衛生過程(教本①) 書面化の意義とは POS理論の概要 資料 1. 歯科衛生過程の概要2要綱 2. スライド ※スライドと教本に沿って要綱にポイントを記入	1. POS理論について概説できる。 2. SOAPについて概説できる。
9	(野中友紀子) 4章 歯科衛生過程(教本①②③) 書面化の導入問題提示、説明	1. SOデータの基本的な分類法を説明できる。 2. 練習問題のSデータを抽出することができる。 3. 練習問題のOデータを抽出することができる。 4. 模擬症例の情報を読み込むことができる。
10	(野中友紀子) 情報収集と分析方法1(教本①②③) POS理論とその応用 模擬症例を用いSOAPを実施 症例:佐藤詩音 資料1～3 症例を読み込み個人ワーク	1. 模擬症例のSOデータを読み込むことができる。 2. 模擬症例のSデータを抽出することができる。 3. 模擬症例のOデータを抽出することができる。 4. 模擬症例のSOデータよりアセスメント内容を記録することができる。 5. 模擬症例の歯科衛生介入計画を立案することができる。
11	(野中友紀子) 情報収集と分析方法1(教本①②③) POS理論とその応用 SOAP内容の再計画 症例:佐藤詩音 資料1～3	1. SOAPに対する指導事項に沿って、情報を見直すことができる。 2. SOAPを再検討し書面化することができる。 3. 自身の考えを発表する準備ができる。
12	(野中友紀子) ヒューマンニーズ分類とクリティカルシンキング 症例発表①	1. 模擬症例の情報と問題点、その原因を自身の考えで発表することができる。 2. 他者の発表を聞き、改善点を検討することができる。 3. 他者の発表を聞き自己のアセスメント内容の振り返りができる。
13	(野中友紀子) 情報収集と分析方法2 POS理論とその応用 相互演習	1. 学生相互のSOデータを読み込むことができる。 2. 学生相互のSデータを抽出することができる。 3. 学生相互のOデータを抽出することができる。 4. 学生相互のSOデータよりアセスメント内容を記録することができる。 5. 学生相互の歯科衛生介入計画を立案することができる。
14	(野中友紀子) 情報収集と分析方法2(教本①②③) POS理論とその応用 相互演習にてSOAP分類	1. SOAPに対する指導事項に沿って、情報を見直すことができる。 2. SOAPを再検討し書面化することができる。 3. 自身の考えを発表する準備ができる。
15	(野中友紀子) ヒューマンニーズ分類とクリティカルシンキング 症例発表②	1. 学生相互の情報をもとに、SOデータ、問題点、その原因を自身の考えで発表することができる。 2. 他者の発表を聞き、改善点を検討することができる。 3. 他者の発表を聞き自己のアセスメント内容の振り返りができる。 4. 歯科衛生評価までの流れを説明することができる。

【 歯科衛生学Ⅲ 】 令和4年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	野中友紀子	実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。同教育委員。本学院専任教員。
授業との関連性	歯科衛生士としての臨床経験や全国歯科衛生士教育協議会認定歯科衛生士専任教員、また教育委員としての指導経験をとおして、歯科衛生活動を展開するための歯科衛生過程の講義と演習を行う。		

履修学年・学期	3年前期	授業方式	講義・演習・オンライン	単位数	1単位(30時間)	授業回数	15
---------	------	------	-------------	-----	-----------	------	----

授業目標	歯科衛生士として、生涯を通じた口腔保健管理を行う専門職となるために、科学的根拠に基づいた知識や技術を実践するために、情報の収集・分析を行い、問題を解決していく能力を「歯科衛生過程」の考えを基に身につける。また、書面化の意義を理解し、歯科衛生活動の記録法を演習を交え修得する。
------	---

評価方法	定期試験(80点満点)・提出物(記録方法)・歯科衛生アセスメント内容のルーブリック評価(約15点加点) ・歯科衛生過程一斉ワーク活動内容を加点(5点) ・提出期限遅れは減点対象となります。
------	---

教科書名	①最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版」遠藤圭子著他 医歯薬出版KK ②「よくわかる歯科衛生過程」遠藤圭子著他 医歯薬出版KK ③最新歯科衛生士教本「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学第3版」可児徳子著他 医歯薬出版KK
------	---

参考文献	医歯薬出版KK「口腔保健管理」「歯科衛生ケアプロセス実践ガイド」 日総研出版「ベストティーチャーが教える！看護過程目からウロコの教え方&学び方」
------	---

履修上の注意	1. 持参する教本などは、その都度指示をします。 2. 継続的指導管理を行うために、主要三教科で今までに学んだ項目について理解しておくことが必須であるため復習しておく。 3. 演習の前は、必ず各自で論理的に思考し提出する。(提出後に演習とする) 4. グループワークでは積極的に発言し協調を保つこと。 5. 感染予防に努めながらグループワークへ参加すること。持参物 フェイスシールド 6. 学科目「保健指導法」「歯科診療補助法」と連携しながら進めます。時間割の確認を徹底してください。 7. グループワークをオンラインで実施することもあります。指定時間に出席の確認ができなければ欠席とみなします。
--------	--

回	授業計画	到達目標
1	保護者対面実習1 歯科衛生アセスメントから歯科衛生診断 ～クリティカル思考にて検討	1. 歯科衛生アセスメントから歯科衛生診断までをクリティカル思考をもって見直し、自身の意見を述べるができる。 2. 診断句にもとづいた長期目標を立案することができる。 3. 班員と協調しながら歯科衛生アセスメントおよび目標の立案ができる。
2	保護者対面実習2 歯科衛生アセスメントから歯科衛生診断の完成 ～クリティカル思考にて検討	1. 歯科衛生アセスメントから歯科衛生診断までをクリティカル思考をもって見直し、自身の意見を述べるができる。 2. 診断句にもとづいた長期目標を立案することができる。 3. 原因句にもとづいた短期目標を立案することができる 3. 班員と協調しながら目標の立案ができる。
3	保護者対面実習3 歯科衛生計画立案(長期目標・短期目標の設定) ～クリティカル思考にて検討	1. 原因句にもとづいた短期目標を立案することができる。 2. 短期目標の達成期日の設定ができる。 3. 短期目標ごとに歯科衛生計画立案(C-P, E-P, O-P)ができる。 2. 班員と協調しながら歯科衛生計画立案ができる。
4	保護者対面実習4 歯科衛生計画立案(ケア計画・教育計画・観察計画) ～クリティカル思考にて検討 歯科衛生士の復習 歯科衛生士業務の理解	1. 短期目標ごとに歯科衛生計画立案(C-P, E-P, O-P)ができる。 2. 歯科衛生計画内容は歯科衛生士の専門性を示す内容で立案することができる。 3. 班員と協調しながら歯科衛生計画立案ができる。
5	保護者対面実習5 歯科衛生計画立案(ケア計画・教育計画・観察計画) ～クリティカル思考にて検討 歯科衛生士の復習 歯科衛生士業務の理解	1. 短期目標ごとに歯科衛生計画立案(C-P, E-P, O-P)ができる。 2. 歯科衛生計画内容は歯科衛生士の専門性を示す内容で立案することができる。 3. 歯科衛生計画立案を完成することができる。 4. 歯科衛生計画立案内容を全体のニーズとの関連を考え、見直すことができる。 5. 班員と協調しながら歯科衛生計画立案ができる。
6	保護者対面実習6 歯科衛生計画立案(ケア計画・教育計画・観察計画) ～クリティカル思考にて検討 歯科衛生士の復習 歯科衛生士業務の理解	1. 短期目標ごとに歯科衛生計画立案(C-P, E-P, O-P)ができる。 2. 歯科衛生計画内容は歯科衛生士の専門性を示す内容で立案することができる。 3. 歯科衛生計画立案を完成することができる。 4. 歯科衛生計画立案内容を全体のニーズとの関連を考え、見直すことができる。 5. 班員と協調しながら歯科衛生計画立案ができる。
7	保護者対面実習7 歯科衛生計画立案(ケア計画・教育計画・観察計画) ～クリティカル思考にて再検討 歯科衛生介入の流れ確認 説明用媒体の作成	1. 短期目標ごとに歯科衛生計画立案(C-P, E-P, O-P)ができる。 2. 歯科衛生計画内容は歯科衛生士の専門性を示す内容で立案することができる。 3. 歯科衛生計画立案を完成することができる。 4. 歯科衛生計画立案内容を全体のニーズとの関連を考え、見直すことができる。 5. 班員と協調しながら歯科衛生計画立案ができる。

回	授業計画	到達目標
8	保護者対面実習8 歯科衛生計画立案(ケア計画・教育計画・観察計画) ～クリティカル思考にて再検討 歯科衛生介入の流れ確認 説明用媒体の作成	1. 短期目標ごとに歯科衛生計画立案(C-P, E-P, O-P)ができる。 2. 歯科衛生計画内容は歯科衛生士の専門性を示す内容で立案することができる。 3. 歯科衛生計画立案を完成することができる。 4. 歯科衛生計画立案内容を全体のニーズとの関連を考え、見直すことができる。 5. 班員と協調しながら歯科衛生計画立案ができる。
9	保護者対面実習9 歯科衛生計画立案(ケア計画・教育計画・観察計画) ～クリティカル思考にて再検討 歯科衛生介入の流れ確認 説明用媒体の作成	1. 保護者対面実習オリエンテーション後に、短期目標ごとに歯科衛生計画立案(C-P, E-P, O-P)を見直すことができる。 2. 歯科衛生介入の流れを見直すことができる。 3. 歯科衛生介入の手技を確認することができる。 4. 対象者へ必要な説明用媒体を作成することができる。 5. 班員と役割分担しながら検討することができる。
10	保護者対面実習10 歯科衛生計画立案(ケア計画・教育計画・観察計画) ～クリティカル思考にて再検討 歯科衛生介入の流れ確認 説明用媒体の作成	1. 保護者対面実習ロールプレイ後に、短期目標ごとに歯科衛生計画立案(C-P, E-P, O-P)を見直すことができる。 2. 歯科衛生介入の流れを見直すことができる。 3. 歯科衛生介入の手技を確認することができる。 4. 対象者へ必要な説明用媒体を作成することができる。 5. 班員と役割分担しながら検討することができる。 6. ワーク終了後成果物を担当者へ提出することができる。
11	保護者対面実習11 歯科衛生計画立案(ケア計画・教育計画・観察計画) ～クリティカル思考にて再検討 歯科衛生介入の流れ確認 説明用媒体の作成	1. 保護者対面実習ロールプレイ後に、短期目標ごとに歯科衛生計画立案(C-P, E-P, O-P)を見直すことができる。 2. 歯科衛生介入の流れを見直すことができる。 3. 歯科衛生介入の手技を確認することができる。 4. 対象者へ必要な説明用媒体を作成することができる。 5. 班員と役割分担しながら検討することができる。
12	保護者対面実習12 歯科衛生評価・歯科衛生計画再検討	1. 保護者対面実習ロールプレイ後に、短期目標ごとに歯科衛生計画立案(C-P, E-P, O-P)を見直すことができる。 2. 歯科衛生介入の流れを見直すことができる。 3. 歯科衛生介入の手技を確認することができる。 4. 対象者へ必要な説明用媒体を作成することができる。 5. 班員と役割分担しながら検討することができる。
13	保護者対面実習13 歯科衛生評価・歯科衛生計画再検討 症例発表準備	1. 歯科衛生介入後の評価を実施することができる。 2. 歯科衛生計画内容を再検討することができる。 3. 対象者の満足度を評価することができる。 4. 目標達成度を評価することができる。 5. 実施した内容を歯科衛生士の視点で総合評価することができる。
14	保護者対面実習14 症例発表 歯科衛生アセスメントから歯科衛生評価までの概要説明	1. アセスメントおよび介入した計画から評価、再計画までを班の皆と協力しわかり易く発表することができる。 2. 発表した内容に対しての質問や指摘について省察し仮定を立てることができる。
15	保護者対面実習15 症例発表 歯科衛生アセスメントから歯科衛生評価までの概要説明 演習時の活動貢献度の相互評価を実施	1. アセスメントおよび介入した計画から評価、再計画までを班の皆と協力しわかり易く発表することができる。 2. 発表した内容に対しての質問や指摘について省察し仮定を立てることができる。 3. 班員の演習時の活動貢献度について相互評価を行うことができる。 4. 自身の演習への貢献度を振り返ることができる。

【 医療倫理 】 令和4年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	伊藤明彦	実務経歴	(一社)熊本県歯科医師会会長。歯科医師。歯科診療所院長。
授業との関連性	歯科医師会会長の重責を担う立場から医療人としての倫理観について講義する。		
講師名	東 克章	実務経歴	本学院学院長。歯科医師。歯学博士。日本歯周病学会指導医、専門医。東京医科歯科大学第二保存学教室入局を経て歯科診療所院長。歯科医師。医学博士。歯科診療所副院長。
授業との関連性	本学院学院長の立場から重責を担う立場として医療人としての倫理観について講義する。		
講師名	秋山 清	実務経歴	本学院副学院長。歯科医師。歯科診療所院長。
授業との関連性	歯科医師としてこれまでの臨床歯科医療での経験を踏まえ、患者中心の医療や歯科衛生士として必要な倫理観について講義する。		

履修学年・学期	1年前期	授業方式	講義	単位数	1単位(15時間)	授業回数	8
---------	------	------	----	-----	-----------	------	---

授業目標	1. 医療人としての使命を確認し、どのようにすればそれが果たせるか自分の気持ち、行動を確認、修得する。 2. 新しい医の倫理の原則を学ぶとともに、歯科衛生士に求められる医療人としての心構えやインフォームドコンセントに基づいた患者対応、医療現場で必要となるコミュニケーションやその基礎となる行動科学を学ぶ。		
評価方法	定期試験(100点満点)		
教科書名	最新歯科衛生士教本「歯科医療倫理 第2版」 櫻 則章著他 医歯薬出版KK		
参考文献	歯科医療倫理Q&A 大井賢一、木坂昌知 著 太陽出版 倫理学入門 品川哲彦著 中公新書		
履修上の注意	1. 医療人としてだけでなく、人として自分の倫理観に照らし合わせながら、自分の中で消化し取り入れてゆく。 2. 素直で純粋な心で学ぶ。 3. 将来の様々な場面で他者との関係を踏まえて正しい行動をとれるように学ぶこと。 4. 私語の禁止。 5. 素直な気持ちで聴く。		
回	授業計画	到達目標	
1	(伊藤明彦) 一般的心構え 医療人としての心構え	1. 自分を見つめ直し、使命を果たす力を習得する。 2. 社会貢献について考える。色々な患者さんの背景を考える力を習得する。 3. 患者と向かい合う姿勢(心と態度)を習得する。 4. 守秘義務と世の中とのかかわり方を習得する。	
2	(東 克章) 歯科衛生士としての倫理観	1. 患者に対していたわりをもって接することができる。 2. プライバシーの厳守ができる。 3. 医療人としての身だしなみができる。 4. 自己の健康管理ができる。	
3	(秋山 清) なぜ医療倫理を学ぶのか ○伝統的な医の倫理から新しい医の倫理(医療倫理)へ ○患者中心の医療	時代とともに変化してきた医の倫理について学び、歯科衛生士として必要な倫理観を身につけ、医療倫理、患者中心の医療とは何かを理解する。	
4	(秋山 清) 医療倫理に関する規範とバイオエシックス(生命倫理学)研究と医療倫理	医療従事者の職業倫理に関する規範、患者の権利、人を対象とする医学研究の倫理、生命倫理学、生と死に関する倫理、医療技術の発達に伴う問題を理解する。	
5	(秋山 清) インフォームド・コンセント	インフォームドコンセント・インフォームドチョイスなどについて説明できる。これらの倫理的意義、倫理的要求について述べることができる。 セカンドオピニオンについて説明できる。	
6	(秋山 清) QOL、クオリティ・オブ・ライフ(生活の質)	歯科医療に於けるQOLの向上について説明ができ、歯科衛生士としてQOLにどのようにかわるかを理解する。	
7	(秋山 清) 行動科学	生活行動に於ける中で保健行動とは何か。また患者をどのように理解するかを学ぶ。	
8	(秋山 清) コミュニケーション 総まとめ(試験対策)	歯科衛生士として個々の患者及び他職種とのチームアプローチについてコミュニケーションをどのようにとるかを説明できる。	

【 歯科臨床総論 】 令和4年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	長野靖弘			実務経歴	歯科医師。歯科診療所院長。熊本県歯科医師会常務理事。		
授業との関連性	歯科医師としてこれまでの臨床歯科医療の経験を通して、歯科臨床総論の一連の流れについて講義する。						
履修学年・学期	1年後期	授業方式	講義	単位数	1単位(15時間)	授業回数	8
授業目標	歯科診療所での日常、各ライフステージに関わる歯科臨床と歯科衛生士の関係など、歯科医療を担う一員となるための理解を深めることができるように、歯科衛生士の役割を自覚してもらう。						
評価方法	定期試験(100点満点)						
教科書名	「歯科衛生士のための歯科臨床概論 第2版」 石川達也著 医歯薬出版KK 「イラストで楽しく学ぶ デンタルオフィス入門」 対馬ゆか 他著 医歯薬出版KK						
参考文献							
履修上の注意	教本、プリント、パワーポイントを用いて講義します。						
回	授業計画			到達目標			
1	オリエンテーション			職業倫理観・医療倫理観を述べるができる。			
2	歯科診療と歯科診療所における業務			歯科診療と歯科診療所における業務の概要を理解する。			
3	歯科診療所における安全管理			歯科における安全管理を理解する。			
4	診査、検査、小児歯科・矯正			診査、検査、小児歯科・矯正の概要を理解する。			
5	口腔外科・歯科保存			口腔外科・歯科保存の概要を理解する。			
6	歯周治療・歯科補綴			歯周治療・歯科補綴むむの概要を理解する。			
7	障害者歯科・高齢者歯科・訪問歯科診療			障害者歯科・高齢者歯科・訪問歯科診療の概要を理解する。			
8	試験対策			教本・国家試験過去問を用い、総括を行う。			

【 保存修復学 】 令和4年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	金本良久	実務経験	歯科医師。九州大学歯学部第一保存科を経て歯科診療所院長。
授業との関連性	大学保存科在籍と臨床歯科医師としての経験を踏まえ、直接修復、間接修復などの手順、基礎知識、歯科衛生士の役割について講義する。		

履修学年・学期	2年前期	授業方式	講義	単位数	1単位(15時間)	授業回数	8
---------	------	------	----	-----	-----------	------	---

授業目標	教科書を基に日常歯科臨床と結びつけつつ、保存修復学の基礎について学ぶ。
------	-------------------------------------

評価方法	定期試験(100点満点)
------	--------------

教科書名	最新歯科衛生士教本「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」千田 彰著他 医歯薬出版KK
------	---

参考文献	
------	--

履修上の注意	
--------	--

回	授業計画	到達目標
---	------	------

1	歯の保存療法の種類 口腔検査(歯および歯周組織)	歯科保存学の役割と歯および歯周組織検査を理解する。
---	-----------------------------	---------------------------

2	保存修復の概要	保存修復学全般について理解する。
---	---------	------------------

3	直接法修復①	直接法修復について理解する。
---	--------	----------------

4	直接法修復②	直接法修復について理解する。
---	--------	----------------

5	間接法修復①	間接法修復について理解する。
---	--------	----------------

6	間接法修復②	間接法修復について理解する。
---	--------	----------------

7	保存修復における歯科衛生士の役割①	検査、修復の手順および注意点を理解する。
---	-------------------	----------------------

8	保存修復における歯科衛生士の役割②	検査、修復の手順および注意点を理解する。
---	-------------------	----------------------

【 歯周療法学 】 令和4年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	東 克章	実務経験	本学院学院長歯科医。師。歯学博士。日本歯周病学会指導医、専門医。東京医科歯科大学第二保存学教室入局を経て歯科診療所院長。
授業との関連性	日本歯周病学会の指導医、専門医の立場から正常な歯周組織や歯周病についての基礎知識、治療法、更に歯科衛生士の役割について講義する。		

履修学年・学期	2年前期	授業方式	講義	単位数	2単位(30時間)	授業回数	15
---------	------	------	----	-----	-----------	------	----

授業目標	1. 歯周病とはどのような病気かを健康な歯周組織と比較することによって理解する。 また、それらの知識を活用して患者さんの指導法を学ぶ。 2. 組織病理、発生等の基礎知識を通して歯周病の原因、治療メンテナンスについて理解する。 3. 歯周治療のゴールを知る。		
評価方法	定期試験(100点満点)		
教科書名	最新歯科衛生士教本「歯周病学 第2版」 申 基詰著他 医歯薬出版KK		
参考文献	「プロフェッショナルマニュアル 歯科衛生士臨床のすべて ベーシックパート」「プロフェッショナルマニュアル 歯科衛生士臨床のすべて クリニカルパート」 Antonella Tani Botticelli 著 エルバ		
履修上の注意	1. 講義に集中すること 2. 講義内容はノートをとること 3. できるだけ予習、復習しておくこと		
回	授業計画	到達目標	
1	I 編 歯周治療の基礎知識 1章 歯科治療とは	歯周病になると具体的にはどうなるのか、歯周治療で現在ほどまで歯を残すことができるかを知る。	
2	I 編 2章 正常な歯周組織の構造と機能(1)	歯周組織の構造がどのようになっているかをイメージすることができる。	
3	I 編 2章 正常な歯周組織の構造と機能(2)	歯周組織の構造と名称を自分自身で図示することができるようになる。	
4	I 編 3章 歯周病の分類と原因	歯肉炎と歯周炎の違い 原因は何か 歯周医学について理解する。	
5	I 編 まとめ 小テスト	3章までの理解度を自ら把握し、更に理解を深める。	
6	II 編 歯周治療の実際 1章 歯周治療の進め方	歯周治療の基本的な進め方を理解し、その流れを説明できる。	
7	II 編 2章 歯周病の検査	歯周組織検査のそれぞれの意味を理解し、健康からどれだけ破壊されているかを知る。	
8	II 編 3章 歯周基本治療	歯周基本治療の目的と手段について説明できる。	
9	II 編 4章 歯周外科治療	歯周外科処置の目的、適応症、種類、使用する器材を理解する。	
10	II 編 まとめ 小テスト	II 編の歯周外科治療までの全体の理解度をチェックする。	
11	II 編 5章 歯周治療としての口腔機能回復 6章 メンテナンス	歯周治療としてのリハビリテーションやメンテナンスの目的と方法について理解する。	
12	II 編 歯周治療における歯科衛生士の業務 1章 歯周治療における歯科衛生士の役割①～③	歯周治療における歯科衛生士の業務を理解し、その役割がいかに大きいかを自覚する。	
13	III 編 1章 ④スケーリング・ルートプレーニング ⑤歯周外科治療	スケーリング・ルートプレーニングと歯周外科についてその内容の理解を深める。	
14	III 編 1章 ⑥口腔機能回復治療 ⑦メンテナンス、SPT ⑧診療室と器具・器材の管理	リハビリテーションとメンテナンスについてその内容の理解を深める。 質の高い診療室と器具器材の管理の仕方と重要性について理解する。	
15	III 編 まとめ 小テスト	III 編 5章から8章までの理解度をチェックする。 また、全編にわたっても再チェックを行う。	

【 歯科補綴学 】 令和4年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	椿 賢	実務経験	歯科医師。歯学博士。福岡歯科大学附属病院勤務を経て歯科診療所院長。熊本県歯科医師会理事。	
授業との関連性	臨床歯科医師として、顎口腔機能の低下や失われた機能を回復し維持するための補綴処置や歯科衛生士の役割について講義する。			
講師名	(愛歯)渡邊裕士	実務経験	歯科技工士。歯科技工所に在籍し教育マネージャーとして活躍。	
授業との関連性	大手歯科技工所に勤務し自らも歯科技工士として補綴物製作にあたりながら後輩への指導を実践している視点から、顎口腔機能の低下や失われた機能を回復し維持するための補綴処置や歯科衛生士の役割について講義する。			
履修学年・学期	2年前期	授業方式	講義・技工物製作見学	
単位数	2単位(30時間)		授業回数	15
授業目標	<p>〈椿 先生〉 顎口腔機能について理解するとともに、歯科補綴顎とは何かを理解し、歯科衛生士としての関わり合いを学習する。</p> <p>〈渡邊先生〉 補綴装置の分類・特徴を理解・整理することで、補綴治療の意義と目的への理解を深める。 補綴装置の仕組み・構造と使用材料を理解することで、補綴治療の実際への理解を深める。 補綴物の製作過程を学ぶことで、補綴治療の実際における歯科衛生士の役割を理解する。</p>			
評価方法	定期試験(100点満点)・提出物…小社(愛歯)作成試験への質疑・回答とワークシート記入			
教科書名	最新歯科衛生士教本「咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴」赤川安正著 医歯薬出版KK			
参考文献	第3版 歯科補綴学専門用語集 (日本補綴学会編) 医歯薬出版			
履修上の注意	<p>〈渡邊先生〉 小社(愛歯)見学プログラム進行とワークシート記入により、学習を深め、その評価を行いたい為黄色のマーカーと赤・黒のボールペンをご持参願います。</p>			
回	授業予定	到達目標		
1	補綴治療の意義と目的	①補綴の意義と目的を理解する。 ②歯科衛生士の役割について説明できる。		
2	補綴歯科治療の基礎知識	歯列の形態と位置的関係、顎口腔系の機能、咬合について説明できる。		
3	補綴歯科治療における検査	口腔内や顎機能の検査について説明できる。		
4	クラウン・ブリッジ治療①	クラウン・ブリッジ治療の特徴を概説でき、治療の流れを説明できる。		
5	クラウン・ブリッジ治療②	①クラウン・ブリッジ治療の患者への説明と指導が実施できる。 ②クラウン・ブリッジ治療に伴うトラブルとその対応が説明できる。		
6	全部床義歯治療①	①全部床義歯治療の特徴を概説できる。 ②全部床義歯治療の流れの説明やそれに伴う材料の準備ができる。		
7	全部床義歯治療②	①全部床義歯治療の患者への説明、指導が実施できる。 ②全部床義歯治療に伴うトラブルとその対応を説明できる。		
8	部分床義歯治療①	①部分床義歯治療の特徴を概説できる。 ②部分床義歯治療の流れの説明や材料の準備ができる。		
9	部分床義歯治療②	①部分床義歯治療の患者への説明と指導を実施できる。 ②部分床義歯治療に伴うトラブルとその対応を説明できる。		
10	インプラント治療	①インプラント治療の特徴を概説できる。 ②インプラント治療の流れなどの説明や器材の準備などが実施できる。		
11	特殊口腔内装置を用いる治療と補綴歯科治療における器材の管理	①特殊な口腔内装置の特徴を概説できる。 ②補綴歯科治療の器材管理の概説と器材別の滅菌などを実施できる。		
12	(愛歯にて)補綴物の製作過程	補綴物の仕組み・構造・使用材料について説明できる。		
13	(愛歯にて)部分床義歯、総義歯の製作過程	有床義歯による欠損補綴処置について説明できる。		
14	(愛歯にて)補綴物製作の見学1 (歯科技工の流れと、その使用材料・器材)	補綴物製作過程の実際と必要な材料・器材を理解する。		
15	(愛歯にて)補綴物製作の見学2 (歯科技工の流れ 従来法とCAD/CAM技工)	補綴物製作過程の実際において必要な加工プロセスの従来技法とデジタル技法を理解する。		

【 歯科矯正学 】 令和4年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	上村裕希	実務経験	歯科医師。鹿児島大学大学院歯科矯正学分野にて13年勤務。その後、矯正専門クリニックを開設。本学院教務委員。
授業との関連性	歯科矯正治療を専門にクリニックを開設し、日本矯正歯科学会認定医として日々診療を行っている経験と大学で学んだ知識を基に、歯科矯正治療の目的、治療方法、歯科衛生士の役割、口腔保健管理について講義を行う		
履修学年・学期	2年前後期	授業方式	講義
		単位数	2単位(30時間)
		授業回数	15
授業目標	歯科矯正学における基本的な事項を説明し、理解させることによって、歯科矯正臨床における歯科衛生士の役割について学び、将来、歯科矯正治療を行うチームの一員として活躍できるようにする。		
評価方法	定期試験(100点満点)		
教科書名	最新「歯科矯正」 氷室利彦著 医歯薬出版KK		
参考文献			
履修上の注意			
回	授業予定	到達目標	
1	矯正歯科治療の概要について	①歯科矯正学の定義について説明できる。 ②矯正歯科治療の目的を説明できる。 ③歯科矯正治療のベネフィットとリスクについて説明できる。	
2	成長発育について	①成長発育の4つの型の名称とその特徴を説明できる。 ②上顎・下顎の成長発育について説明できる。 ③骨の成長の3つの様式を説明できる。	
3	正常咬合と不正咬合について	①正常咬合を説明できる。 ②不正咬合を説明できる。 ③Angleの不正咬合分類を説明できる。	
4	歯科矯正診断について	①矯正歯科診断に必要な検査項目を列挙し、その意義を説明できる。 ②模型分析の方法とその意義を説明できる。 ③頭部エックス線規格写真分析の方法とその意義を説明できる。	
5	矯正歯科治療と矯正力・顎整形力について	①矯正力と移動する歯、固定の関係を説明できる。 ②歯が移動する際の歯周組織反応を説明できる。 ③器械的矯正力と機能的矯正力を説明し、利用する装置をあげることができる。	
6	矯正歯科治療と矯正力・保定について	①固定の3つの種類を説明できる。 ②保定の定義と主な装置を説明できる。 ③矯正歯科治療の再発の定義とその要因を説明できる。	
7	矯正装置について	①矯正装置の分類について説明できる。 ②矯正装置の種類とその構成を説明できる。 ③矯正装置装着時の指導ができるようになる。	
8	上下顎の前後関係の不調和について 上下顎の垂直関係の不調和について	①I級II級III級の不正咬合を説明できる。 ②過蓋咬合を説明できる。 ③開咬を説明できる。	
9	成人矯正について	①補助的矯正歯科治療と包括的矯正歯科治療の相違を説明できる。 ②成人患者の矯正歯科治療の注意点を説明できる。 ③歯周治療や補綴処置のための矯正歯科治療を説明できる。	
10	口腔顎顔面の形成異常と変形、歯の埋伏と歯数の異常について 矯正歯科治療時のトラブルへの対応について 健康保険が適用される矯正について	①口唇・口蓋裂の咬合異常とその治療について説明できる。 ②不正咬合をもたらす主な症候群をあげることができる。 ③顎変形症の治療の流れを説明し、骨切り手術の必要性を説明できる。 ④埋伏歯、先天欠如歯、過剰歯について説明できる。	
11	矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割について 矯正歯科診断にかかわる業務	①矯正歯科診断に必要な資料について説明できる。 ②顔面写真、口腔内写真撮影の要点を説明できる。 ③模型製作のための印象採得の要点を説明できる。	
12	矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割について 矯正歯科診療時の業務、矯正歯科患者と口腔保健管理	①矯正歯科治療に用いる器具の用途について説明できる。 ②各種矯正装置装着時における補助について説明できる。 ③各種矯正装置装着時における注意点を説明できる。 ④プラークコントロールに使う器具について説明できる。	
13	口腔筋機能療法	①口腔筋機能療法の訓練について説明できる。 ②口腔周囲組織のアセスメントについて説明できる。 ③吸指癖の指導について説明できる。 ④口腔筋機能療法の効果について説明できる。	
14	矯正治療全般についてのまとめ ①	13回までの講義において分かりにくかったところ、説明不足であった点について再確認。	
15	矯正治療全般についてのまとめ ②	全体で不明な点の再確認	

【 口腔外科学 】 令和4年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	久保 隆太	実務経験	歯科医師。熊本大学病院歯科口腔外科医員。熊本大学医学教育部博士課程。		
授業との関連性	歯科口腔外科医としての臨床経験を踏まえ、顎・口腔領域に発現する疾患や口腔外科診療における歯科衛生士の役割について講義する。				
履修学年・学期	2年前期	授業方式	講義	単位数	2単位(30時間)
				授業回数	15
授業目標	口腔外科の基礎知識及び临床上必要となる関連知識の習得を目指す。				
評価方法	定期試験(100点満点)				
教科書名	最新歯科衛生士教本「顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔」 山根源之著他 医歯薬出版KK				
参考文献					
履修上の注意					
回	授業計画			到達目標	
1	口腔外科の概要 顎・口腔領域の先天異常と発育異常			①口腔外科領域の主な疾患と概要について説明できる。 ②口腔外科における歯科衛生士の役割を理解する。 ③口腔領域の先天異常と発育異常について簡単に説明できる。	
2	顎・口腔領域の損傷および機能障害			口腔領域の損傷について説明できる。	
3	口腔粘膜病変			口腔粘膜疾患の主な疾病を挙げ、それぞれの疾患について簡単に説明できる。	
4	顎・口腔領域の化膿性炎症 顎・口腔領域の嚢胞性疾患			顎、口腔領域の炎症・嚢胞について分類し説明できる。	
5	顎・口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患			口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患について分類し、説明できる。	
6	唾液腺疾患			唾液腺疾患について説明できる。	
7	口腔領域の神経疾患			口腔領域の神経疾患について説明できる。	
8	口腔外科診療の実際			口腔外科診療の流れについて理解する。	
9	歯科治療と歯科麻酔①			患者管理について理解する。	
10	歯科治療と歯科麻酔②			局所麻酔、精神鎮静法、全身麻酔について理解する。	
11	口腔外科、歯科麻酔の臨床における歯科衛生士のかかわり①			手術各論について理解する。	
12	口腔外科、歯科麻酔の臨床における歯科衛生士のかかわり②			手術各論について理解する。	
13	まとめ①			学習確認 手術イメージビデオ等	
14	まとめ②			学習確認 手術イメージビデオ等	
15	まとめ③			学習確認 手術イメージビデオ等	

【 小児歯科学 】 令和4年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	森 奈千子	実務経験	歯科医師。福岡歯科大学小児歯科教室入局、歯科診療所副院長。
授業との関連性	長年の小児歯科医としての経験を踏まえ、小児口腔疾患やう蝕予防、歯科衛生士の役割りについて講義する。		

履修学年・学期	2年前期	授業方式	講義	単位数	2単位(30時間)	授業回数	15
---------	------	------	----	-----	-----------	------	----

授業目標	小児歯科医療は病気に対する治療や予防に限らず、健全な小児を育成するという目的を持っている。そのため保健学、予防歯科学の知識も重要となる。胎生期から成人にいたる間の小児の正常な口腔領域の発育を促し、これを阻害する口腔疾患について種類と治療を知ることによって、歯科衛生士が小児のライフステージに応じた対応方法、口腔衛生指導、う蝕予防、小児口腔疾患及び障害児の診療補助業務および疾患の予防を理解することを目標とする。また小児歯科診療における歯科衛生士の役割の大きさも理解することを目標とする。		
評価方法	定期試験(100点満点)		
教科書名	最新歯科衛生士教本「小児歯科」大嶋 隆著他 医歯薬出版KK		
参考文献	新小児歯科学 第3版 クインテッセンス出版株式会社 2009年		
履修上注意	教科書に沿った講義を臨床スライド、ビデオを用いて行う。しっかりと講義を聴き、ノートをとること。評価は期末試験で行うが、出席率・授業中の態度の悪い者は減点するので注意するように。		
回	授業計画	到達目標	
1	小児歯科学概論 心身の発育 1	発育段階と口腔の変化を説明できる。 発育の概念と分類を説明できる。 年齢と身体発育の特徴を説明できる。	
2	心身の発育 2 小児の生理的特徴	生理的年齢について説明できる。 器官の発育・精神機能の発達について説明できる。 バイタルサインと生理的特徴を説明できる。 薬剤処方と薬物療法を説明できる。	
3	顔面頭蓋の発育 歯の発育とその異常 1	脳頭蓋と顔面頭蓋の発育変化を説明できる。 脳頭蓋の発育の特徴を説明できる。 顔面頭蓋の発育の特徴を説明できる。 乳歯・幼若永久歯の特徴を説明できる。	
4	歯の発育とその異常2 歯列・咬合の発育と異常 1	歯の発育段階を説明できる。 歯の発育時期と形成異常を説明できる。 乳歯・永久歯の萌出時期と順序を説明できる。 歯の萌出異常を説明できる。 歯列・咬合の発育段階を説明できる。	
5	歯列・咬合の発育と異常2 小児の歯科疾患 1	歯列・咬合の異常を説明できる。 口腔習癖に起因する不正咬合を説明できる。 歯性不正咬合について説明できる。 小児にみられるう蝕・歯周疾患について説明できる。	
6	小児の歯科疾患 2 小児虐待	小児にみられる口腔軟組織の異常と疾患について説明できる。 小児虐待について、種類・背景について説明できる。 身体的虐待による頭部・顔面・口腔・歯の所見について説明できる。 ネグレクトとう蝕について説明できる	
7	小児期の特徴と歯科的問題点 小児歯科における患者との対応法 1	乳幼児期小児の特徴、留意点と特徴的歯科疾患を説明できる。 学童期小児の特徴、留意点と特徴的歯科疾患を説明できる。 思春期小児の特徴、留意点と特徴的歯科疾患を説明できる。 小児歯科における患者との対応法について説明できる。	
8	小児歯科における患者との対応法 2	歯科治療時の対応法について説明できる。	
9	小児歯科における診療体系 1	小児歯科診療とその特徴・原則について説明できる。 診察・検査・診断について説明できる。	
10	小児歯科における診療体系 2	小児の歯の健康教室について説明できる。 小児歯科における麻酔法について説明できる。 小児の歯冠修復について説明できる。 小児の歯内療法について説明できる。	
11	小児の歯科における診療体系 3	小児の外科的処置について説明できる。	
12	小児の歯科における診療体系 4	咬合誘導を説明できる。 フッ化ジアンミン銀塗布について説明できる。 リコール(定期健診)を説明できる。	
13	障害児の歯科治療	障害児における歯科的対応法を説明できる。 主な障害とその全身的・歯科的特徴を説明できる。 障害児への対応法を説明できる。 小児の摂食・嚥下障害の特徴を説明できる。	
14	う蝕予防	プラークコントロールについて説明できる。 フッ化物の応用・小窩裂溝填塞法について説明できる。 う蝕予防のための食生活指導ができる。	
15	小児の口腔健康管理 歯科診療室と器材の管理	診療補助と歯科衛生士の役割を説明できる。 成長時期に応じた口腔健康管理ができる。 口腔健康管理に必要な検査と指導ができる。 診療室・待合室・受付・器材の管理について説明できる。	

【 障害者歯科学 】 令和4年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	山川摩利子	実務経験	歯科医師。歯学博士。日本障害者歯科学会指導医。東京医科歯科大学障害者歯科治療部医員、熊本市立熊本市市民病院歯科、熊本市東区保健子ども課勤務。
授業との関連性	日本障害者歯科学会指導医としての経験を活かし、障害を持つ児・者を取り巻く社会環境や障害の種類・特徴、また歯科医療の関わりや歯科衛生士の役割について講義する。		

履修学年・学期	2年前期	授業方式	講義	単位数	1単位(15時間)	授業回数	8
---------	------	------	----	-----	-----------	------	---

回	授業計画	到達目標
1	障害を理解し、障害を持つ児・者を取り巻く社会環境を理解する。そのうえで、将来、歯科医療人として当たり前の診療行為を提供するために必要な知識を習得する。 第1章 障害の概念 ①歯科医療におけるスペシャルニーズ ②障害の分類 ③生活機能に特別な支援を要する人のQOL ④ノーマライゼーションとバリアフリー ⑤スペシャルニーズの発生とその受容 ⑥障害のある人と医療・福祉制度の仕組み	①歯科医療におけるスペシャルニーズを説明できる。 ②国際生活機能分類を説明できる。 ③障害児・者のQOLが説明できる。 ④ノーマライゼーションとバリアフリーを説明できる。 ⑤障害のある人と福祉制度について説明できる。 ⑥障害者歯科医療の仕組みが説明できる。
2	第2章 歯科医療で特別な支援が必要な疾患 ①精神発達・心理的発達と行動障害 1 精神遅滞(知的障害) 2 広汎性発達障害 3 注意欠陥/多動性障害(ADHD) 4 学習障害(LD)	①精神遅滞(発達障害を含む)と関連する疾患・障害を説明できる。 ②DSM-5に基づく、障害名の変更について説明できる。 ③精神遅滞のある人への対応と口腔の特徴を説明できる。
3	②運動障害(神経・筋系疾患) 1 脳性麻痺 2 重症心身障害 3 筋ジストロフィー 4 脊髄損傷 5 関節リウマチ 6 脳血管障害 7 筋萎縮性側索硬化症 8 その他の障害	①運動障害に関連する疾患・障害を説明できる。 ②運動障害のある人への対応と口腔の特徴を説明できる。
4	③感覚障害 1 視覚障害 2 聴覚障害 3 嚥唾 4 その他の障害 ④音声言語障害 ⑤精神および行動の障害 ⑥その他 障害のある人への虐待	①感覚障害について説明できる。 ②感覚障害のある人への対応と口腔の特徴を説明できる。 ③精神障害に関連する疾患・障害を説明できる。 ④精神障害のある人への対応と口腔の特徴を説明できる。
5	第3章 障害者の歯科医療と行動調整 ① コミュニケーションの方法 ② 行動療法 ③ 体動のコントロール ④ 薬物的行動調整法	①障害のある人とのコミュニケーション法について説明できる。 ②障害者歯科で応用される行動調整法について説明できる。 ③行動療法における歯科衛生士の役割を説明できる。
6	第4章 健康支援と口腔衛生管理 ①障害者本人や介助者が行う口腔ケアへの支援 ②専門的口腔ケア ③特別な配慮が必要な患者の口腔衛生管理	①障害のある人の口腔のケアを説明できる。 器質的口腔ケアと機能的口腔ケアについて説明できる。 ②専門的口腔ケアを説明できる。 ③障害や疾患に応じた口腔衛生管理について説明できる。
7	第5章 リスク評価と安全管理 ①障害者歯科におけるリスク評価 ②障害別のリスクと対応 ③医療安全管理体制 ④感染制御体制	①障害者歯科におけるリスクについて説明できる。 ②障害者歯科におけるリスク評価について説明できる。 ③医療機関における安全管理の概要を説明できる。 ④障害者歯科における感染対策の基本を説明できる。 ⑤障害者歯科における感染予防対策の留意点を列挙することができる。
8	第7章 地域における障害者歯科 ①障害者歯科と地域医療連携 ②障害者歯科と関連職種 ③保健・医療・福祉のネットワーク ④一次医療機関における障害者歯科 ⑤二次医療機関における障害者歯科 ⑥三次医療機関における障害者歯科	①障害者歯科と関連する職種について理解し、歯科衛生士の対応について説明できる。 ②一次医療機関と高次医療機関の役割を理解し、それぞれにおける歯科衛生士の役割について説明できる。

【 歯科口腔放射線学 】 令和4年度 授業シラバス

日本歯科衛生士専門学校

講師名	瀬々良介	実務経験	歯科医師。日本歯科放射線学会放射線認定医。口腔病院画像診断部長。福岡歯科大学臨床准教授。
授業との関連性	日本歯科放射線学会放射線認定医、また口腔病院における画像診断部長の経験を踏まえ、歯科放射線の知識、画像診査法と画像診断について、また歯科衛生士の法的役割について講義する。		

履修学年・学期	2年前期	授業方式	講義・実技	単位数	1単位(15時間)	授業回数	8
---------	------	------	-------	-----	-----------	------	---

授業目標	歯科衛生士として必要な歯科放射線の知識を習得する。特に歯科放射線診療における適切な補助、放射線防護を行うための基礎知識および画像診査法と画像診断学の基本を習得し歯科医療に大いに貢献できる歯科衛生士を育成することを目標とする。		
評価方法	定期試験(100点満点)		
教科書名	「歯科衛生士テキスト わかりやすい歯科放射線学 第3版」飯久保正弘・香川豊宏著他 学建書院		
参考文献	最新「歯科放射線」岡野友宏著 医歯薬出版KK		
履修上の注意	積極的に学び取ろうとする姿勢で臨んでください。また、講義中の私語は厳禁。		
回	授業計画	到達目標	
1	歯科放射線学序論(歯科放射線学の概要、歯科放射線学の役割、エックス線の発見) 目標: 歯科放射線学の概要を理解し、本教科を学ぶ意義や必要性を理解する。	歯科放射線学の概要を把握し歯科衛生士として本教科を学ぶ意義や必要性を述べることができる。	
2	放射線物理学(放射線とその性質など)[放射線とは何か。(細項目: 電磁波、エックス線)、エックス線の発生(細項目: 発生原理、エックス線管の構造)、エックス線と物質の相互作用(細項目: エックス線の減弱)、エックス線画像の形成(細項目: エックス線透過像、エックス線不透過像)] 目標: エックス線の性質やエックス線画像の形成を理解する。	エックス線の性質やエックス線画像の形成について説明できる。	
3	放射線生物学、放射線防護(放射線の人体への影響と防護)[生物へ与える影響(細項目: 早期障害、晩期障害、確定的影響、確率的影響)、放射線防護の基本概念(細項目: 被爆のカテゴリ、放射線防護の体系)、放射線防護の実際(細項目: 医療従事者の被爆軽減、患者の被爆軽減)] 目標: 放射線の人体への影響と防護の重要性を理解する。	放射線の人体への影響や放射線防護について説明できる。	
4	写真処理法[写真機材(細項目: エックス線フィルム、増感紙、カセット)、写真処理(細項目: 現像、定着、水洗、乾燥)、デジタル化(細項目: IP方式、CCD方式)] 目標: 写真処理法を理解する。	エックス線写真の処理法を説明できる。	
5	エックス線撮影法(1)[口内法撮影(細項目: 二等分法、平行法、咬翼法、咬合法、口内法エックス線写真の正常解剖)] 目標: 口内法撮影の各撮影法と正常解剖を理解する。	口内法撮影の各撮影法の特徴と手技および正常解剖を説明できる。	
6	エックス線撮影法(2)[パノラマエックス線撮影法(細項目: パノラマエックス線撮影の原理、短所、長所、パノラマエックス線写真の正常解剖)] 目標: パノラマエックス線撮影法と正常解剖を理解する。	パノラマエックス線撮影法の特徴と手技および正常解剖を説明できる。	
7	エックス線撮影法(3)[その他の画像検査法(細項目: 頭部エックス線規格撮影、顎関節撮影、CT、MRI、超音波検査)] 目標: その他の画像検査法を理解する。 放射線治療[種類、リスクとベネフィット] 目標: 放射線治療の種類、リスクとベネフィットを理解する。	頭部エックス線規格撮影、顎関節撮影、CT、MRI、超音波検査の特徴を説明できる。 放射線治療後のリスクを理解し歯科衛生士として口腔ケアの重要性を述べることができる。	
8	エックス線写真の整理、エックス線写真の読影およびまとめ[口内法エックス線写真の正常解剖と病変、パノラマエックス線写真の正常解剖と病変、写真の整理(マウント)] 目標: 口内法エックス線写真を見て撮影部位を認識する。基本的な病変のエックス線像を理解する。	エックス線写真の整理(マウント)ができる。基本的な病変のエックス線所見を説明できる。	

【 歯科予防処置法Ⅰ 】 令和4年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	大塚めぐみ	実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院教務副主任。
授業との関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として、歯科予防処置法に係る基礎知識や予防技術、患者管理について講義・実習する。		

講師名	西口真美	実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院専任教員。
授業との関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として、歯科予防処置法に係る基礎知識や予防技術、患者管理について講義・実習する。		

履修学年・学期	1年前後期	授業方式	講義・演習・実技	単位数	2単位(90時間)	授業回数	45
---------	-------	------	----------	-----	-----------	------	----

授業目標	(前期)口腔の2大疾患である「う蝕」と「歯周疾患」の予防の重要性を理解し、継続管理を行うために必要な知識、技術、態度を身につける。 (後期)予防処置法の使用器具の取り扱いと操作の基本を理解するために、必要な知識、技術を修得する。
------	---

評価方法	定期試験(100点満点) 項目ごと実技試験
------	-----------------------

教科書名	①最新 歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」遠藤圭子著 他 医歯薬出版KK ②②歯科衛生士臨床のすべて(ベーシックパート・クリニカルパート)
------	--

参考文献	①最新 歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版 医歯薬出版株式会社 ②歯科衛生士のためのう蝕予防処置法 第2版 医歯薬出版株式会社 ③最新 歯科衛生士教本 保健生態学 第2版 医歯薬出版株式会社 ④最新 歯科衛生士教本 歯周病学 第2版 医歯薬出版株式会社 ⑤最新 歯科衛生士教本 歯科材料 医歯薬出版株式会社 ⑥最新 歯科衛生士教本 歯科機器 医歯薬出版株式会社
------	---

履修上の注意	①予習を必ず行い講義・実習に臨むこと。プリントを事前に配布します。 ②授業の復習は必ず行うこと。 ③実習は身だしなみをきちんと整えた上で取り組むこと。 ④到達目標は履修状況において変更することがあります。
--------	---

回	授業計画	到達目標
1	(講義)Ⅱ編 1章 ①口腔・口腔周囲の構造②歯周組織 Ⅲ編 2章 ①口腔の器質的問題の把握 ②口腔の機能的問題の把握 口腔の基礎知識1 口腔の構造・歯周組織	口腔の構造、名称および歯式について理解する。
2	(講義)Ⅱ編 1章 ③歯冠と歯根の形態②口腔の機能 口腔の基礎知識2 歯周組織・口腔の機能	口腔の構造を理解したうえで、口腔の機能や摂食嚥下の流れの概要を理解する。
3	(講義)Ⅱ編 2章 ①口腔内の付着物・沈着物	①口腔内の付着物、沈着物の種類と成分が説明できる。 ②プラークの形成過程と成分を説明できる。 ③歯石の形成過程と成分を説明できる。
4	(講義)Ⅱ編 2章 ②う蝕③歯周病	う蝕がどのように起こるのか、またう蝕の特性について理解する。 歯周組織を理解したうえで、歯周病とはどのような病気か、原因や進行のメカニズムを理解する。
5	(講義・演習)Ⅱ編 2章 う蝕と歯周病の基礎知識 位相差顕微鏡の基礎知識と取り扱いについて	①位相差顕微鏡の取り扱いが適切にできる。 ②位相差顕微鏡を用いて口腔内の状態を説明できる。
6	(講義)Ⅲ編 2章 ⑥口腔の器質的問題の把握 診査用具の把持法・使用方法(エキスポローラー・プローブ)	歯周診査用器材の使用法、特徴について理解する。
7	(講義)Ⅲ編 3章 ①スクレーリング・ルートプレーニング 手用スクレーラー・機械的スクレーラーの概要・把持法・基本操作	①各種スクレーラーの種類と使用目的を説明できる。 ②シクルスクレーラーの把持法を修得する。
8	(実技)Ⅲ編 3章 ①スクレーリング・ルートプレーニング シクルスクレーラー机上操作(前腕回転運動・手根関節運動)	シクルスクレーラーを用いて、前腕回転運動、手根関節運動の操作ができる。
9	(実技・演習)Ⅲ編 3章 ①スクレーリング・ルートプレーニング 基本設定 ポジショニングについて 人工歯石の取り扱い	①スクレーリング操作時のポジション・姿勢を理解することができる。 ②人工歯石を歯牙に的確に塗布することができる。
10	(実技)Ⅲ編 3章 ①スクレーリング・ルートプレーニング エキスポローリング・ミラー操作	口腔内をミラーで確認し、直視できない部位の投影、また排除の必要性などを理解し、操作できる。
11	(実技)Ⅲ編 3章 ①スクレーリング・ルートプレーニング ファントムシクルスクレーリング1 前歯部	ファントムを用いて、歯石除去時のポジショニング、ライティング、スクレーラーの操作方法、ミラーテクニックなど基本的なスクレーリングをブロックごとに理解し操作ができる。
12	(実技)Ⅲ編 3章 ①スクレーリング・ルートプレーニング ファントムシクルスクレーリング1 右側	ファントムを用いて、歯石除去時のポジショニング、ライティング、スクレーラーの操作方法、ミラーテクニックなど基本的なスクレーリングをブロックごとに理解し操作ができる。
13	(実技)Ⅲ編 3章 ①スクレーリング・ルートプレーニング ファントムシクルスクレーリング1 左側	ファントムを用いて、歯石除去時のポジショニング、ライティング、スクレーラーの操作方法、ミラーテクニックなど基本的なスクレーリングをブロックごとに理解し操作ができる。
14	(実技)Ⅲ編 3章 ①スクレーリング・ルートプレーニング ファントムシクルスクレーリング1 復習 ファントムシクルスクレーリング 204SD取り扱い	各部位に適したポジションでスクレーリングとミラー操作を行い、取り残しの確認ができる。またシクルスクレーラー204SDの特徴を理解し操作できる。
15	(講義)Ⅲ編 2章 ⑧分析のためのデータ 4. う蝕に関する検査 う蝕活動性試験とは	う蝕活動性試験の必要な知識について理解する。
16	(演習)Ⅲ編 2章 ⑧分析のためのデータ 4. う蝕に関する検査 う蝕活動性試験①	①齶蝕活動性試験の有効性、種類がわかり、正しい操作でテストを行うことが出来る。 ②患者へ説明、予防するために情報の収集ができる。 ③患者に適した予防プログラムを立てることができる。
17	(演習)Ⅲ編 2章 ⑧分析のためのデータ 4. う蝕に関する検査 う蝕活動性試験②	同上

回	授業計画	到達目標
18	(講義)Ⅲ編 2章 ⑥口腔の器質的問題の把握⑦口腔の機能的問題の把握 口腔内観察・口腔内精密検査1	患者の口腔内の状態を的確に観察し、記録することができる。
19	(講義)Ⅲ編 2章 ⑥口腔の器質的問題の把握⑦口腔の機能的問題の把握 口腔内観察・口腔内精密検査2歯周ポケット	歯周組織の健康度を判断するための一助である各種歯周組織検査を理解し説明できる。
20	(講義)Ⅲ編 2章 ⑥口腔の器質的問題の把握⑦口腔の機能的問題の把握 口腔内観察・口腔内精密検査3動揺度・口臭	歯周組織の健康度を判断するための一助である各種歯周組織検査を理解し説明できる。
21	(実習)Ⅲ編 2章 ⑥口腔の器質的問題の把握⑦口腔の機能的問題の把握 口腔内観察 1人目	①患者の口腔内の健康状況を把握するために、患者の口腔内の状態を的確に観察することができる。 ②相互にて実習し実習し、その手技および結果から口腔内状況を理解できる。
22	(実習)Ⅲ編 2章 ⑥口腔の器質的問題の把握⑦口腔の機能的問題の把握 口腔内観察 2人目	同上
23	(実習)Ⅲ編 2章 ⑥口腔の器質的問題の把握⑦口腔の機能的問題の把握 口腔内観察 3人目	同上
24	(実習)Ⅲ編 2章 ⑥口腔の器質的問題の把握⑦口腔の機能的問題の把握 口腔内観察・精密検査 上顎 1人目	患者の口腔内の健康状況を把握するために、各種口腔内精密検査を相互にて実習し、その手技および結果から口腔内状況を理解する。
25	(実習)Ⅲ編 2章 ⑥口腔の器質的問題の把握⑦口腔の機能的問題の把握 口腔内観察・精密検査 上顎 2人目	同上
26	(実習)Ⅲ編 2章 ⑥口腔の器質的問題の把握⑦口腔の機能的問題の把握 口腔内観察・精密検査 上顎 3人目	同上
27	(実習)Ⅲ編 3章 ⑥口腔清掃方法 2その他の清掃方法 染め出し～フロッシング操作1 右側	患者の口腔内汚染状況を確認したうえで、フロスを操作することができる。
28	(実習)Ⅲ編 3章 ⑥口腔清掃方法 2その他の清掃方法 染め出し～フロッシング操作2 中央	同上
29	(実習)Ⅲ編 3章 ⑥口腔清掃方法 2その他の清掃方法 染め出し～フロッシング操作3 左側	同上
30	(講義)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング 超音波スケーラー・エアスケーラーについて 超音波スケーラー・エアスケーラーでの偶発事故	各種スケーラーの特徴、使用方法、操作方法が説明できる。安心・安全に院内実習に取り組むことができるように、偶発事故の予防と対策について理解を深め説明できる。
31	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング 超音波スケーラー・エアスケーラーの取り扱い	超音波・エアスケーラーの基本的な取扱いが行えるように各々の特徴を理解し、セッティングができる。
32	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング ファントム縁上スケーリング(エアスケーラー・ハンドスケーラー)実習 上顎 右側	これまでに履修した口腔内洗浄、パキューム操作、ハンドスケーリングに超音波・エアスケーリングを加え、ファントムにて一連の流れを理解し操作ができる。
33	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング ファントム縁上スケーリング(エアスケーラー・ハンドスケーラー)実習 上顎 左側	同上
34	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング ファントム縁上スケーリング(エアスケーラー・ハンドスケーラー)実習 下顎 右側	同上
35	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング ファントム縁上スケーリング(超音波スケーラー・ハンドスケーラー)実習 下顎 左側	同上
36	(講義)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング キュレットスケーラーの把持法、使用方法について	スケーリング・ルートプレーニングを確実に実践するためにキュレットスケーラーの特徴や使用目的を理解する。
37	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング エキスポーリング・プロービング～キュレット操作1 (前歯部・挿入方法)	①キュレットスケーラーの部位別種類と特徴が判断できる。 ②キュレットスケーラーの挿入角度と操作角度の違いがわかり操作できる。 ③キュレットスケーラーの操作方法を説明し実施できる。
38	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング エキスポーリング・プロービング～キュレット操作2 (臼歯部・挿入方法)	同上
39	(実習)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング キュレット操作1	キュレットスケーラーの特徴を把握し、各部位に合わせたスケーラーを選択し操作することができる。
40	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング キュレット操作2	同上
41	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング キュレット操作3	同上
42	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング キュレット操作4	同上
43	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング キュレット操作5	同上
44	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング キュレット操作6	同上
45	(講義) 歯科予防処置分野 まとめ 模擬試験解説	①歯科予防処置に関する知識の再確認ができる ②修得できていない分野を確認することができる

*ファントム実習か相互実習かは、状況により変更することもあります。

【 歯科予防処置法Ⅱ 】 令和4年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学院

講師名	大塚めぐみ	実務経歴	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院教務副主任。
授業との関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として、歯科予防処置法に係る基礎知識や予防技術、患者管理について講義・実習する。		
講師名	西口真美	実務経歴	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院専任教員。
授業との関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として、歯科予防処置法に係る基礎知識や予防技術、患者管理について講義・実習する。		
履修学年・学期	2年前後期	授業方式	講義・演習・実技
		単位数	2単位(90時間)
		授業回数	45
授業目標	(前期)臨床実習に対応するために、学院内実習を通して技術、及び患者への対応を修得する。 (後期)現場における歯科衛生士の役割と業務を理解し、実践力を養うために、様々な場面に 対応できる能力を身につける。		
評価方法	定期試験(100点満点) 項目ごと実技試験		
教科書名	①最新 歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」遠藤圭子著 他 医歯薬出版KK ②歯科衛生士臨床のすべて(ベーシックパート・クリニカルパート)		
参考文献	①最新 歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版 医歯薬出版株式会社 ②歯科衛生士のためのう蝕予防処置法 第2版 医歯薬出版株式会社 ③最新 歯科衛生士教本 保健生態学 第2版 医歯薬出版株式会社 ④最新 歯科衛生士教本 歯周病学 第2版 医歯薬出版株式会社 ⑤最新 歯科衛生士教本 歯科材料 医歯薬出版株式会社 ⑥最新 歯科衛生士教本 歯科機器 医歯薬出版株式会社		
履修上の注意	①予習を必ず行い講義・実習に臨むこと。プリントを事前に配布します。 ②授業の復習は必ず行うこと。 ③実習は身だしなみをきちんと整えた上で取り組むこと。 ④到達目標は履修状況において変更することがあります。		
回	授業計画	到達目標	
1	(実習)Ⅲ編 2章 歯科衛生セメントとしての情報収集と情報処理 ⑥口腔の器質的問題の把握⑦口腔の機能的問題の把握 口腔内観察・精密検査 上顎 1人目	患者の口腔内の健康状況を把握するために、各種口腔内精密検査を相互にて実習し、その手技および結果から口腔内状況を理解する。	
2	(実習)Ⅲ編 2章 ⑥口腔の器質的問題の把握⑦口腔の機能的問題の把握 口腔内観察・精密検査 上顎 2人目	同上	
3	(実習)Ⅲ編 2章 ⑥口腔の器質的問題の把握⑦口腔の機能的問題の把握 口腔内観察・精密検査 上顎 3人目	同上	
4	(実習)Ⅲ編 2章 ⑥口腔の器質的問題の把握⑦口腔の機能的問題の把握 口腔内観察・精密検査 下顎 1人目	同上	
5	(実習)Ⅲ編 2章 ⑥口腔の器質的問題の把握⑦口腔の機能的問題の把握 口腔内観察・精密検査 下顎 2人目	同上	
6	(実習)Ⅲ編 2章 ⑥口腔の器質的問題の把握⑦口腔の機能的問題の把握 口腔内観察・精密検査 下顎 3人目	同上	
7	(演習)Ⅲ編 3章 ④フッ化物の応用 フッ化物洗口法の作製・使用法 イオン導入器の取り扱い	①イオン導入法の術式を理解し、機器の操作、注意や配慮すべき点を理解する。 ②フッ化物洗口液を正しく作製できる。	
8	(演習)Ⅲ編 3章 ④フッ化物の応用 フッ化物綿球塗布法	①フッ化物の正しい取扱いと安全な使用量がわかる。 ②フッ化物綿球塗布法の術式を説明することができる。 ③フッ化物塗布後の注意事項を説明することができる。	
9	(演習)Ⅲ編 3章 ④フッ化物の応用 フッ化物まとめ	①フッ化物の応用法を説明できる。 ②フッ化物の毒性と急性中毒への対応を説明できる。	
10	(講義)Ⅲ編 3章 ②歯面研磨・歯面清掃 PTC・PMTCIについて1	バイオフィルムを物理的に取り除くためにはどのような器材があるか理解し、それぞれの目的、種類を理解する。	
11	(講義)Ⅲ編 3章 ②歯面研磨・歯面清掃 PTC・PMTCIについて2 エアフロー・サブソニックブラシ 超音波スケーラー・エアスケーラー(復習)	口腔内に応じた適切な歯面研磨、歯面清掃を修得するための器械選択を理解できる。	
12	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章①スケーリング 縁下スケーリング 上顎(エア)・下顎(超音波)右側	①適切な超音波・エアスケーラーの操作ができる。 ②術式を理解しスムーズに操作ができる。	
13	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章①スケーリング 縁下スケーリング 上顎(エア)・下顎(超音波)中央	同上	
14	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章①スケーリング 縁下スケーリング 上顎(エア)・下顎(超音波)左側	同上	
15	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面清掃 正常模型 上顎/下顎 PTC	ファントムを用いて、操作部位に応じた適切な器材が選択でき、またPTCが適切に操作できる。	
16	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面清掃 正常模型 上顎/下顎 コードレスハンドピースPTC	正常な歯列の口腔内にてコードレスハンドピースの使用方法を理解することができる。	
17	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面清掃 歯列不正模型 上顎/下顎 PTC	歯列不正な口腔内にてコードレスハンドピースの使用方法を理解することができる。	

回	授業計画	到達目標
18	(相互実習)Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面清掃 染め出し～サブソニックブラシ操作実習 示説・1人目	器材の使用目的を理解したうえで、ブラシを的確に歯面に当て染め出し部分を落とし、PTCをよりデリケートに行う操作を習得する。
19	(相互実習)Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面清掃 染め出し～サブソニックブラシ操作実習 2人目・3人目	同上
20	(相互実習)Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面清掃 歯面清掃器実習 エアフロー 示説・1人目	①歯面研磨・歯面清掃の目的と特徴を踏まえ、適切な器材を選択し操作できる。
21	(相互実習)Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面清掃 歯面清掃器実習 エアフロー 2人目・3人目	同上
22	(講義)Ⅲ編 3章④フッ化物の応用⑤小窩裂溝填塞法 小窩裂溝填塞法総論・フッ化ジアンミン銀総論	①小窩裂溝填塞法の作用機序と適応症を理解し手順を説明できる。 ②フッ化ジアンミン銀溶液の特徴・作用機序・注意事項・取扱い方法を説明できる。
23	(演習)Ⅲ編 3章⑤小窩裂溝填塞法 小窩裂溝填塞法剖面スケッチ	①小窩裂溝填塞法を術式に沿って行うことができる。 ②酸処理面の状況を観察し説明することができる。 ③填塞状態を確認し評価することができる。
24	(演習)Ⅲ編 3章④フッ化物の応用 フッ化ジアンミン銀 指・布への着色	フッ化ジアンミン銀溶液の作用について理解を深めるとともに、患者および術者の皮膚や手指ならびに衣類を汚染した場合の処置ができる。
25	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章④フッ化物の応用⑤小窩裂溝填塞法 ラバーダム使用小窩裂溝填塞法・フッ化ジアンミン銀塗布	ラバーダム防湿及び小窩裂溝填塞法について術式を理解し、必要な器材の取り扱い及び填塞法を習得する。
26	(相互実習)Ⅲ編 3章④フッ化物の応用⑤小窩裂溝填塞法 フッ化ジアンミン銀塗布実習・ラバーダム防湿使用小窩裂溝填塞法 示説・1人目	ラバーダム防湿及び小窩裂溝填塞法・フッ化ジアンミン銀塗布法について一連の術式を理解し、必要な器材や材料の的確な取り扱い及び操作方法を学ぶ。
27	(相互実習)Ⅲ編 3章④フッ化物の応用⑤小窩裂溝填塞法 フッ化ジアンミン銀塗布実習・ラバーダム防湿使用小窩裂溝填塞法 2人目・3人目	同上
28	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章①スケーリング キュレットスケーリング 復習	各部位に適したポジションでエキスポローリング、スケーリング・ルートプレーニングとミラー操作を行い、取り残しの確認ができる。
29	(相互実習)Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面清掃 染め出し・PTC(コードレス使用)1・2人目	口腔内の状況に応じた研磨用器具を選択し、対象者に配慮した確実なPTCの一連の操作を実践することができる。
30	(相互実習)Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面清掃 染め出し・PTC(コードレス使用)3人目	同上
31	(相互実習)Ⅲ編 2章②口腔内の情報収集 口腔内観察～口腔内精密検査	同上
32	(相互実習)Ⅲ編 3章①スケーリング②歯面研磨・歯面清掃 エアスケーリング～PTC(上顎)1人目	基礎実習とファントム実習で履修した技術により、患者・補助者・術者のそれぞれの立場での心構えを持ち、模擬症例ごとに事前学習し対応法についてイメージトレーニングして臨むことができ
33	(相互実習)Ⅲ編 3章①スケーリング②歯面研磨・歯面清掃 エアスケーリング～PTC(上顎)2人目	同上
34	(相互実習)Ⅲ編 3章①スケーリング②歯面研磨・歯面清掃 エアスケーリング～PTC(上顎)3人目	同上
35	(相互実習)Ⅲ編 3章①スケーリング②歯面研磨・歯面清掃 超音波スケーリング～PTC(上顎)1人目	同上
36	(相互実習)Ⅲ編 3章①スケーリング②歯面研磨・歯面清掃 超音波スケーリング～PTC(上顎)2人目	同上
37	(相互実習)Ⅲ編 3章①スケーリング②歯面研磨・歯面清掃 超音波スケーリング～PTC(上顎)3人目	同上
38	(講義) 歯周疾患とう蝕の指数	口腔内の状態を評価するために、歯周疾患とう蝕の状態を数値化し、その変化を観察できる。
39	(講義)歯周病に関連する検査 唾液などを検体とする検査	①ペリオスクリーンを使用した歯周病に関連する検査を実施することができる。 ②判定結果を正しく読み取ることができる。
40	(講義・演習) う蝕活動性試験④	同上
41	(講義・演習) ダイアグノデントペン取り扱い	カリエスの進行状態を数値化し、う蝕の状態を患者にわかりやすく説明することができる。
42	(講義) う蝕抑制効果評価とスクリーニング	①う蝕活動性試験の有効性、種類を述べるができる。 ②スクリーニング検査に使用する検査法の信頼性の指標の説明ができる。 ③敏感度および特異度を計算できる。
43	(講義・演習) 予防プログラム①う蝕カリオグラム	う蝕レーダーチャート、歯周病レーダーチャートに結果を入れ口腔内の問題点を読み取ることができる。
44	(講義・演習) 予防プログラム②歯周疾患	同上
45	(講義)歯科予防処置法 模擬試験 解説	①歯科予防処置に関する知識の再確認ができる ②修得できていない分野を確認することができる

*ファントム実習か相互実習かは、状況により変更することもあります。

【 歯科予防処置法Ⅲ 】 令和4年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	大塚めぐみ 実務経験 歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院教務副主任。		
授業との関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として、歯科予防処置法に係る基礎知識や予防技術、患者管理について講義・実習する。		
講師名	西口真美 実務経験 歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院専任教員。		
授業との関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として、歯科予防処置法に係る基礎知識や予防技術、患者管理について講義・実習する。		
履修学年・学期	3年前後期	授業方式	講義・演習・実技
		単位数	1単位(40時間)
		授業回数	15
授業目標	歯科衛生士という専門職としての実技能力を高めるために、今まで学んだ知識、技術を踏まえ、歯科衛生士業務についてさらに理解を深め、患者管理、予防業務の知識、技術を修得する。対象者の問題を科学的な思考をもって解決するために歯科衛生過程の基本的な考え方と展開する方法を修得する。		
評価方法	定期試験(100点満点)		
教科書名	①最新 歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」遠藤圭子著 他 医歯薬出版KK ②歯科衛生士臨床のすべて(ベーシックパート)		
参考文献	①最新 歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版 医歯薬出版株式会社 ②歯科衛生士のためのう蝕予防処置法 第2版 医歯薬出版株式会社 ③最新 歯科衛生士教本 保健生態学 第2版 医歯薬出版株式会社 ④最新 歯科衛生士教本 歯周病学 第2版 医歯薬出版株式会社 ⑤最新 歯科衛生士教本 歯科機器 医歯薬出版株式会社		
履修上の注意	①予習を必ず行い講義・実習に臨むこと。プリントを事前に配布します。 ②授業の復習は必ず行うこと。 ③実習は身だしなみをきちんと整えた上で取り組むこと。 ④到達目標は履修状況において変更することがあります。		
回	授業計画	到達目標	
1	(実技)Ⅲ編 3章 ②歯面研磨・歯面清掃 エアフローの取り扱い	口腔内に応じた適切な歯面研磨、歯面清掃を修得するための器械選択及び操作ができる。	
2	(実技)Ⅲ編 3章 ②歯面研磨・歯面清掃 エアフローの取り扱い	口腔内に応じた適切な歯面研磨、歯面清掃を修得するための器械選択及び操作ができる。	
3	(相互実習)Ⅲ編 2章 ③口腔内の情報収集 口腔内観察・染め出し・PTC 1、2人目	患者の口腔内の状況を把握するために、患者の口腔内の状態を的確に観察し、記録することができる。	
4	(相互実習・演習)Ⅲ編 2章 ③口腔内の情報収集 口腔内観察・染め出し・介入計画立案・記録 3人目	患者の口腔内を確実に観察し歯肉の状態や等を把握したうえで、患者と会話をしながら時間内にできる介入計画を立案し実施することができる。	
5	(演習)Ⅲ編 3章 ④フッ化物の応用 フッ化物の応用(復習)症例に応じた準備器材	①症例に応じてフッ化物応用の器材が準備できる。 ②フッ化物の取り扱いを正確に行うことができる。	
6	(相互実習)Ⅲ編 3章 ①スケーリング ②歯面研磨・歯面清掃 拡大鏡使用スケーリング・サブソニックブラシ・PTC操作1人目	①エキスポローリング、スケーリング、ルートプレーニングまでの一連の操作がスムーズに行うことができる。 ②器材の使用目的を理解したうえで、ブラシを的確に歯面に当て染め出し部分を落とし、PTCをよりデリケートに操作できる。 ③インストゥルメントの管理ができる。	
7	(相互実習)Ⅲ編 3章 ①スケーリング ②歯面研磨・歯面清掃 拡大鏡使用スケーリング・サブソニックブラシ・PTC操作2人目	同上	
8	(相互実習)Ⅲ編 3章 ①スケーリング ②歯面研磨・歯面清掃 拡大鏡使用スケーリング・サブソニックブラシ・PTC操作3人目	同上	
9	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章⑤小窩裂溝充填塞法 ラバーダム使用小窩裂溝充填塞法(復習)	ラバーダム防湿及び小窩裂溝充填塞法について術式を理解したうえで、必要な器材の取り扱い及び充填を実施できる。	
10	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面清掃 上顎/下顎 PTC	①コードレスハンドピースをスムーズに操作することができる。 ②器材の管理ができる。	
11	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章 ①スケーリング 拡大鏡使用でのSRP・シャープニング	①拡大鏡を使用し、より精度の高いスケーリング・ルートプレーニングを実施できる。 ②手用スクレーラーの操作方法、シャープニングについて復習し自身の履修度を確認できる。	
12	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章 ①スケーリング 1人パキューム ポケット測定～スケーリング～歯面研磨(PMTC)	①機械的歯面清掃法の応用として、口腔内に応じた適切な器材を選択し、スケーリングとパキューム操作が一人で実施できる。 ②エパチップの使用目的を再確認し準備から操作法について説明できる。 ③痛みを与えることなくエパチップを使用することができる。	
13	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章 ①スケーリング 1人パキューム ポケット測定～スケーリング～歯面研磨(PMTC)	同上	
14	(実技)Ⅲ編 2章 ③口腔内の情報収集 CPIプローブ操作・ファークーションプローブ実習	①CPIプローブの目的を理解し、操作できる。 ②ファークーションプローブの目的を理解し、操作できる。	
15	(模擬試験・講義) 歯科予防処置法 模擬試験解説	模擬試験にて、いままで学んだ内容の理解度を知る。	

*ファントム実習か相互実習かは、状況により変更することもあります。

【 保健指導法 I 】 令和4年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	岩切恵子	実務経験	歯科衛生士。栄養コンシェルジュ二つ星。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院教務主任。
授業との関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として人の健康教育に係る保健指導の基礎知識、行動変容への関わりや技術について講義、演習する。また、栄養コンシェルジュ二つ星として学生の食生活指導も行う。		
履修学年・学期	1年前後期	授業方式	講義・演習・実技
		単位数	2単位(60時間)
		授業回数	30
授業目標	歯科保健指導とは、個々の生活行動を健康維持増進に向かい保健行動へと変容させることである。卒業後において歯科衛生士として臨床及び地域歯科保健活動の中で対象者への適切な支援の実践ができるよう基礎知識、技術や健康に関する行動変容のあり方を学ぶ。また、自身の口腔健康管理も実践できるようになる。		
評価方法	定期試験90点満点 グループ学習評価10点満点(自己評価5点、他者評価5点)		
教科書名	授業計画に記載されている教本は以下番号の書籍を示す <①>最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版」遠藤圭子著他 医歯薬出版KK <②>「オーラルヘルスケア事典」麻賀多美代著 学建書院 <③>最新歯科衛生士教本「歯科衛生学総論」藤原愛子著 医歯薬出版		
参考文献	高齢者とのグッドコミュニケーション(中村千賀子) 歯ブラシ辞典 (松田裕子) 歯科保健関係統計資料 その他、授業の中で紹介します。		
履修上の注意	時間に余裕がある時は、確認小テストを実施するので毎回の復習を行うこと。 新聞の医療に関する記事は毎日チェックすること。 シラバスはあくまで予定であり、皆さんの理解度により変更もあります。		
回	授業計画	到達目標	
1	<①>P2～第1章 歯科保健指導の概要 1. 歯科保健指導の必要性 2. 歯科保健指導の定義 3. 歯科衛生士法による位置づけ 4. 健康教育、行動科学、行動変容とは何か。 5. 個人を対象とする歯科保健指導 6. 集団を対象とする歯科保健指導	1. 保健指導の必要性について説明できる。 2. 歯科保健指導が名称独占であることを説明できる。 3. 生活行動、保健行動、行動変容の言葉の意味を各々説明できる。 4. 個人を対象とする歯科保健指導を行うために必要な学びを理解できる。 5. 集団を対象とする歯科保健指導にどのような場面があるか説明できる。	
2	<①>P8～ 1. 健康の概念(歯科衛生学にて履修済み) ①健康の定義 ②プライマリヘルスケア ③ヘルスプロモーション ④健康管理 2. 日本の健康推進施策 ①健康日本21 3. 予防の概念	1. WHOの健康の定義について説明できる。 2. プライマリヘルスケアについて説明できる。 3. ヘルスプロモーションの定義、目標実現のための5つの活動を列記できる。 4. 健康教育とヘルスプロモーションの違いを説明できる。 5. 口腔健康管理の概念を説明できる。 6. 口腔ケアと口腔健康管理の違いを説明できる。	
3	<①>P88 4章 保健行動支援のための基礎知識 <③>P26～ 行動変容に関連する理論 ①健康信念モデル ②学習理論(オペラント条件づけ) ③社会的認知理論(自己効力感) ④変化のステージモデル ⑤ICF国際生活機能分類 ⑥マズローの欲求階層理論	1. 健康信念モデルを説明できる。 2. 学習理論の3つの基本的要素を列記できる。 3. 社会的認知理論(自己効力感)とは何か説明できる。 4. 行動変容ステージを列記しそれぞれの意味を説明できる。 5. ICFとICIDHの違いを説明できる。 6. マズローの欲求階層理論について説明できる。	
4	<①>P44～3章 食生活指導の基礎知識 <②>P178～ ※栄養素の役割、働き、消化吸収については栄養指導で履修する 1. 国民の健康課題 2. エネルギー、栄養素、食品摂取の変遷 3. 近年の食生活の特徴 4. 食品とう蝕誘発性 5. う蝕予防のための食品の摂取方法	1. 食生活・食習慣の背景を知り現代の問題点を説明できる。 2. 国民のエネルギー、栄養素の摂取変化について簡単に説明できる。 3. 近年の食生活の特徴(問題点)について説明できる。 4. う蝕が生活習慣病である理由を説明できる。 5. しよ糖とう蝕の関係について説明できる。 6. 食品のう蝕誘発性を示す指数について説明できる。 7. う蝕予防のための食品摂取方法を説明できる。	
5	<①>P77～食生活指導の基礎知識 <②>P178～ 1. 歯周病と食生活 2. 酸蝕症と食生活 3. 咀嚼と食品 4. 特別用途食品と保健機能食品	1. 歯周病患者へ食事摂取の指導内容を列記できる。 2. 酸蝕症患者への食事摂取の指導内容を列記できる。 3. 咀嚼の目的、効用について説明できる。 4. 「特別用途食品」「保健機能食品」「歯に信頼マーク」とは何か説明できる。	
6	<①>P138～Ⅲ編 2章 <②>P169～ ブラーク 歯垢染色法 1. 歯垢染色剤の使用法と特徴 2. 歯垢染色剤の所要条件 3. 色素の種類	1. 歯垢染色剤の使用目的について説明できる。 2. 歯垢染色剤の使用法と特徴を列記できる。 3. 歯垢染色剤の所要条件を列挙し種類について分類列記できる。 4. 染色時の注意事項を説明できる。	
7	<①>P156～ 分析のためのデータ 1. 指標 口腔衛生状態の指標 1. (PCR)O'Learyのブラークコントロールレコード(演習) 各自歯垢染色後PCRによる記録	1. (PCR)オレリーのブラークコントロールレコードの特徴を理解する。 2. PCRの判定基準、計算方法を列記することができる。 3. 判定時の注意点を述べるができる。(演習時) 1. 自身の口腔内染色が正確にできる。 2. PCRの記録及び評価が適切にできる。	

回	授業計画	到達目標
8	<①>P156～ 1.OHI (DI CI)	1.OHIとは何か説明できる。 2.OHI-DIとOHI-CIの違いを説明できる。 3.プラークと歯石の判定基準をそれぞれ述べることができる。 4.OHIの計算方法を修得する。
9	<①>P157～ 1.OHI-S (DI-S・CI-S)	1.OHI-Sとは何か説明できる。 2.OHI-SとOHIの違いを説明することができる。 3.OHI-Sの対象歯を列記することができる。 4.OHI-Sの計算方法を説明できる。
10	<①>P264～4章 歯科衛生介入としての歯科保健指導 <②>P16～ 1.口腔衛生管理に関わる指導 ブラッシング (1)歯ブラシ ①手用ブラシの構造 ②毛先の形状と適応例 ③歯ブラシの毛の硬さに影響する因子 ④理想的な歯ブラシの具備すべき条件 ⑤歯ブラシの管理と交換時期	1.歯ブラシの各部の名称が言える。 2.歯ブラシの特徴、利点、欠点を知る。 3.刷毛の種類と利点、欠点を説明できる。 4.毛先の硬さに影響する因子を列記できる。 5.理想的な歯ブラシの具備すべき条件を説明できる。 6.歯ブラシ使用後の管理について説明ができる。 7.歯ブラシの交換時期について説明できる。
11	<①>P269～ <②>P18～ ブラッシングの方法 1.歯ブラシの把持法 2.各種ブラッシング法 毛先を使う方法と脇腹を使う方法 3.適切な歯磨き圧について説明できる。 4.毛先を使う方法Ⅰ ①水平法 ②垂直法 ③スクラッピング法 ④フォーンズ法 ⑤1歯ずつの縦磨き法 ⑥バス法	1.ブラッシングの特徴に応じた歯ブラシの持ち方がわかる。 2.歯ブラシの毛先と脇腹を用いたブラッシング法を列記できる。 3.適切な歯磨き圧について説明できる。 4.毛先を使う各種ブラッシング法と適応症を説明できる。
12	<②>P19～ 脇腹を使う方法 ①ローリング法 ②バス改良法 ③スティルマン法 ④チャーターズ法 総まとめ	1.脇腹を使う各種ブラッシング法と適応症を説明できる。
13	<①>P274～ <②>P24～ その他の清掃方法 補助清掃用具について【グループ学習1回目】 ①電動歯ブラシ・音波ブラシ・超音波ブラシ ②デンタルフロス ③ジェット水流洗口機 ④インターデンタルブラシ ⑤舌ブラシ ⑥義歯ブラシ・義歯清掃剤 ⑦タフトブラシ ⑧スポンジブラシ・巻綿子 ⑨吸引機能付き歯ブラシ	各種補助清掃用具についてのグループ学習 1.班員と積極的に協力し与えられた課題について限られた時間内で理解しながら資料を作成することができる。 2.各種清掃用具(剤)の特徴と使用目的を説明することができる。 3.症例と各種清掃用具を用いた清掃効果について理解する。 4.各種清掃補助用具の使用 방법이説明でき、適切に実践できる。
14	<①>P274～ <②>P24～ その他の清掃方法 補助清掃用具について【グループ学習2回目】 ①電動歯ブラシ・音波ブラシ・超音波ブラシ ②デンタルフロス ③ジェット水流洗口機 ④インターデンタルブラシ ⑤舌ブラシ ⑥義歯ブラシ ⑦タフトブラシ ⑧スポンジブラシ・巻綿子 ⑨吸引機能付き歯ブラシ	各種補助清掃用具についてのグループ学習 1.班員と積極的に協力し与えられた課題について限られた時間内で理解しながら資料を作成することができる。 2.各種清掃用具(剤)の特徴と使用目的を説明することができる。 3.症例と各種清掃用具を用いた清掃効果について理解する。 4.各種清掃補助用具の使用 방법이説明でき、適切に実践できる。
15	<①>P274～ <②>P24～P28～ その他の清掃方法 補助清掃用具について【グループ学習3回目】 ①電動歯ブラシ・音波ブラシ・超音波ブラシ ②デンタルフロス ③ジェット水流洗口機 ④インターデンタルブラシ ⑤舌ブラシ ⑥義歯ブラシ ⑦タフトブラシ ⑧スポンジブラシ・巻綿子 ⑨吸引機能付き歯ブラシ	各種補助清掃用具についてのグループ学習 1.班員と積極的に協力し与えられた課題について限られた時間内で理解しながら資料を作成することができる。 2.各種清掃用具(剤)の特徴と使用目的を説明することができる。 3.症例と各種清掃用具を用いた清掃効果について理解する。 4.各種清掃補助用具の使用 방법이説明でき、適切に実践できる。
16	<①>P274～ <②>P24～ P28～ その他の清掃方法 補助清掃用具について【発表1回目】 ①電動歯ブラシ・音波ブラシ・超音波ブラシ ②デンタルフロス ③ジェット水流洗口機	課題として与えられた補助清掃用具について、特徴、使用目的、使用方法、使用時の注意点などを解り易く説明することができる。 (発表10分、質疑5分)

回	授業計画	到達目標
17	<p><①>P274~ <②>P24~ P28~ その他の清掃方法 補助清掃用具について【発表2回目】 ④インターデンタルブラシ ⑤舌ブラシ ⑥義歯ブラシ</p>	<p>課題として与えられた補助清掃用具について、特徴、使用目的、使用方法、使用時の注意点などを解り易く説明することができる。 (発表10分、質疑5分)</p>
18	<p><①>P274~ <②>P24~ P28~ その他の清掃方法 補助清掃用具について【発表3回目】 ⑦タフトブラシ ⑧スポンジブラシ・巻綿子 ⑨吸引機能付き歯ブラシ</p>	<p>1.課題として与えられた補助清掃用具について、特徴、使用目的、使用方法、使用時の注意点などを解り易く説明することができる。 (発表10分、質疑5分) 2.質問を受け適切に答えられなかった質問事項の理解ができ、補足の説明ができる。 3.教員による質疑、補足説明、復習を受けることで補助清掃用具の理解を深めることができる。</p>
19	<p><①>P274~ <②>P41~ 補助清掃用具についてのまとめ 歯磨剤、洗口剤、液体歯磨剤の特徴、成分、使用方法</p>	<p>1.補助清掃用具について分からなかったところの理解を深めることができる。 2.歯磨剤の薬用成分と適応症を説明できる。 3.歯磨剤、洗口剤、液体歯磨剤の違いが説明できる。 4.洗口剤、液体歯磨剤の使用 방법이説明できる。</p>
20	<p>メーカーによる講義 毛先磨き、MIペースト、音波歯ブラシ、フロッシングなど</p>	<p>メーカーの商品と特徴と使用方法を知ることができる。</p>
21	<p><①>P310~ IV編 1章 <②>P100~ ライフステージに対応した歯科衛生介入 I 1.生涯を通じた歯科保健対策の概要 2.妊産婦期における歯科衛生介入 ①一般の特徴 ②口腔の特徴</p>	<p>1.生涯を通じた歯科保健サービスを理解するため、各対象に応じた歯科の特徴、歯科の問題を列記できる。 2.生涯を通じた歯科保健サービスにおいて行政が関わる具体策や実施のねらいを知る。 3.妊産婦期における一般の特徴を列記できる。 4.妊産婦期における口腔の特徴を説明できる。</p>
22	<p><①>P312~ <②>P100~ ライフステージに対応した歯科衛生介入 I 2.妊産婦期における歯科衛生介入 ③歯科衛生介入 ④栄養指導</p>	<p>1.妊産婦期におけるプロフェッショナルの目標を学び実践に生かすことができる。 2.妊娠初期、中期、後期の母体の変化や目標、対策について知る。 3.つわりの症状がある時の口腔清掃のポイントを学び説明できる。 4.妊産婦期の栄養管理について学ぶ。</p>
23	<p><①>P320~ <②>P70~ 1.新生児、乳児期における歯科衛生介入 ①一般の特徴 ②口腔の特徴 ③歯科衛生介入 ④栄養指導</p>	<p>1.乳児期の主な身体的発育について年齢と特徴を列記できる。 2.乳児期の口腔内状況について年齢と萌出部位を列記できる。 3.乳児期のプロフェッショナルの目標を学び、指導に生かすことができる。 4.離乳食の進め方を説明することができる。 5.食行動と食機能の発達について説明できる。</p>
24	<p><①>P330 <②>P72~ 1.幼児期における歯科衛生介入 ①一般の特徴 ②口腔の特徴 ③歯科衛生介入 1歳6か月健康診査における保健指導 3歳児健康診査における保健指導</p>	<p>1.幼児期の主な身体的発育について年齢と特徴を列記できる。 2.幼児期の口腔内状況について年齢と萌出部位を列記できる。 3.幼児期のプロフェッショナルの目標を学び、指導に生かすことができる。 4.1歳6か月歯科健康診査と口腔保健指導の内容を知り実践に生かすことができる。 5.3歳児歯科健康診査と口腔保健指導の内容を知り実践に生かすことができる。</p>
25	<p><①>P336~ <②>P72~ 2.幼児期における歯科衛生介入 ④食生活の特徴と栄養、間食 ⑤口腔清掃方法、注意点</p>	<p>1.幼児期の前期並びに後期の口腔内の状況と食生活指導のポイントを述べるすることができる。 2.幼児期の口腔清掃方法のポイントを説明できる。</p>
26	<p><①>P338~ <②>P78~ 学童期の歯科保健指導</p>	<p>1.学童期の身体の発達を説明できる。 2.学校保健制度の概要について理解し、歯科衛生士の役割、活動場面を把握する。 3.学童期における口腔内の状況を説明できる。 4.学童期の歯科保健指導のポイントを説明できる。</p>
27	<p><①>P345~ <②>P86~ 青年期の歯科保健指導</p>	<p>1.青年期の一般の特徴を説明できる。 2.青年期の口腔の特徴を説明できる。 3.青年期の歯科保健指導のポイントについて説明できる。</p>
28	<p><①>P350~ <②>P92~ 1.成人期の歯科保健指導 歯科的問題 歯周疾患のある患者への歯科保健指導</p>	<p>1.成人期の生活の背景を理解する。 2.口腔内の特徴を述べるすることができる。 3.歯周疾患患者への介入について概要を簡単に説明できる。</p>
29	<p><①>P350~、P297~ P293~ <②>P114~ 2.成人期の歯科保健指導 各口腔内にあった歯科保健指導 3.生活習慣の指導 禁煙指導</p>	<p>1.各種補綴物にあった歯科保健指導のポイントが説明できる。 2.喫煙者の健康被害を説明できる。 3.喫煙者の口腔内の特徴を説明できる。 4.禁煙外来の介入の流れを簡単に説明できる。 5.禁煙ステージごとの対応が説明できる。</p>
30	<p><①>P360~ 高齢期の歯科保健指導 高齢期の身体的特徴 歯科的問題 口腔内の特徴</p>	<p>1.清潔な口腔が何故QOLに繋がるのか説明できる。 2.高齢者の身体的特徴や口腔の特徴について説明できる。</p>

【 保健指導法Ⅱ 】 令和4年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	岩切恵子	実務経験	歯科衛生士。栄養コンシェルジュ二つ星。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院教務主任。
授業との関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として人の健康教育に係る保健指導の基礎知識、行動変容への関わりや技術について講義、演習する。また、栄養コンシェルジュ二つ星として学生の食生活指導も行う。		
履修学年・学期	2年前後期	授業方式	講義・演習
		単位数	2単位(60時間)
		授業回数	30
授業目標	歯科保健指導とは、個々の生活行動を健康維持増進に向かい変容させることである。卒業後において歯科衛生士として臨床及び公衆歯科衛生活動の中で対象者に寄り添った適切な支援等ができるよう基礎知識、技術を学ぶ。また、2年次は特に超高齢社会における歯科医療の重要性や多様な全身疾患を持った高齢者、介護を要する対象者への係わり方や健康に関する行動変容への指導を学ぶ。また、自身の口腔内でも口腔管理ができるようになる。		
評価方法	定期試験90点満点、グループ学習評価10点満点(自己評価5点、他者評価5点)		
教科書名	最新「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 遠藤圭子著 他 医歯薬出版KK 「オーラルヘルスケア事典」 麻賀多美代著 学建書院		
参考文献	高齢者とのグッドコミュニケーション 中村千賀子 著 歯科保健関係統計資料		
履修上の注意	新聞の医療に関する記事は毎日チェックすること。 シラバスはあくまで予定であり、皆さんの理解度により変更もあります。		
回	授業計画	到達目標	
1	シラバスの説明 幼児期の歯科保健指導・幼児期の一般的特徴 ・幼児期の口腔の特徴 ・幼児期の歯科衛生介入 ・食生活の特徴と栄養、間食	1. 幼児期の身体の発達を説明できる。 2. 学校保健制度の概要について理解し、歯科衛生士の役割、活動場面を把握する。 3. 幼児期における口腔内の状況を説明できる。 4. 幼児期の歯科保健指導のポイントを説明できる。 5. 幼児期の食生活と間食についてポイントを説明できる。	
2	対象別保健指導 学童期の歯科保健指導	1. 学童期の身体の発達を説明できる。 2. 学校保健制度の概要について理解し、歯科衛生士の役割、活動場面を把握する。 3. 学童期における口腔内の状況を説明できる。 4. 学童期の歯科保健指導のポイントを説明できる。	
3	対象別保健指導 青年期の歯科保健指導	1. 青年期の一般的特徴を説明できる。 2. 青年期の口腔の特徴を説明できる。 3. 青年期の歯科保健指導のポイントについて説明できる。	
4	対象別保健指導 成人期の歯科保健指導① 歯科的な問題 歯周疾患のある患者への歯科保健指導	1. 成人期の生活の背景を理解する。 2. 口腔内の特徴を述べることができる。	
5	対象別保健指導 成人期の歯科保健指導①	1. 各種補綴物にあつた歯科保健指導のポイントが説明できる。	
6	対象別保健指導 高齢期の歯科保健指導① 高齢期の身体的特徴 歯科的な問題 口腔内の特徴	1. 清潔な口腔が何故QOLに繋がるのか説明できる。 2. 高齢者の身体的特徴や口腔の特徴について説明できる。	
7	対象別保健指導 高齢期の歯科保健指導② 基本的な口腔清掃	1. 義歯の取扱いについて説明できる。 2. 義歯安定剤、義歯洗浄剤の特徴や取扱いについて説明できる。 3. 高齢者の口腔清掃時のポイントについて説明できる。	
8	対象別保健指導 高齢期の歯科保健指導③ 口腔乾燥症とその対応 まとめ	1. 口腔乾燥症の定義と原因を説明できる。 2. 口腔乾燥症の対処法を説明できる。 3. 口腔乾燥症の対処としての唾液腺マッサージについて説明、指導ができる。	
9	対象別保健指導 成人期の歯科保健指導② 禁煙指導	1. 禁煙指導の必要性について説明できる。 2. 喫煙者の口腔に現れる状態を説明できる。 3. 禁煙指導の進め方について知る。 4. 口腔清掃指導と禁煙サポートについて説明できる。 5. 歯科衛生士が行う禁煙指導を想定し行うことができる。	
10	対象別保健指導 介護を要する人への歯科保健指導① 要介護高齢者の一般的特徴 日常生活自立度(寝たきり度)判定基準 口腔内の特徴	1. 要介護高齢者の特徴について簡単に説明ができる。 2. 障害高齢者の日常生活自立度判定基準(寝たきり度)を説明できる。 3. 認知症高齢者の日常生活自立判定基準を説明できる。	
11	対象別保健指導 全身疾患別グループ学習① ①脳血管疾患 ②虚血性心疾患 ③高血圧症 ④ALS ⑤うつ病 ⑥パーキンソン病 ⑦認知症 ⑧肝炎 ⑨糖尿病 ⑩骨粗しょう症とBP製剤 ⑪慢性腎臓病(CKD)	1. 自身が担当した疾患の特徴を説明できる。 2. 自身が担当した疾病の治療方法、投薬の種類と現状を説明できる。 3. 自身が担当した疾患の歯科治療上の注意点を説明できる。	
12	対象別保健指導 全身疾患グループ学習② ①脳血管疾患 ②虚血性心疾患 ③高血圧症 ④ALS ⑤うつ病 ⑥パーキンソン病 ⑦認知症 ⑧肝炎 ⑨糖尿病 ⑩骨粗しょう症とBP製剤 ⑪慢性腎臓病(CKD)	1. 自身が担当した疾患の特徴を説明できる。 2. 自身が担当した疾病の治療方法、投薬の種類と現状を説明できる。 3. 自身が担当した疾患の歯科治療上の注意点を説明できる。	

回	授業計画	到達目標
13	対象別保健指導 全身疾患グループ学習③ ①脳血管疾患 ②虚血性心疾患 ③高血圧症 ④ALS ⑤うつ病 ⑥パーキンソン病 ⑦認知症 ⑧肝炎 ⑨糖尿病 ⑩骨粗しょう症とBP製剤 ⑪慢性腎臓病(CKD)	1. 自身が担当した疾患の特徴を説明できる。 2. 自身が担当した疾病の治療方法、投薬の種類と現状を説明できる。 3. 自身が担当した疾患の歯科治療上の注意点を説明できる。
14	対象別保健指導 全身疾患グループ学習発表、質疑応答①	1. まとめた内容をわかりやすく説明することができる。 2. 各疾患について、疾患の特徴を説明することができる。 3. 各疾患の治療方法、投薬の種類と現状を説明することができる。 4. 各疾患の歯科治療上の注意点がわかる。 5. 疾患別の口腔衛生指導のポイントを具体的に述べることができる。 6. 疑問点について質問し理解することができる。
15	対象別保健指導 全身疾患グループ学習発表、質疑応答②	1. まとめた内容をわかりやすく説明することができる。 2. 各疾患について、疾患の特徴を説明することができる。 3. 各疾患の治療方法、投薬の種類と現状を説明することができる。 4. 各疾患の歯科治療上の注意点がわかる。 5. 疾患別の口腔衛生指導のポイントを具体的に述べることができる。 6. 疑問点について質問し理解することができる。
16	対象別保健指導 全身疾患グループ学習発表、質疑応答③	1. まとめた内容をわかりやすく説明することができる。 2. 各疾患について、疾患の特徴を説明することができる。 3. 各疾患の治療方法、投薬の種類と現状を説明することができる。 4. 各疾患の歯科治療上の注意点がわかる。 5. 疾患別の口腔衛生指導のポイントを具体的に述べることができる。 6. 疑問点について質問し理解することができる。
17	対象別保健指導 全身疾患グループ学習発表、質疑応答④	1. まとめた内容をわかりやすく説明することができる。 2. 各疾患について、疾患の特徴を説明することができる。 3. 各疾患の治療方法、投薬の種類と現状を説明することができる。 4. 各疾患の歯科治療上の注意点がわかる。 5. 疾患別の口腔衛生指導のポイントを具体的に述べることができる。 6. 疑問点について質問し理解することができる。
18	対象別保健指導 全身疾患グループ学習発表、質疑応答 予備	1. まとめた内容をわかりやすく説明することができる。 2. 各疾患について、疾患の特徴を説明することができる。 3. 各疾患の治療方法、投薬の種類と現状を説明することができる。 4. 各疾患の歯科治療上の注意点がわかる。 5. 疾患別の口腔衛生指導のポイントを具体的に述べることができる。 6. 疑問点について質問し理解することができる。
19	対象別保健指導 全身疾患についてのまとめ①	これまで発表された全身疾患について確認復習を行い理解を深める。
20	対象別保健指導 全身疾患についてのまとめ①	これまで発表された全身疾患について確認復習を行い理解を深める。
21	症例別口腔衛生指導 グループ学習① ①片麻痺などで上手に磨くことができない方 ②認知症患者 ③がん患者 ④口腔機能の低下している方 ⑤出血傾向のある方 ⑥口腔カンジダ症患者 ⑦矯正治療中の方 ⑧インプラント装着の方 ⑨口腔乾燥症患者	1. 各症状を持つ患者への具体的な対応、口腔清掃指導方法がわかる。 2. 指導上特に注意しなければならない点を説明できる。 3. 各症例について理解を深める。
22	症例別口腔衛生指導 グループ学習② 同上のグループにて調べ学習	1. 各症状を持つ患者への具体的な対応、口腔清掃指導方法がわかる。 2. 指導上特に注意しなければならない点を説明できる。 3. 各症例について理解を深める。
23	症例別口腔衛生指導 グループ学習③ 同上のグループにて調べ学習	1. 各症状を持つ患者への具体的な対応、口腔清掃指導方法がわかる。 2. 指導上特に注意しなければならない点を説明できる。 3. 各症例について理解を深める。

回	授業計画	到達目標
24	症例別口腔衛生指導 グループ学習発表、質疑応答①	1. 他の班が調べた症状の患者についても具体的な口腔清掃指導を説明することができる。 2. 指導上の注意点がわかる。
25	症例別口腔衛生指導 グループ学習発表、質疑応答②	1. 他の班が調べた症状の患者についても具体的な口腔清掃指導を説明することができる。 2. 指導上の注意点がわかる。
26	症例別口腔衛生指導 グループ学習発表、質疑応答③	1. 他の班が調べた症状の患者についても具体的な口腔清掃指導を説明することができる。 2. 指導上の注意点がわかる。
27	症例別口腔衛生指導 グループ学習発表、質疑応答④	1. 他の班が調べた症状の患者についても具体的な口腔清掃指導を説明することができる。 2. 指導上の注意点がわかる。
28	症例別口腔衛生指導 グループ学習発表、質疑応答⑤	1. 他の班が調べた症状の患者についても具体的な口腔清掃指導を説明することができる。 2. 指導上の注意点がわかる。
29	対象別保健指導 介護を要する人への歯科保健指導② ①自力で口腔清掃が可能な方 ②介助の必要な方 体位の設定 介護予防(口腔機能の維持・向上)、まとめ	1. 要介護高齢者の口腔清掃時の体位やケアの方法、注意等について説明できる。 2. 介護予防における歯科衛生士の役割について説明できる。 3. 介護を要する人への歯科保健指導に係る重要な項目の復習をし理解の再確認をすることができる。
30	特別な介護を要する方への口腔保健管理 がん患者への口腔健康管理	1. がんの基本的な知識を理解する。 2. がんの治療法について簡単に説明することができる。 3. がん治療患者の口腔内に現れる症状について説明できる。 4. 口腔清掃方法を説明できる。

【保健指導法Ⅲ】 令和4年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	岩切恵子	実務経験	歯科衛生士。栄養コンシェルジュ二つ星。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院教務主任。
授業との関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として人の健康教育に係る保健指導の基礎知識、行動変容への関わりや技術について講義、演習する。また、栄養コンシェルジュ二つ星として学生の食生活指導も行う。		
講師名	野中友紀子	実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士・教育委員。本学院専任教員。
授業との関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士さらには教育委員として、人の口腔健康管理実践のための科学的根拠に基づいた知識や技術、適切な支援や介入方法について講義・演習する。		

履修学年・学期	3年前後期	授業方式	講義・演習	単位数	1単位(30時間)	授業回数	15
---------	-------	------	-------	-----	-----------	------	----

授業目標	歯科保健指導とは、個々の生活行動を健康維持増進に向かい変容させることである。卒業後において歯科衛生士として臨床及び公衆歯科衛生活動において対象者への適切な支援や介入ができるよう基礎知識、技術を学び、健康に関する行動変容への指導を学ぶ。また歯科衛生過程の学習においては、口腔保健の視点から、予防歯科や健康増進を図るため、科学的根拠に基づいた知識や技術を応用し、情報の収集から解釈分析を行い、それを基に歯科衛生介入計画を立案でき実践することができるようになる。また実践したことの最終的評価を行うことを学ぶ。		
評価方法	定期試験(100点満点 岩切70点 野中30点 * 成果物ルーブリック評価実施 ・提出物(記録方法)		
教科書名	最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」遠藤圭子著 他 医歯薬出版KK 「よくわかる歯科衛生過程」全国歯科衛生教育協議会編 医歯薬出版KK オーラルヘルスケア事典 麻賀多美代著 学建書院 最新歯科衛生士教本「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み」保健生態学第3版」可児徳子著 他 医歯薬出版KK		
参考文献	口腔保健管理 可児徳子著 医歯薬出版KK 歯科衛生ケアプロセス 佐藤陽子著 医歯薬出版KK 事例でわかる歯科衛生過程 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版KK		
履修上の注意	新聞の医療に関する記事は毎日チェックすること。 歯科衛生過程演習の前は、科学的根拠に基づいた必要な知識を必ず各自で調べ参加すること。		
回	授業計画	到達目標	
1	(岩切恵子) 個人保健指導 1年生への口腔衛生指導の概要説明 問診とは何か。	1. 対象者への口腔衛生指導の概要を知る。 2. 自身の役割分担を確認する。 3. 患者情報を得るための効果的な手法を説明できる。	
2	(岩切恵子) 対象者把握 I 患者の行動観察と記録方法 医療面接の患者役を配布プリントに作成する	1. 患者各々の事例に対して、患者の行動観察の推測ができる。 2. 事例に対して患者への理想的なアプローチ方法を推測し、適切に声をかけることができる。 3. 4/14(木)に行う医療面接演習時の患者役を締め切りまでに適切に想定することができる	
3	(岩切恵子) 個人保健指導 指導原稿案作成	1. 効果的な指導原稿案を概要に沿って作成できる。	
4	(岩切恵子) 医療面接 I 問診と医療面接についての概要	1. 問診と医療面接の違い、目的について説明できる。 2. 医療面接の流れについて説明できる。 3. 開放型質問、中間型質問、閉鎖型質問について説明できる。 4. 医療面接時の注意点について説明できる。	
5	(岩切恵子) 医療面接 II 模擬患者による医療面接	1. 患者が話しやすい雰囲気をつくることができる。 2. 医療面接の流れを実践することができる。 3. 適切な誘導、座位の指示ができる。 4. インタビューの際、開放型質問、中間型質問、閉鎖型質問を適宜活用することができる。 5. 患者の主訴や伝えたいことを正確に把握、記録することができる。	

回	授業計画	到達目標
6	(野中友紀子) 歯科衛生過程(情報処理)演習1	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保護者対面実習での自身の説明内容と手技を振り返ることができる。 2. 他班の説明と反省点を情報共有し振り返ることができる。 3. 収集したSOデータをヒューマンニーズ理論に分類することができる。
7	(野中友紀子) 歯科衛生過程(情報処理)演習2	
8	(野中友紀子) 全体ワーク 歯科衛生過程(情報処理)演習3	<ol style="list-style-type: none"> 1. 問題点とその原因を抽出することができる。 2. 対象者の情報となる資料を準備することができる。 3. 全てのニーズの関連を考え解釈分析することができる。
9	(野中友紀子) 全体ワーク 歯科衛生過程(情報処理)演習4	
10	(野中友紀子) 全体ワーク 歯科衛生過程(情報処理)演習5	<ol style="list-style-type: none"> 1. 専任の助言をもとにアセスメント内容を改善することができる。 2. 歯科衛生診断文を作成することができる。 3. ニーズの関連を導き出すことができる。 4. 自身の考えを積極的に発言することができる。 5. 他者の話を傾聴しクリティカルシンキングで思考できる。 6. 見直した内容を書面化することができる。
11	(野中友紀子) 全体ワーク 歯科衛生過程(情報処理)演習6	
12	(野中友紀子) 歯科衛生過程(情報処理)演習7	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自身の考えを積極的に発言することができる。 2. 他者の話を傾聴しクリティカルシンキングで思考できる。 3. 自己評価チェックシートの評価ができる。 4. 専任へ対象者情報と合わせアセスメント表を提出することができる。
13	(野中友紀子) 歯科衛生過程(情報処理)演習8	
14	(野中友紀子) 歯科衛生過程(情報処理)演習9	<ol style="list-style-type: none"> 1. 専任の助言をもとにアセスメント内容を改善することができる。 2. 歯科衛生診断文を完成することができる。 3. 歯科衛生診断と歯科衛生ニーズの関連を説明することができる。 4. 全体の関連図をみながら歯科衛生介入の優先順位を検討することができる。 5. 歯科衛生診断の種類を説明することができる。 6. 期日までに成果物を提出することができる。
15	(野中友紀子) 歯科衛生過程(情報処理)演習10	

【 地域歯科保健活動Ⅱ 】 令和4年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	岩切恵子	実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院教務主任。
授業との関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として、地域歯科保健の場面や介入の計画立案の手法について講義、演習する。		
講師名	野中友紀子	実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士・教育委員。本学院専任教員。
授業との関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士さらには教育委員として、人の口腔健康管理実践のための科学的根拠に基づいた知識や技術、適切な支援や介入方法について講義・演習する。		
履修学年・学期	2年前後期	授業方式	講義・演習
単位数	2単位(30時間)	授業回数	15

授業目標	(岩切)集団指導案に基づく演習を省察し改善ができる。また地域歯科保健の概要や場面と内容について学び歯科衛生士行う活動や役割を理解する。 (野中)老年期の歯周基本治療の症例をもとに、歯科衛生過程の考えで自身の思考過程を書面化することができる。さらに健康教育の場での応用法を説明することができる。また保護者対面実習にて歯科衛生過程を実践することで、その流れを把握することができるように講義・演習する。	
評価方法	定期試験(100点満点→岩切30点、野中70点)	
教科書名	最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 遠藤圭子著 他 著 医歯薬出版 「オーラルヘルスケア事典」 麻賀多美代著 学建書院	
参考文献		
履修上の注意	(野中)事前課題は必ず厳守とする。症例検討に必要な教本および文献は各自で準備しておくこと。	
回	授業計画	到達目標
1	(岩切恵子) シナリオ、媒体の修正① ・各班、前回の省察により話し合いそれぞれ修正を行う。 ・各班長を中心に指導担当専任に報告し、指示を受けながら進める。	1.反省内容に基づき修正することができる。 ①シナリオは修正し入力することができる。 ②媒体は修正し、より伝わりやすく作製することができる。
2	(岩切恵子) シナリオ、媒体の修正② ・各班、前回の省察により話し合いそれぞれ修正を行う。 ・各班長を中心に指導担当専任に報告し、指示を受けながら進める。	1.反省内容に基づき修正することができる。 ①シナリオは修正し入力することができる。 ②媒体は修正し、より伝わりやすく作製することができる。
3	(岩切恵子) シナリオ、媒体の修正③ ・各班、前回の省察により話し合いそれぞれ修正を行う。 ・各班長を中心に指導担当専任に報告し、指示を受けながら進める。	1.反省内容に基づき修正することができる。 ①シナリオは修正し入力することができる。 ②媒体は修正し、より伝わりやすく作製することができる。
4	(岩切恵子) シナリオ、媒体の修正④ ・各班、前回の省察により話し合いそれぞれ修正を行う。 ・各班長を中心に指導担当専任に報告し、指示を受けながら進める。	1.反省内容に基づき修正することができる。 ①シナリオは修正し入力することができる。 ②媒体は修正し、より伝わりやすく作製することができる。
5	岩切恵子 1.媒体発表の練習と担当専任による各年齢ごとの媒体指導 ・1年次の反省会の意見を基に修正したシナリオと媒体に基づき発表する。 ・担当専任教員に媒体発表を確認してもらい修正する。	1.反省会での意見を踏まえ適切に修正ができています。 2.1年次発表より完成度が高くなっている。 3.更に各専任教員の指示を受け修正することができる。
6	(岩切恵子) 地域歯科保健のまとめ ①地域歯科保健の評価 ②地域歯科保健活動のフィールド ③学校における歯・口の健康づくりのねらいと内容 ④発達段階に即した歯磨き指導の重点 ⑤事業所における定期健康診断と健康教育の例 ⑥地域支援事業における介護予防事業	1.健康教育の目標を説明できる。 2.健康教育の進め方におけるPDCAサイクルを説明できる。 3.健康教育における受動的、能動的な方法を列記できる。 4.地域歯科保健の評価を説明できる。 5.学校における歯・口の健康づくりのねらいと内容のポイントを列記できる。 6.介護予防事業における歯科衛生士の役割を説明できる。
7	(岩切恵子) 地域歯科保健に関する練習問題と解説	地域歯科保健活動についての問題を解き解説することができる。
8	(野中友紀子) 歯科衛生過程の実践 老年期の歯周基本治療 症例配布(津田おと) 歯科衛生アセスメント～歯科衛生計画立案 (長期目標・短期目標達成) 個人ワーク	1.歯科衛生過程の基礎をもとに、臨床での応用例を説明することができる。 2.歯科衛生過程の実践におけるアセスメントの重要性を説明することができる。 3.臨床における歯科衛生アセスメントの概要を説明できる。 4.模擬症例の歯科衛生アセスメント内容を書面化することができる。 5.模擬症例の歯科衛生診断文を作成することができる。 6.模擬症例の歯科衛生診断文にそった長期目標と短期目標の立案ができる。
9	(野中友紀子) 歯科衛生過程の実践 老年期の歯周基本治療 症例配布(津田おと) 歯科衛生アセスメント～歯科衛生計画立案 (長期目標・短期目標達成) グループワーク	1.歯科衛生アセスメント内容をクリティカルシンキングし見直すことができる。 2.歯科衛生診断文をクリティカルシンキングし見直すことができる。 3.長期目標、短期目標をクリティカルシンキングし見直すことができる。 4.自身の考えを積極的に発言することができる。 5.他者の意見を傾聴することができる。
10	(野中友紀子) 歯科衛生過程の実践 老年期の歯周基本治療 症例配布(津田おと) 歯科衛生アセスメント～歯科衛生計画立案 (長期目標・短期目標達成) グループワーク	1.歯科衛生アセスメント内容をクリティカルシンキングし見直すことができる。 2.歯科衛生診断文をクリティカルシンキングし見直すことができる。 3.長期目標、短期目標をクリティカルシンキングし見直すことができる。 4.自身の考えを積極的に発言することができる。 5.他者の意見を傾聴することができる。 6.班でまとめた歯科衛生アセスメント内容を書面化することができる。 7.期日までに提出することができる。

回	授業計画	到達目標
11	(野中友紀子) 保護者対面実習ロールプレイ①A班 各ライフステージに応じた保護者対面実習説明資料媒体の作成	1.保護者対面実習の流れを把握し必要器材を準備することができる。 2.保護者対面実習での役割を把握し想定した歯科衛生介入ができる。 3.保護者対面実習で対象者へ確認する事項を検討することができる。 4.保護者対面実習で必要な説明用媒体を作成することができる。 5.歯科衛生介入法の復習ができる。
12	(野中友紀子) 保護者対面実習ロールプレイ②B班 各ライフステージに応じた保護者対面実習説明資料媒体の作成	1.保護者対面実習の流れを把握し必要器材を準備することができる。 2.保護者対面実習での役割を把握し想定した歯科衛生介入ができる。 3.保護者対面実習で対象者へ確認する事項を検討することができる。 4.保護者対面実習で必要な説明用媒体を作成することができる。 5.歯科衛生介入法の復習ができる。
13	(野中友紀子) 保護者対面実習A班 歯科衛生過程の臨床応用 包括的支援法の検討 かかりつけ歯科医との連携	1.対象者へ配慮した歯科衛生介入ができる。 2.対象者が安心できるよう実施内容を説明することができる。 3.対象者を理解するために必要な情報の収集ができる。 4.対象者の問題点と強みを引き出せる情報収集ができる。 5.対象者の経時的変化に着目した聴取ができる。 6.対象者の包括的支援法を説明することができる。 7.歯科診断に関わる項目についてかかりつけ歯科医との連携法を説明することができる。
14	(野中友紀子) 保護者対面実習A班 歯科衛生過程の臨床応用 包括的支援法の検討 かかりつけ歯科医との連携	1.対象者へ配慮した歯科衛生介入ができる。 2.対象者が安心できるよう実施内容を説明することができる。 3.対象者を理解するために必要な情報の収集ができる。 4.対象者の問題点と強みを引き出せる情報収集ができる。 5.対象者の経時的変化に着目した聴取ができる。 6.対象者の包括的支援法を説明することができる。 7.歯科診断に関わる項目についてかかりつけ歯科医との連携法を説明することができる。
15	(野中友紀子) 保護者対面実習1回目反省会 歯科衛生過程演習の導入	1.保護者対面実習の流れと手技の振り返りができる。 2.対象者の情報を解釈・分析することができる。 3.他者と意見交換をしながらクリティカルシンキングできる。 4.対象者の不足情報を挙げるができる。 5.地域歯科保健の場面での歯科衛生士の役割概説することができる。

講師名	野中友紀子	実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士・教育委員。本学院専任教員。
授業との関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士さらには教育委員として、各ライフステージに応じた口腔健康管理実践できるように科学的根拠に基づいた知識や技術、適切な支援や介入方法について講義・演習する。		
講師名	下村登貴子	実務経験	熊本県健康福祉部医療政策課
授業との関連性	熊本県における災害医療対策の経験を基に講義する。		
講師名	守谷秀三	実務経験	熊本県健康福祉部医療政策課
授業との関連性	熊本県における災害時保健医療対策の経験を基に講義する。		
講師名	宇治信博	実務経験	歯科医師。令和2年7月豪雨 県歯科医師会コーディネーター。熊本県歯科医師会常務理事
授業との関連性	熊本県歯科医師会常務理事さらには県歯科医師会のコーディネーターの経験を元に、災害時の歯科の役割を講義する。		
講師名	伊形治美	実務経験	歯科衛生士。熊本市の行政歯科衛生士歴32年。熊本県歯科衛生士会地域歯科保健担当理事。
授業との関連性	東日本大震災(宮城県)、平成3年西日本大雨災害(愛媛県)、令和2年7月豪雨災害(人吉市)における災害歯科保健活動及び熊本地震における災害歯科保健活動での経験をもとに講義する。		
講師名	瀬戸口晶子	実務経験	歯科衛生士。現在フリーランスとして企業健診等の地域歯科保健活動を実施。熊本県歯科衛生士会熊本支部副支部長。
授業との関連性	熊本地震の際、歯科衛生士会の災害歯科コーディネーターの役割として、益城町における歯科保健活動を実施。		
講師名	柳本喜恵子	実務経験	歯科衛生士。地域歯科保健活動歴15年。熊本県歯科衛生士会人吉・球磨都市支部長。
授業との関連性	令和2年7月豪雨災害における人吉・球磨郡地域の災害歯科保健活動の経験をもとに講義する。		

履修学年・学期	3年前後期	授業方式	講義・演習	単位数	2単位(30時間)	授業回数	15
---------	-------	------	-------	-----	-----------	------	----

授業目標	<p>〈野中友紀子〉 前期: 1. 今まで履修した知識・技術を生かし自身の地域で生活する高齢者や障害への理解をより深め、さらに臨地実習にて活用および実践できるよう歯科保健活動計画を立案し資料を作成することができる。 後期: 2. 災害発生時に歯科保健医療の専門職として、地域歯科保健活動が実践できるよう基本的な知識、技術を習得する。また本学院の役職員・学生間連携による支援計画を立案しながら心構えを学び、災害時活動マニュアルを完成させることを目標とする。毎年既存のマニュアルをグループワークにより更新していく。</p> <p>〈宇治信博〉 1. 災害教育を通して、歯科医療従事者としての倫理観を養うことができる。 2. 今後起こり得る大規模災害に備え、地域歯科保健活動の重要性を理解し、多職種と共通言語の下で連携を取りながら的確かつ迅速な対応ができるようになる。</p> <p>〈伊形治美〉 1. 災害時における歯科衛生士の役割と歯科保健活動体制の構築を習得する。 2. フェーズに応じた歯科保健対策及び歯科医療対策の知識を深め、歯科ニーズに沿ったコロナ禍における災害時歯科保健活動が実践できるようになる。</p> <p>〈瀬戸口晶子〉 1. 災害時における歯科保健活動を行う際の心がまえや注意事項を理解する。 2. フェーズごとの歯科衛生士の役割について理解を深める。</p> <p>〈柳本喜恵子〉 1. 災害発生時の避難所における歯科保健活動と災害復興時の歯科保健活動の役割や意義について理解を深める。 2. 災害発生時から復興期まで、それぞれの状況にあった歯科保健活動が実践できるようになる。</p>
評価方法	<p>定期試験(後期:100点満点) 小テスト加点(20点) グループワーク時の活動評価を加点。(5点)</p>
教科書名	<p>〈野中友紀子〉 最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版」遠藤圭子 他 著 医歯薬出版 最新歯科衛生士教本「保健生態学第2版」可児徳子 他著 医歯薬出版 「オーラルヘルスケア事典」麻賀多美代著 学建書院 配布資料「臨地実習要綱」</p>
参考文献	<p>〈野中友紀子〉 「災害時の歯科保健医療対策」日本災害時公衆衛生士科研究会編 中久木康一 他著 一世出版 「熊本地震報告書」一般社団法人熊本県歯科医師会 他随時紹介します。 〈宇治信博〉 「災害時の歯科保健医療対策」日本災害時公衆衛生士科研究会編 中久木康一 他著 一世出版 「熊本地震報告書」一般社団法人熊本県歯科医師会 「歯科における災害対策」中久木康一 他著 砂書房 他随時紹介します。</p>
履修上の注意	<p>〈野中友紀子〉 グループワーク時は班員と協力し率先してマニュアルを作成すること。 講義日程は複数講師と相談の上、変更になる場合もあります。 配布資料は各自見やすいよう整理・管理を行うこと。 〈宇治信博〉 必要に応じてディスカッションしてもらいますが関係ない雑談はしないでください。</p>

回	授業計画	到達目標
1	高齢者・障害者(児)に対する地域歯科保健活動1 1. 社会福祉施設実習の目的を説明。 2. 社会福祉施設実習中止にともなう補完実習の流れ(概要)を説明。	地域歯科保健活動の一つである高齢者・障害者社会福祉施設において、保健活動を実践するためのオリエンテーション内容が理解できる。 1. 社会福祉施設実習の目的および目標を説明できる。 2. 社会福祉施設等のルールを理解した行動を説明できる。 3. 対象者へ配慮した態度および対応を説明できる。(守秘義務) 4. 補完実習内容の目的について説明できる。 5. 補完実習内容の流れを説明できる。
2	高齢者・障害者(児)に対する地域歯科保健活動2 1. 区役所実習関連資料の配布説明 ○区役所保健福祉行政の概要 ○熊本市保健所の概要 ○区役所実習OR、事前レポート様式	1. 区役所実習オリエンテーション内容を理解する。 2. 区役所実習事前レポートの作成を行うことができる。 3. 事前学習内容について担当専任の点検を受けることができる。 4. 事前学習を行い対象者への理解を深めることができる。 5. 事前学習レポートの追加訂正を行い提出することができる。 6. 補完実習内容の流れを把握できる。 7. 補完実習内容の評価項目を説明することができる。
3	高齢者・障害者(児)に対する地域歯科保健活動3 1. 歯科保健健康教育内容シナリオ作成 2. 事前課題レポート作成1. 歯科保健活動で活用するレクリエーションシナリオの模範例を説明。 2. 各自レクリエーション内容を検討しシナリオを作成。指定の様式で提出すること。A4 両面 1枚 シナリオに写真、イラスト等のなるべく挿入すること。 参考・引用先(URL)の記入必須	1. 臨地実習施設での歯科保健健康教育内容を検討することができる。 2. 臨地実習施設での歯科保健健康教育内容を完成することができる。 3. 実践に向けてレクリエーションを行うことができる。 上記完成し提出後時間があれば ・臨地実習事前レポートの追加訂正 ・区役所事前ORについて日時、場所、注意点等の伝達。 ・区役所事前レポートの追加訂正をし担当専任へ提出。
4	高齢者・障害者(児)に対する地域歯科保健活動4 1. 歯科保健健康教育内容シナリオ作成 2. 事前課題レポート作成1. 歯科保健活動で活用するレクリエーションシナリオの模範例を説明。 2. 各自レクリエーション内容を検討しシナリオを作成。指定の様式で提出すること。A4 両面 1枚 シナリオに写真、イラスト等のなるべく挿入すること。 参考・引用先(URL)の記入必須	1. 臨地実習施設での歯科保健健康教育内容を検討することができる。 2. 臨地実習施設での歯科保健健康教育内容を完成することができる。 3. 実践に向けてレクリエーションを行うことができる。 上記完成し提出後時間があれば ・臨地実習事前レポートの追加訂正 ・区役所事前ORについて日時、場所、注意点等の伝達。 ・区役所事前レポートの追加訂正をし担当専任へ提出。
5	高齢者・障害者(児)に対する地域歯科保健活動5 1. 社会福祉施設事前課題レポートの完成 2. 区役所実習事前課題レポートの完成 3. レクリエーションシナリオの完成 4. レクリエーション内容の発表・共有 5. 補完実習後のポートフォリオ記入	1. 臨地実習事前学習レポートを完成することができる。 高齢者・障害者施設・区役所 2. 補完実習後に自己評価をもとに振り返りができる。 3. 評価結果を照会し、自身の課題を明確にすることができる。 4. 高齢者の心理的・身体的特徴を説明することができる。 5. 高齢者に必要な対応を説明することができる。 6. 社会福祉施設補完実習の学習成果をまとめることができる。 →補完実習後ポートフォリオにて
6	※地域歯科保健活動講義に関連する文献紹介 DHStyle2020.12月号・2021.3月号抜粋し配布予定 災害時の歯科保健活動1 グループワーク1 班別に課題を提示しワークを実施。 (各場面別、災害内容別など・・・) ※関連する文献紹介 DHStyle2020.12月号・2021.3月号抜粋し配布予定	災害時の歯科衛生士の活動についてこれまでに学んだ視点を踏まえ、分担内容について活動マニュアルを作成することができる。 1. 自身の安全確保をした上で災害時に歯科衛生士学生として地域支援活動ができるよう備えることができる。 2. 地域と連携を図るために支援活動に関連する組織を検討し、関連図を作成することができる。 3. 災害時活動マニュアルを作成するにあたり、隣接する地域の特色や問題点を検討し対策を立案することができる。 4. 各場面に応じた災害支援活動内容をグループ毎に検討することができる。 5. 災害支援活動時の被災者および支援者への精神・心理的ストレスを説明できる。 6. マニュアル作成のためのグループ活動に貢献することができる。
7	熊本県健康福祉部医療政策課〈守谷秀三〉 (1)国、都道府県における災害対策について (2)厚生労働省が行う災害医療対策について (3)熊本県における災害医療提供体制について (4)平成28年熊本地震時の熊本県における急性期医療救護活動について (5)令和2年7月豪雨の熊本県における急性期医療救護活動について	・被災体験・災害対応の実際をふまえ、災害時に必要な知識を説明できる
8	熊本県健康福祉部医療政策課〈下村登貴子〉 (1)災害時保健医療対策の目的 (2)災害時保健医療ニーズと活動の経時変化 (3)平成28年熊本地震における阿蘇地域災害時保健医療活動について (4)熊本地震を契機とした災害時保健医療体制の見直しについて (5)「災害時健康危機管理支援チーム(DHEAT)」について (6)令和2年7月豪雨災害における八代地域災害時保健医療活動について	・災害時保健医療対策の目的が説明できる ・「災害時健康危機管理支援チーム(DHEAT)」の概要が説明できる ・災害時に対応すべき課題を説明できる

9	災害時歯科医療(歯科医師の立場から1) 熊本地震、令和2年7月豪雨の活動を元に災害時の歯科支援活動を学ぶ。	支援する側、受援する側それぞれ大切なことを述べるができる。
10	災害時歯科医療(歯科医師の立場から2) 熊本地震、令和2年7月豪雨の活動を元に地域歯科保健活動の重要性を学ぶ	災害が起きた場合、歯科医療従事者としての確また迅速に対応することができる。
11	災害時歯科保健活動 歯科衛生士の立場から1 1. 災害時歯科保健活動体制の構築 (方針の検討、決定から活動までの流れ) 2. ニーズ把握とフェーズごとの活動内容について 3. 他職種連携の必要性について	1. 災害時における歯科保健活動の流れが列記できる 2. フェーズごとの被災者の歯・口の困りごとを予測できるようになる 3. 避難所などでの活動に必要なニーズ調査やアセスメントの記録ができるようになる 4. 他職種連携の必要性について述べるができる
12	災害時歯科保健活動 歯科衛生士の立場から2 ＜熊本県歯科衛生士会熊本市支部副支部長 瀬戸口晶子＞ 1. 熊本地震後の益城町における歯科保健活動の実際について 2. 他職種連携の実際について ＜熊本県歯科衛生士会人吉・球磨郡市支部支部長 柳本喜恵子＞ 1. 令和2年7月豪雨災害の歯科保健活動の状況について 2. 仮設住宅における災害歯科保健活動について	災害時歯科保健活動 歯科衛生士の立場から2 ＜熊本県歯科衛生士会熊本市支部副支部長 瀬戸口晶子＞ 1. 災害を身近なこととして感じ、平時からの備えができるようになる。 2. 「報告・連絡・相談・確認」の重要性を認識し、災害時の心構えを身につけることができるようになる。 ＜熊本県歯科衛生士会人吉・球磨郡市支部支部長 柳本喜恵子＞ 1. コロナ禍における避難所及び仮設住宅における災害歯科保健活動の意義や役割を理解し、災害時における歯科保健活動が実践できるようになる。
13	災害時の歯科保健活動2 グループワーク2	災害時の歯科衛生士の活動についてこれまでに学んだ視点を踏まえ、分担内容について活動マニュアルを作成することができる。 1. 災害支援活動マニュアル内容を資料としてまとめることができる。 2. 災害支援活動マニュアル内容を説明することができる。 3. 期日までに災害支援活動マニュアルを提出することができる。
14	災害時の歯科保健活動3 グループワーク3	災害時の歯科衛生士の活動についてこれまでに学んだ視点を踏まえ、分担内容について活動マニュアルを作成することができる。 1. 災害支援活動マニュアル内容を資料としてまとめることができる。 2. 災害支援活動マニュアル内容を説明することができる。 3. 期日までに災害支援活動マニュアルを提出することができる。
15	災害時の歯科保健活動4 発表報告会	1. 完成したマニュアルについて発表し、皆と内容を共有することができる。 2. 今後災害が発生した時に活用し、歯科衛生士として率先し活動することができる。 3. 履修した内容を臨床現場で活用できるよう資料を整理・管理することができる。

【 栄養指導Ⅰ 】 令和4年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	松下美由紀	実務経験	管理栄養士・衛生検査技師・熊本地域糖尿病療養指導士・保育士
授業との関連性	地域糖尿病療養指導士でもある管理栄養士としての経験から食生活指導のための栄養素の消化吸収や基礎知識について講義する。		
履修学年・学期	1年後期	授業方式	講義
		単位数	1単位(30時間)
			授業回数 15
授業目標	①健康維持のために、栄養の知識を学ぶ意義を知り、現代人の食物の摂取における栄養上の問題点を考える。 ②栄養素の消化・吸収、体内代謝、エネルギー代謝等の基本の知識を習得する。		
評価方法	定期試験(80点)、提出物(20点)		
教科書名	最新歯科衛生士教本「人体の構造と機能2 栄養と代謝」/「最新 食品標準成分表」高橋信博著 医歯薬出版KK 「最新 食品標準成分表」全国調理師養成施設協会 編集発行		
参考文献	NutritionCare「消化・吸収・代謝のしくみと栄養素のはたらき」山中英治編 メディカ出版 2016年 秋季増刊 自分で作る「生化学ワークノート」医学博士 中元伊知郎 メディカ出版		
履修上の注意	授業中に小テストの実施、または終了後の宿題・レポートの提出あり。提出物については評価に反映する。授業中の態度も評価に反映する。		
回	授業計画	到達目標	
1	栄養の基礎知識 食生活と栄養	1. 栄養の知識を学ぶ理由を理解する。 2. 日本人の栄養摂取状況を知る。	
2	栄養素の消化・吸収	1. 栄養素の消化・吸収の基本を知り、理解する。	
3	栄養素の役割	1. 栄養素の役割について知識を修得する。	
4	食事摂取基準 基礎代謝 エネルギー必要量	1. 食事摂取基準とは何かを知る。 2. 個人のエネルギー必要量の求め方、摂取量の評価法を知る。	
5	日本人の食事摂取基準	1. 「日本人の食事摂取基準」を学び、理解する。	
6	栄養素の働き 糖質の種類	1. 種類と働き、代謝について理解する。	
7	栄養素の働き 糖質の栄養的意味	1. 種類と働き、代謝について理解する。	
8	栄養素の働き タンパク質の種類	1. 種類と働き、代謝について理解する。	
9	栄養素の働き タンパク質の栄養的意味	1. 種類と働き、代謝について理解する。	
10	栄養素の働き 脂質の栄養的意味	1. 種類と働き、代謝について理解する。	
11	栄養素の働き ビタミンの種類 水溶性ビタミン	1. 種類と働き、代謝について理解する。	
12	栄養素の働き 脂溶性ビタミン	1. 種類と働き、代謝について理解する。	
13	栄養素の働き ミネラルの種類 ミネラルの作用と欠乏・過剰症	1. 種類と働き、代謝について理解する。	
14	栄養素の働き 個々のミネラルの作用と欠乏・過剰	1. 種類と働き、代謝について理解する。	
15	栄養素の働き 水と食物繊維 1年のまとめ	1. 水と食物繊維の特性について学び、理解する。	

【 栄養指導Ⅱ 】 令和4年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	松下美由紀	実務経験	管理栄養士・衛生検査技師・熊本地域糖尿病療養指導士・保育士
授業との関連性	地域糖尿病療養指導士でもある管理栄養士としての経験から、食生活指導のための栄養素の消化吸収や基礎知識について講義する。		
履修学年・学期	2年前期	授業方式	講義
		単位数	1単位(30時間)
		授業回数	15
授業目標	①食生活と健康の関連について学び、栄養の知識を習得することで、歯科衛生士として果たすべき役割を理解する。 ②健康づくりに必要な栄養についての知識を高め、多職種との連携ができる歯科衛生士を目指す。 ③ライフステージ別の食事の大切さを理解し、基本の知識を修得する。		
評価方法	定期試験(80点)、提出物(20点)		
教科書名	最新歯科衛生士教本「人体の構造と機能2 栄養と代謝」/「最新 食品標準成分表」高橋信博著 医歯薬出版KK 「最新 食品標準成分表」全国調理師養成施設協会 編集発行		
参考文献	管理栄養士のための疾患・症状・身体のはたらきイラスト事典 本田圭子編著 メディカ出版 2021年版・2022年版「調理師 読本」第一出版株式会社		
履修上の注意	授業中に小テストの実施、または終了後の宿題・レポートの提出あり。提出物については評価に反映する。授業中の態度も評価に反映する。		
回	授業計画	到達目標	
1	1年の復習 国民の健康と栄養の現状	1. 食生活の変遷と国民の栄養データを読み取ることができる。	
2	国民栄養の課題と栄養指導の必要性 国民健康・栄養調査 健康日本21	1. 食生活の変遷と疾病構造の変化や国民栄養の現状を学び、そこから栄養に関する課題を考える。 2. 栄養と健康の関連を学び、栄養指導の必要性を理解する。	
3	食事バランスガイド 特別用途食品制度 食育基本法と食育推進基本計画	1. 国内での食生活改善における取り組みや政策を学び、理解する。	
4	食事環境 食事計画	1. 1年で学んだことを生かし、総合的に理解する。	
5	食生活と健康 ライフステージ 乳児期、幼児期	1. 乳児期、幼児期の特徴を学び、理解する。 2. 食品が与える影響について理解する。	
6	食生活と健康 ライフステージ 学童期、思春期	1. 学童期・思春期における栄養の必要性和影響について理解する。	
7	食生活と健康 ライフステージ 成人期、妊娠・授乳期	1. 成人期における食事の大切さへの理解と、妊娠・授乳期の付加量について理解する。	
8	食生活と健康 ライフステージ 高齢期	1. 高齢期における特性と栄養の必要性について理解する。 2. 嚥下に関連する食品の知識を修得する。	
9	食べ物と健康 食品成分表	1. 食品成分表についての知識を修得する。 2. 食品分類について理解する。	
10	食べ物の物性 食べ物のおいしさ	1. 食べ物の物性について知識を修得する。 2. 食べ物のおいしさについて理解を深める。	
11	病態と栄養 高血圧症と心疾患	1. 各病態について知り、食事との関連を学び、理解する。	
12	病態と栄養 肥満・脂質異常症	1. 各病態について知り、食事との関連を学び、理解する。	
13	病態と栄養 糖尿病	1. 各病態について知り、食事との関連を学び、理解する。	
14	病態と栄養 腎臓病・アレルギー・その他の疾患	1. 各病態について知り、食事との関連を学び、理解する。	
15	多職種連携 2年のまとめと1年のまとめ	1. 多職種連携について知り、歯科衛生士としての役割を考える。 2. 1年で学んだことと、2年で学んだことを総合的に理解する。	

【 歯科診療補助法 I 】 令和4年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	植村博子 実務経験 歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院専任教員。		
授業との関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として、歯科衛生士の専門学科目である歯科診療の補助業務について各治療方法や歯科材料の取り扱い等について講義、実習する。		
講師名	五反知恵美 実務経験 歯科衛生士。本学院専任教員。		
授業との関連性	臨床歯科衛生士としての豊富な経験を踏まえ、歯科衛生士の専門学科目である歯科診療の補助業務について各治療方法や歯科材料の取り扱い等について講義、実習する。		
履修学年・学期	1年前後期	授業方式	講義・実技
		単位数	2単位(60時間)
		授業回数	30
授業目標	(前期)歯科衛生士として、診療補助業務に対応できるように技術及び患者への対応を修得する。 (後期)歯科衛生士として歯科診療補助業務に対応できるように知識、技術を修得する。		
評価方法	定期試験(100点満点)、提出物随時		
教科書名	最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論 第2版」石井拓男著 他 医歯薬出版KK		
参考文献			
履修上の注意	1. 予習を必ず行い講義・実習に臨む。 2. 授業の復習は必ず行うこと。 3. 実習は身だしなみをきちんと整えた上で取り組むこと。 * 到達目標は履修状況において変更することがあります。		
回	授業計画	到達目標	
1	ユニットの構造について1(取り扱い実習)2班に分かれて相互実習 * 2階で実習がない班は課題学習	①歯科診療室にある歯科用ユニットの構造を理解し、歯科診療室にある歯科用ユニットを、患者を不安にさせずに操作できる	
2	滅菌・消毒①(各種消毒・滅菌・消毒と管理)	①医療人として滅菌・消毒について正しい知識を理解し説明できる。	
3	感染防止対策と滅菌・消毒②(講義)・(実習)2階で2班に分かれて滅菌器等の使用説明・消毒	①医療人として滅菌・消毒について正しい知識を理解し説明できる。	
4	薬品・材料の管理、医療廃棄物の取り扱い	①薬品の取扱いについて理解し説明できる。 ②診療室から排出される廃棄物の分別、処理について理解し説明できる。	
5	手指消毒の一般的手技 (講義)植村 (実技)2階:五反/5階:植村	①医療人として手指を介しての微生物の伝播があることを理解し、手指消毒の目的を説明できる	
6	カット綿・綿球・防湿ロール・綿栓作製	①臨床で頻用されている衛生材料の種類と用途を理解し、各種材料を的確かつ敏速に作製準備してスムーズな診療補助ができるようにする。	
7	綿球・綿栓作製試験(グローブなし)	①各種綿球・綿栓の作製方法の確認をし、習熟度を確認する。(グローブ装着なし)	
8	共同動作について1 総論① (* 5階の実験台でポジションからライティングの確認)	①歯科診療を安全に効率よく行うために、必要な共同動作について理解し説明できる。 ②診療時における共同動作における補助を学び、診療がスムーズに進むようにフォーハンドシステムを理解し説明できる。	
9	共同動作について1 総論② (フォーハンドデンティストリー、バキューム、スリーウェイシリンジ)	①歯科診療を安全に効率よく行うために、必要な共同動作について理解し説明できる。 ②診療時における共同動作における補助を学び、診療がスムーズに進むようにフォーハンドシステムを理解し説明できる。	
10	共同動作について2 患者誘導、ポジション、ライティング実習	①必要な知識を身に付け患者を安全にチェアまで誘導できる。 ②患者・術者・補助者の役割を疑似体験し役割と責任を理解し説明できる。 ③術者を側面的に助ける技術を修得できる。	
11	共同動作について3 バキューム操作基本(ファントム)	①診療時における共同動作における補助を学び、診療がスムーズに進むようバキューム操作ができる。	
12	口腔内洗浄、バキューム操作(相互)1	①口腔内洗浄の目的を理解し、併せて口腔内にたまった水や唾液をバキューム操作を行い、患者の苦痛を軽減できる。	
13	口腔内洗浄、バキューム操作(相互)2	①口腔内洗浄の目的を理解し、併せて口腔内にたまった水や唾液をバキューム操作を行い、患者の苦痛を軽減できる。	
14	印象材取扱い・練和について	①各種印象材について、その特徴と用途、取扱い法を理解し説明できる。 ②印象材を適切な計量で攪拌、練和、脱泡し、ひとまとめにでき	

回	授業計画	到達目標
15	印象材練和～盛り付け	①印象材を適切な計量で攪拌、練和、脱泡し、トレーへ盛り付けができる。
16	印象採得1 片顎	①口腔内を観察し、片顎トレーの選択、練和から印象採得までの手順を理解し、正確な印象採得ができる。
17	印象採得2 下顎	①口腔内を観察し、下顎トレーの選択、練和から印象採得までの手順を理解し、正確な印象採得ができる。
18	印象採得3 上顎	①口腔内を観察し、上顎トレーの選択、練和から印象採得までの手順を理解し、正確な印象採得ができる。
19	印象採得4 片顎・下顎・上顎	①口腔内を観察し、各種トレーの選択、練和から印象採得までの手順を理解し、正確な印象採得ができる。
20	模型材料取扱いについて・石膏注入(上顎・下顎)(トリミング・模型調整)	①印象への石膏注入から模型調整までの手順を理解し、操作できる。
21	印象採得～模型作製①	①印象体への石膏注入から模型調整までの手順を理解し、操作できる。
22	印象採得～模型作製②	①印象体への石膏注入から模型調整までの手順を理解し、操作できる。
23	印象採得～模型作製③	①印象体への石膏注入から模型調整までの手順を理解し、操作できる。
24	スタディモデル作製概要説明・作製(台つけ)	①印象採得後、気泡混入のない模型を作製し、平行模型作製の手順、模型の整理法を理解する ②スタディモデルの作製方法を理解し、管理・保管までができる
25	合着材取扱いについて	①合着材と接着材の性質、練和方法を理解し、説明できる。
26	ポリカルボ・グラスアイオノマーセメント、リン酸亜鉛セメント練和	①合着材の性質を理解し、各種セメントの練和ができる。
27	ポリカルボ・グラスアイオノマーセメント、リン酸亜鉛セメント練和復習	①リン酸亜鉛セメント・ポリカルボキシレートセメント・グラスアイオノマーセメントの取り扱い、特徴、用途を理解し練和操作ができる。
28	ポリカルボ・グラスアイオノマーセメント、リン酸亜鉛セメント練和試験	①各種セメントの標準的練和方法の確認をし、習熟度を確認する。
29	ポリカルボ・グラスアイオノマーセメント、リン酸亜鉛セメント練和/綿球・綿栓 再試験 合格者は自主計画立案～自主練習	①各種セメントの標準的練和方法の確認をし、習熟度を確認する。 ②各種綿球・綿栓の作製方法の確認をし、習熟度を確認する。(グローブ装着)
30	印象採得 片顎(復習:実技確認試験のため)	①口腔内を観察し、片顎トレーの選択、練和から印象採得までの手順を理解し、正確な印象採得ができる。

【 歯科診療補助法Ⅱ 】 令和4年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	植村博子	実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院専任教員。
授業との関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として、歯科衛生士の専門学科目である歯科診療の補助業務について各治療方法や歯科材料の取り扱い等について講義、実習する。		
講師名	五反知恵美	実務経験	歯科衛生士。本学院専任教員。
授業との関連性	臨床歯科衛生士としての豊富な経験を踏まえ、歯科衛生士の専門学科目である歯科診療の補助業務について各治療方法や歯科材料の取り扱い等について講義、実習する。		

履修学年・学期	2年前後期	授業方式	講義・実技	単位数	3単位(90時間)	授業回数	45
---------	-------	------	-------	-----	-----------	------	----

授業目標	(前期)歯科衛生士として、診療補助業務に対応できるように技術及び患者への対応を修得する。 (後期)歯科衛生士として歯科診療補助業務に対応できるように知識、技術を修得する。
評価方法	定期試験(100点満点)、提出物随時
教科書名	最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論 第2版」石井拓男著 他 医歯薬出版KK
参考文献	

履修上の注意	1. 予習を必ず行い講義・実習に臨む。 2. 授業の復習は必ず行うこと。 3. 実習は身だしなみをきちんと整えた上で取り組むこと。 * 到達目標は履修状況において変更することがあります。
--------	--

回	授業計画	到達目標
1	成形修復材について	①修復材の種類と特徴について述べる事ができる。
2	修復物の研磨について	①研磨用具の種類、研磨の目的を理解し術式を述べる事ができる。 ②ハンドピースへ研磨用具を取り付ける事ができる。
3	器具の受け渡し1	それぞれの目的に応じた準備や手渡しを、留意点を考えて行う事ができる。
4	ガラスアイオノマーセメント修復～修復物研磨	①ガラスアイオノマーセメント修復の特徴と術式、隔壁用器材を理解し高洞へ填塞できる。 ②研磨の意義を理解し、各種修復物の研磨ができる。
5	コンポジットレジン修復①(光重合レジン・ペースト)～修復物研磨	①コンポジットレジン修復の術式を理解し、酸処理材の取り扱いができる。 ②研磨の意義を理解し、各種修復物の研磨ができる。
6	コンポジットレジン修復②(光重合レジン・フロー)～修復物研磨	①光重合型レジン修復の特徴と術式、隔壁用器材を理解し高洞へ填塞できる。 ②可視光線ライトの取り扱い方を修得できる。 ③研磨の意義を理解し、修復物の研磨ができる。
7	保存修復における歯科診療補助①成形修復	①各種修復法の流れに応じて準備ができる。
8	歯肉圧排、歯間分離、隔壁について	①歯肉排除法、歯間分離法、隔壁の目的を理解し、種類を述べる事ができる。
9	歯肉圧排、歯間分離、隔壁操作について	歯肉排除法、歯間分離法、隔壁の取り扱いを理解し、安全に操作できるようにする。
10	歯肉圧排(相互)	歯肉排除法の取り扱いを理解し、安全に操作できるようにする。
11	口腔外科における歯科診療補助1 器具の種類と用途①	口腔外科における歯科衛生士の役割について述べる事ができる。
12	口腔外科における歯科診療補助2 器具の種類と用途②	カートリッジ式注射器、替刃メス、縫合用器材の種類と用途を理解し、取扱い方を修得できる。
13	歯科補綴における歯科診療補助① 個人トレー作製	個人トレーの作製を学び、個人トレーを使用した印象採得ができる。
14	歯科補綴における歯科診療補助② 義歯	有床義歯の着脱の指導法と衛生管理を理解し、患者指導ができる。
15	歯科補綴における歯科診療補助③ 咬合採得	クラウン、ブリッジ治療における流れを理解し、治療前、治療中、治療後の患者指導ができる。
16	小児歯科における歯科診療補助(乳歯冠作製)	乳歯の歯冠修復の目的を理解し、乳歯用既製冠の手順に沿って作製できる。
17	歯周治療における歯科診療補助①	歯周基本治療と歯周外科治療における歯科診療補助の役割について述べる事ができる。
18	歯周治療における歯科診療補助② 歯肉包帯	①歯肉包帯(歯周パック)の目的を理解し、準備と取扱い方を修得できる。
19	歯周治療における歯科診療補助③ GTR法・エムドゲイン	①組織再生誘導法、エムドゲインの目的・術式を理解し説明できる。
20	歯内療法における歯科診療補助①	①各種歯内療法の流れを説明できる。 ②各種歯内療法の流れに沿って使用器材の説明ができる。

回	授業計画	到達目標
21	歯内療法における歯科診療補助②	同上
22	口内法・口外法撮影の補助	①上下顎臼歯部における正確なX撮影ができるように撮影装置の位置づけができる。 ②適切な自動現像法を修得する。 ③パノラマ撮影の手順を理解できる。 ④撮影したフィルムをマウント整理し解剖学的指標で観察できる。
23	口内法・口外法撮影の補助	同上
24	口内法・口外法撮影の補助	同上
25	口内法・口外法撮影の補助	同上
26	口内法・口外法撮影の補助	同上
27	臨床実習(歯科矯正学分野)の事前学習課題説明・各自まとめ	矯正歯科医院の臨床実習を円滑に進めるために、必要な基礎的知識を各自調べ、理解できるようにする。
28	口腔内写真撮影1(1人目) ビデオ学習(口腔内写真、画像処理説明含む)	①口腔内写真の意義を考え、各部位の撮影ができる。 ②アシスタントの役割を考え、口角鉤の把持、口腔内の乾燥ができる。
29	口腔内写真撮影1(2人目、3人目) ビデオ学習(口腔内写真、画像処理説明含む)	同上
30	口腔内写真撮影(復習)	口腔内状況が判断できる口腔内写真(資料)の作成ができる。
31	暫間被覆冠について(講義)	暫間被覆冠・仮着材を理解し、取り扱いの方法を理解する
32	暫間被覆冠作製①(1歯既製冠・机上)	①暫間被覆冠の目的、種類、取り扱い、作製順序と準備する器具について理解する。 ②既製冠を用い暫間被覆冠を作製できる。
33	暫間被覆冠作製②(筆積み法・机上)	常温重合レジンを用い筆積みにて暫間被覆冠を作製できる。
34	暫間被覆冠③(直接法・ファントム)	常温重合レジンを用い直接法にて暫間被覆冠を作製できる。
35	暫間被覆冠作製④(ブリッジ)印象法・ファントム)	印象材を用いた方法でブリッジの暫間被覆冠を作製できる。
36	口腔咽頭吸引(相互)/静脈内採血	①吸引の手順を理解し、安全かつ適切に吸引することができる。 ②採血法の準備、手順を理解しトレーニングモデルを使用し採血できる。
37	その他の歯科材料について	リベース材、ティッシュコンディショナー、適合検査材の役割について理解し取り扱い方法を習得する。
38	症例に応じた歯科診療補助 (主に器材準備の確認)	各種治療の手順に沿った器材を準備することができる ①直接法修復(光重合型コンポジットレジン修復)②間接法修復(メタルインレー)③麻酔抜髄法④根管充填(側方加圧充填法)⑤部分床義歯治療⑥前歯部前装鑄造冠(既製冠を用いたテンポラリークラウン製作含む)⑦難抜歯
39	寒天印象採得復習(相互)	顎模型上で実習した寒天印象採得が口腔内でスムーズに操作できる
40	バキューム操作復習1(相互)	口腔内洗浄の目的を理解し、併せて口腔内にたまった水や唾液をバキューム操作を行い、患者の苦痛を軽減する。
41	全身疾患を持つ患者と歯科診療補助1	全身疾患をもつ患者に対し、安全かつ確実に歯科診療補助を行うために、疾患の概要や口腔所見を理解し、診療での注意点を説明することができる。
42	全身疾患を持つ患者と歯科診療補助2	同上
43	全身疾患を持つ患者と歯科診療補助3	同上
44	保護者対面実習ロールプレイ①A 保護者対面実習説明資料媒体の作成	①保護者対面実習のアセスメント場面を想定し、習得した知識や技術の確認ができる。 ②患者役からの意見を聞き、問題点や課題を探ることができる。
45	保護者対面実習ロールプレイ①B 保護者対面実習説明資料媒体の作成	対面実習に必要な器材と資料の準備ができる。

【 歯科診療補助Ⅲ 】 令和4年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	植村博子	実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院専任教員。
授業との 関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として、歯科衛生士の専門学科目である歯科診療の補助業務について各治療方法や歯科材料の取り扱い等について講義、実習する。		
講師名	五反知恵美	実務経験	歯科衛生士。本学院専任教員。
授業との 関連性	臨床歯科衛生士としての豊富な経験を踏まえ、歯科衛生士の専門学科目である歯科診療の補助業務について各治療方法や歯科材料の取り扱い等について講義、実習する。		
履修学年・学期	3年前後期	授業方式	講義・実習・実技
		単位数	1単位(30時間)
		授業回数	15
授業目標	歯科及び歯科衛生士の役割について理解を深めるために、学んだ知識と技術を統合して自らが学んでいける能力を構築する。		
評価方法	定期試験(100点満点)※暫間被覆冠作製試験は、定期試験実施後に実施予定、提出物随時		
教科書名	最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論 第2版」石井拓男著 他 医歯薬出版KK		
参考文献			
履修上の 注意	予習を必ず行い講義・実習に臨む。 授業の復習は必ず行うこと。 実習は身だしなみをきちんと整えた上で取り組むこと。 到達目標は履修状況において変更することがあります。		
回	授業計画	到達目標	
1	暫間被覆冠作製1(直接法)前歯～左上1～3ブリッジ	暫間被覆冠の目的、種類、取り扱い、作製順序と準備する器具について復習し作製できる。	
2	印象採得1 水平位操作(全顎)	口腔内観察後、的確にトレーを選択し練和から水平位での印象採得までの操作を対象者に不快感を与えないよう配慮しながら行うことができる。	
3	酸化亜鉛ユージノールセメント練和 (用途別①仮封用、②覆髄用)～受渡し(2人1組)	酸化亜鉛ユージノールセメントの用途別における取り扱い法を修得し指導ができる。	
4	ゴム質印象(相互)	顎模型上で実習したゴム質印象採得が口腔内でスムーズに操作できる。	
5	セメント取り扱い(接着性レジンセメント)	接着性レジンセメントの性質を理解し、臨床での取扱い方法を修得する。	
6	暫間被覆冠作製試験(左上1) →各種セメント練和試験	30分以内に模型上にあった暫間被覆冠を作製し、仮着ができる。	
7	暫間被覆冠作製試験(左上1) →各種セメント練和試験	30分以内に模型上にあった暫間被覆冠を作製し、仮着ができる。	
8	周術期における歯科診療の補助	周術期において、安全かつ確実に歯科診療補助を行うために、口腔機能管理の概要や各期の病態および治療法を理解し、診療での注意点を説明することができる。	
9	嚥下機能評価/車椅子移乗・義歯着脱(マナボット)	①嚥下機能評価について理解し実践できる。 ②安全・安楽に配慮しながら、車椅子に移乗し、目的の場所へ移送できる。 ③安全・安楽に配慮しながら、口腔内状況の確認、義歯の着脱ができる。	
10	印象採得2(寒天印象採得 コア)	①寒天印象材とアルジネート印象材を用いたコアの連合印象の手順と材料の取扱いができる。 ②印象採得後、気泡混入のない模型を作製できる。	
11	(自主練習)口腔内写真撮影	保護者対面実習にあたり、口腔内状況が判断できる口腔内写真(資料)の作成ができる。	
12	保護者実習オリエンテーション	①1回目の問題点を2回目の患者対面実習に向けて課題を踏まえ、介入実施記録(SOAP形式)の記載方法を確認できる。介入計画の立案ができる。	
13	保護者対面実習オリエンテーション	介入計画の確認ができる。	
14	口腔機能低下症の検査について	①口腔機能低下症の機能評価について理解し実践できる。	
15	口腔機能低下症の検査について	①口腔機能低下症の機能評価について理解し実践できる。	

【 歯科材料学 】 令和4年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	清村龍朗	実務経験	歯科医師。歯科診療所院長。
授業との 関連性	臨床歯科医師としての長年の経験を踏まえ、歯科診療に用いる歯科材料の基礎知識と取り扱いについて講義する。		
履修学年・学期	1年後期	授業方式	講義
		単位数	1単位(15時間)
		授業回数	8
授業目標	歯科医療従事者として知っておくべき材料の知識や歯科衛生士としての作業並びにその結果に関わることについての知識と取扱いを学ぶ。		
評価方法	定期試験(92点)・出席点8点(1回欠課1点減点) *授業の1/3以上の欠席は試験の受験資格なし		
教科書名	最新歯科衛生士教本「歯科材料」 末瀬一彦著 他 医歯薬出版KK		
参考文献			
履修上の 注意	私語禁止		
回	授業計画	到達目標	
1	歯科材料と歯科衛生士 歯科材料の基礎知識	<ol style="list-style-type: none"> ①歯科医療と歯科材料の進歩を概説できる。 ②歯科材料の特性を添付文書から読み取ることが出来る。 ③歯科処置の中で使用される材料の特性を理解した上で取り扱うことが出来る。 ④歯科材料の素材を説明できる。 ⑤歯科材料・無機材料・有機材料の一般的特徴を説明できる。 ⑥口腔内外で使用する歯科材料の性質を説明できる。 ⑦歯科材料の所要性質・評価について説明できる 	
2	DHIに関わる材料 印象材	<ol style="list-style-type: none"> ①小窩裂溝充填塞材の種類をあげ、使用上の注意点を説明できる。 ②歯科臨床における印象採得の目的を説明できる。 ③印象材の種類と適応例を説明できる。 ④弾性印象材の成分・組成と硬化のメカニズムを説明できる。 ⑤印象採得時の印象材の変形の重要性を説明できる。 	
3	模型材料	<ol style="list-style-type: none"> ①模型用材料として使用されるものを説明できる。 ②石膏の種類と用途を説明できる。 ③石膏の取扱い・一般的性質を説明できる。 ④石膏の硬化反応・混水比を説明できる。 ⑤石膏の硬化時間に与える事象を説明できる。 ⑥石膏の硬化膨張と吸水膨張に与える事象を説明できる。 	
4	合着材・接着材	<ol style="list-style-type: none"> ①合着材・接着材の種類と成分及び特性を説明できる。 ②合着材・接着材の所要性質を説明できる。 ③合着材の組成と硬化反応及び特徴を説明できる。 ④接着性レジンセメントの組成と硬化反応及び特徴を説明できる。 	
5	成形修復材	<ol style="list-style-type: none"> ①成形修復材の種類と用途を説明できる。 ②成形修復材の取扱いを説明できる。 ③成形修復材の成分・組成と硬化機構を説明できる。 ④成形修復材の歯質との接着機構を説明できる。 	
6	仮封材・暫間修復材・仮着セメント	<ol style="list-style-type: none"> ①仮封材の種類と用途を説明できる。 ②仮封材の取扱いを説明できる。 ③仮封材の組成と特徴を説明できる。 ④暫間修復について説明できる。 ⑤暫間修復に使用される種類・材料を説明できる。 ⑥仮着用セメントの目的を説明できる。 ⑦仮着用セメントの種類を説明できる。 	
7	WAX・金属・セラミックス	<ol style="list-style-type: none"> ①ワックスの種類と用途を説明できる。 ②ワックスの性質を説明できる。 ③歯科で使用する金属の安全性について説明できる。 ④歯科で使用する金属の性質を説明できる。 ⑤歯科で使用する合金の種類と用途を説明できる。 ⑥セラミックスについて概説、用途・性質を説明できる。 ⑦セラミックスの用途・性質を説明できる。 ⑧乳歯の被覆冠を列挙できる。 ⑨乳歯用既製金属被覆冠の目的を説明できる。 ⑩歯周パックの目的と性質を説明できる。 	
8	保存材料・矯正	<ol style="list-style-type: none"> ①ホワイトニングに使用される材料を説明できる。 ②人工歯の種類を説明できる。 ③義歯床の種類を説明できる。 ④ブリッジ・インプラントに使用される材料を説明できる。 ⑤義歯用裏装材を説明できる。 ⑥CAD/CAMIに使用される材料を説明できる。 	

【 歯科器械学 】 令和4年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	神山 敬	実務経験	歯科医師。歯科診療所副院長。本学院教務委員。
授業との関連性	臨床歯科医師としての長年の経験を踏まえ、歯科器械の名称・用途や取り扱いについて講義する。		

履修学年・学期	1年後期	授業方式	講義	単位数	1単位(15時間)	授業回数	8
---------	------	------	----	-----	-----------	------	---

授業目標	歯科器械の名称、形態などを把握し、それぞれの器械の用途を正しく理解する。更に医療事故を未然に防ぐための取り扱いの諸注意を認識する。自らが行う歯科予防処置などの診療行為においては正しい使用法を理解し、安全に使用しなければならない。歯科診療補助においては、歯科医師との絶妙な連携を図るために器械の特徴や構造を理解する。		
評価方法	定期試験(100点満点)		
教科書名	「歯科器械」末瀬一彦 他 著 医歯薬出版KK		
参考文献	歯科器械のカタログ、実物の器材。講師が準備するプリントや動画等。		
履修上の注意	1. 次回の授業内容を予習し、習ったことを復習する。 2. 歯科治療での目的や使用法など分からない事は直ぐに質問する。		
回	授業計画	到達目標	
1	1章 歯科診療における器械の概説 2章 一般診療用器械 ①歯科用ユニット 2章 ②ユニット周辺の大型器械 ③マイクロスコープ、双眼ルーペ ④滅菌・消毒用器械 ⑤歯科用画像診断装置	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科医療器械の分類について説明できる。 ・歯科用ユニットの用途、特徴を説明できる。 ・CAD/CAMテクノロジーのメリットについて説明できる。 ・歯科用ユニット周辺の大型器械の用途、特徴を説明できる。 ・歯科診療で使用するマイクロスコープ、双眼ルーペ、滅菌・消毒器械、歯科用画像診断装置、口腔内写真用器材の用途・特徴を説明できる。 	
2	4章 検査、診断、治療用器械 ①全身管理用器械 ②麻酔用器械 ③救急救命器械 ④歯及び口腔検査用器械 ⑤口腔機能検査用器械	<ul style="list-style-type: none"> ・全身麻酔用器械や麻酔用器械、救急救命器械の用途、特徴を説明できる。 ・歯及び口腔検査用器械の用途、特徴を説明できる。 ・口腔機能検査用器械の用途、特徴を説明できる。 	
3	⑥切削用器械 ⑦成形修復用器械 ⑧歯内療法用器械	<ul style="list-style-type: none"> ・切削用器械の用途、特徴を説明できる。 ・成形修復用器械の用途、特徴を説明できる。 ・歯内療法用器械の用途、特徴を説明できる。 	
4	⑨歯周治療用器械 ⑩印象採得用器械 小テスト ①	<ul style="list-style-type: none"> ・歯周治療用器械の用途、特徴を説明できる。 ・印象採得で使用される器材の用途、特徴を説明できる。 	
5	⑪歯冠修復用器械 ⑫有床義歯用器械 小テスト ① 解説	<ul style="list-style-type: none"> ・歯冠修復用器材の用途、特徴を説明できる。 ・有床義歯用器械の用途、特徴を説明できる。 	
6	⑬口腔外科用器械 ⑭インプラント治療に関連する器械	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔外科用器械の用途、特徴を説明できる。 ・インプラント治療用器械を説明できる。 	
7	⑮矯正歯科用器械 ⑯小児歯科用器具	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科矯正で使用される器械の用途、特徴を説明できる。 ・小児歯科用器械の用途、特徴を説明できる。 	
8	⑰歯科訪問診療用器械 5章 歯科技工用器械 最後のまとめ 小テスト ② 小テスト ② 解説	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科訪問診療用器械の用途、特徴を説明できる。 ・歯科技工室に設置される器械を説明できる。 ・歯科技工作業で使用される器械を概説できる。 	

備考) 第3章は歯科診療補助法で既に履修しているため自己学習となります。

【 感染予防学 】 令和4年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	田尻瑠衣	実務経験	歯科医師。熊本大学医学部付属病院歯科口腔外科勤務。
授業との関連性	病院勤務の歯科口腔外科医の経験を踏まえ、感染経路や対策について講義する。		

履修学年・学期	1年後期	授業方式	講義	単位数	1単位(15時間)	授業回数	8
---------	------	------	----	-----	-----------	------	---

授業目標	感染症および感染予防に関して正しい知識を修得し、自身にとって安全な医療行為ができるようにする。	
評価方法	定期試験(100点満点)	
教科書名	講師資料 「感染対策マニュアル」 熊本歯科衛生士専門学校作成	
参考文献	歯科医療における院内感染予防対策マニュアル	
履修上の注意	配布するプリントを参照しながら特に重要である点を中心に説明していきます。	
回	授業予定	到達目標
1	感染予防学総論	感染予防学を学ぶ意義を理解する。
2	感染経路・院内感染症	①感染経路について説明できる。 ②院内感染症について理解する。
3	滅菌・消毒	①消毒・滅菌について説明できる。 ②消毒・滅菌法の種類および適応を理解する。
4	日和見感染・予防接種	①日和見感染症について理解する。 ②ワクチンの種類について理解する。
5	針刺し事故及び対策	針刺し事故の予防法および事故後の対応について理解する。
6	災害医療	①トリアージについて理解する。 ②災害時に歯科医療従事者ができる事について自分なりに考える事ができる。
7	口腔内の感染症	口腔内における感染症の特徴および原因菌について理解する。
8	まとめ	これまでに学習した内容について、大切なポイントを再認識する。

【 介護技術法 】 令和4年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	吉田 司	実務経験	社会福祉士。介護支援専門員。介護福祉士。高齢者総合福祉センターに勤務。		
授業との関連性	社会福祉士、介護福祉士としての長年の経験を踏まえ、社会福祉制度の概要や介護の知識や技術、態度について講義・演習する。				
履修学年・学期	1年後期	授業方式	講義・実技	単位数	1単位(30時間)
				授業回数	15
授業目標	歯科衛生士として専門的な歯科診療の補助において、高齢者の心身の状態を理解し、身体的ハンディを抱えた要介護者等へ対応できる基本的な介護技術、知識および態度を習得する。				
評価方法	定期試験(100点満点)				
教科書名	「高齢者の歯科診療 はじめの一步 介護・介助の基本スキル」内藤 徹 著他 医歯薬出版KK				
参考文献	授業中に必要に応じて紹介します。				
履修上の注意	講義の前に教科書を熟読し、事前課題を済ませ講義に出席して下さい。 授業では講義の他、演習(実技)も実施していくので、それに対応できる服装で出席して下さい。				
回	授業予定			到達目標	
1	社会福祉制度とサービス 1. 社会福祉法について 2. 社会福祉制度におけるサービスについて			①社会福祉法の概要を理解できる。 ②社会福祉法における各サービス内容を理解できる。	
2	介護保険制度に関する知識 1. 介護保険制度について 2. 介護保険制度における各種サービスについて			①介護保険制度の仕組みを理解することができる。 ②介護保険制度を利用し、各種サービスを利用するまでの過程を理解することができる。	
3	訪問介護サービスに関する知識 1. 訪問介護サービスとは 2. 訪問介護の業務内容について 3. ホームヘルパーの資格について			①訪問介護サービスの意義を理解することができる。 ②業務内容は何か説明できる。 ③訪問介護に必要な資格とは何か説明できる。	
4	サービス利用者の理解 1. 高齢者の疾患の理解 2. 認知症の理解 3. 介護者の心理の理解			①高齢者の主な疾患と特徴を理解できる。 ②認知症の症状とその対応を覚える。 ③介護者の身体的・精神的な負担を理解できる。	
5	住環境整備の知識 1. 高齢者が安全に生活できる住環境の理解 2. 住宅改修について			①高齢者、障がい者にとって安全な住まいを整えるための基本視点を理解できる。 ②介護保険制度を利用した住宅改修を覚える。	
6	介護に関する知識と方法(衣生活) 1. 衣類の役割 2. 衣類の選択 3. 衣類介助			①衣類のいろいろな役割を理解する。 ②身体状況に適した衣類の選択を理解する。 ③高齢者への衣類介助の方法を習得する。	
7	歯科診療所・施設での要介護者への対応 1. 車椅子の操作方法 2. 移動・移乗の基本 3. 移乗の介助方法			①車椅子の操作方法及び介助の方法を習得する。 ②移動・移乗の基本的知識を理解する。 ③車椅子から診療チェアへの移乗。	
8	寝たきり高齢者への対応 1. 寝たきり高齢者の状態などの理解 2. 寝たきり高齢者の体位 3. 寝たきり高齢者の介助			①寝たきり高齢者の状態を理解する。 ②体位変換の方法を理解する。 ③起き上がり、移乗介助の方法を習得する。	
9	介護に関する知識と方法(食事) 1. 食事介助の基本 2. 食事介助の方法			①食事介助の基本的知識を理解する。 ②嚥下障がい、麻痺等のある高齢者への食事介助の方法を習得する。	
10	介護に関する知識と方法(排泄・身体保清) 1. 排泄介助の基本 2. 排泄介助の方法 3. 身体保清の理解 4. 入浴介助、身体清拭の方法			①排泄介助の基本的知識を理解する。 ②排泄介助の方法を習得する。 ③身体保清の基本的知識を理解する。 ④入浴介助、身体清拭の方法を習得する。	
11	視覚障がい・言語障がいのある人の介護技術 1. 視覚、言語障がいの原因と種類 2. コミュニケーション 3. 視覚障がい者の歩行介助			①視覚障がい・言語障がいの原因と種類を理解する。 ②コミュニケーションの方法及び対応を習得する。 ③視覚障がい者の介助の方法を取得する。	
12	要介護者の介護技術(演習) 1. 食事介助 2. 衣類介助			①演習を通じ食事介助の方法を習得する。 ②麻痺のある高齢者への衣類介助の方法を習得する。	
13	要介護者の介護技術(演習) 1. 車椅子の介助 2. 移動・移乗の介助			①車椅子の操作方法を習得する。 ②ベッド、車椅子、ユニット間の移乗介助を習得する。	
14	視覚障がい者の介護技術(演習) 1. 歩行介助 2. 誘導介助 3. 食事介助			①目的地までの歩行介助の方法を習得する。 ②椅子への誘導介助を習得する。 ③食卓にある食事内容の説明及び介助方法を習得する。	
15	要介護者の介護技術(演習まとめ) 1. 実践的な演習 2. 確認テスト(予定)			①車椅子での移動介助、移乗介助全般を歯科衛生士活動で対応できるように、ユニットを使用し、より実践的な介護技術を習得する。 ②定期テスト前に理解度を確認する目的で実施する。	

【 介護技術法 】 令和4年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	吉田 司	実務経験	社会福祉士。介護支援専門員。介護福祉士。高齢者総合福祉センターに勤務。		
授業との関連性	社会福祉士、介護福祉士としての長年の経験を踏まえ、社会福祉制度の概要や介護の知識や技術、態度について講義・演習する。				
履修学年・学期	2年後期	授業方式	講義・実技	単位数	1単位(30時間)
				授業回数	15
授業目標	歯科衛生士として専門的な歯科診療の補助において、高齢者の心身の状態を理解し、身体的ハンディを抱えた要介護者等へ対応できる基本的な介護技術、知識および態度を習得する。				
評価方法	定期試験(100点満点)				
教科書名	「高齢者の歯科診療 はじめの一步 介護・介助の基本スキル」内藤 徹 著他 医歯薬出版KK				
参考文献	授業中に必要に応じて紹介します。				
履修上の注意	講義の前に教科書を熟読し、事前課題を済ませ講義に出席して下さい。 授業では講義の他、演習(実技)も実施していくので、それに対応できる服装で出席して下さい。				
回	授業予定			到達目標	
1	社会福祉制度とサービス 1. 社会福祉法について 2. 社会福祉制度におけるサービスについて			①社会福祉法の概要を理解できる。 ②社会福祉法における各サービス内容を理解できる。	
2	介護保険制度に関する知識 1. 介護保険制度について 2. 介護保険制度における各種サービスについて			①介護保険制度の仕組みを理解することができる。 ②介護保険制度を利用し、各種サービスを利用するまでの過程を理解することができる。	
3	訪問介護サービスに関する知識 1. 訪問介護サービスとは 2. 訪問介護の業務内容について 3. ホームヘルパーの資格について			①訪問介護サービスの意義を理解することができる。 ②業務内容は何か説明できる。 ③訪問介護に必要な資格とは何か説明できる。	
4	サービス利用者の理解 1. 高齢者の疾患の理解 2. 認知症の理解 3. 介護者の心理の理解			①高齢者の主な疾患と特徴を理解できる。 ②認知症の症状とその対応を覚える。 ③介護者の身体的・精神的な負担を理解できる。	
5	住環境整備の知識 1. 高齢者が安全に生活できる住環境の理解 2. 住宅改修について			①高齢者、障がい者にとって安全な住まいを整えるための基本視点を理解できる。 ②介護保険制度を利用した住宅改修を覚える。	
6	介護に関する知識と方法(衣生活) 1. 衣類の役割 2. 衣類の選択 3. 衣類介助			①衣類のいろいろな役割を理解する。 ②身体状況に適した衣類の選択を理解する。 ③高齢者への衣類介助の方法を習得する。	
7	歯科診療所・施設での要介護者への対応 1. 車椅子の操作方法 2. 移動・移乗の基本 3. 移乗の介助方法			①車椅子の操作方法及び介助の方法を習得する。 ②移動・移乗の基本的知識を理解する。 ③車椅子から診療チェアへの移乗。	
8	寝たきり高齢者への対応 1. 寝たきり高齢者の状態などの理解 2. 寝たきり高齢者の体位 3. 寝たきり高齢者の介助			①寝たきり高齢者の状態を理解する。 ②体位変換の方法を理解する。 ③起き上がり、移乗介助の方法を習得する。	
9	介護に関する知識と方法(食事) 1. 食事介助の基本 2. 食事介助の方法			①食事介助の基本的知識を理解する。 ②嚥下障がい、麻痺等のある高齢者への食事介助の方法を習得する。	
10	介護に関する知識と方法(排泄・身体保清) 1. 排泄介助の基本 2. 排泄介助の方法 3. 身体保清の理解 4. 入浴介助、身体清拭の方法			①排泄介助の基本的知識を理解する。 ②排泄介助の方法を習得する。 ③身体保清の基本的知識を理解する。 ④入浴介助、身体清拭の方法を習得する。	
11	視覚障がい・言語障がいのある人の介護技術 1. 視覚、言語障がいの原因と種類 2. コミュニケーション 3. 視覚障がい者の歩行介助			①視覚障がい・言語障がいの原因と種類を理解する。 ②コミュニケーションの方法及び対応を習得する。 ③視覚障がい者の介助の方法を取得する。	
12	要介護者の介護技術(演習) 1. 食事介助 2. 衣類介助			①演習を通じ食事介助の方法を習得する。 ②麻痺のある高齢者への衣類介助の方法を習得する。	
13	要介護者の介護技術(演習) 1. 車椅子の介助 2. 移動・移乗の介助			①車椅子の操作方法を習得する。 ②ベッド、車椅子、ユニット間の移乗介助を習得する。	
14	視覚障がい者の介護技術(演習) 1. 歩行介助 2. 誘導介助 3. 食事介助			①目的地までの歩行介助の方法を習得する。 ②椅子への誘導介助を習得する。 ③食卓にある食事内容の説明及び介助方法を習得する。	
15	要介護者の介護技術(演習まとめ) 1. 実践的な演習 2. 確認テスト(予定)			①車椅子での移動介助、移乗介助全般を歯科衛生士活動で対応できるように、ユニットを使用し、より実践的な介護技術を習得する。 ②定期テスト前に理解度を確認する目的で実施する。	

【 摂食機能訓練法 】 令和4年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	我那覇生純	実務経験	歯科医師。摂食嚥下リハビリテーション学会認定士。歯科診療所院長。
授業との関連性	摂食嚥下リハビリテーション学会認定士としての知識や経験を踏まえ、摂食嚥下機能の基礎知識や評価方法、介入のし方、また多職種との連携について講義・演習する。		

履修学年・学期	2年後期	授業方式	講義・実技	単位数	1単位(30時間)	授業回数	15
---------	------	------	-------	-----	-----------	------	----

授業目標	歯科衛生士の職業に対して、夢と希望と可能性を感じ、自らがそのミッションを果たして行くという想いを描けるようになる。 口腔機能に対するアプローチ、口腔リハビリテーションについて、知識と技術を学ぶ。 チーム医療の中で多職種との協働を果たす役割を知る。
------	---

評価方法	定期試験(100点満点)
------	--------------

教科書名	講師資料 最新歯科衛生士教本「高齢者歯科 第2版」秋山正子著 他 医歯薬出版
------	---

参考文献	必要に応じて参考資料を準備して配布します。
------	-----------------------

履修上の注意	初めて聞く言葉、用語に関心を持ち、予習して授業に臨み、集中して授業を聴き、復習を通して理解を深める。解らない事は講師を尋ねて質問をして理解する。
--------	--

回	授業計画	到達目標
1	歯科衛生士の働き リハビリテーション医学とは 口腔のリハビリテーションとは 障がいのみかた チーム医療 高齢者の特徴とリハビリテーション上の問題点	在宅歯科医療・訪問歯科医療、病棟、介護施設、障がい者施設において、歯科衛生士に必要とされる口腔機能に対するアプローチに対して、知識、技術を学ぶスタート地点に立つ。
2	口腔機能の評価方法について 観察 診察 スクリーニング	口腔機能の評価方法について学ぶ
3	口腔リハビリテーションに必要とされる口腔生理学、口腔解剖学の理解 嚥下内視鏡(VE) 嚥下造影検査(VF)	摂食嚥下機能を理解する為に、口腔・咽頭・喉頭の解剖学と生理学を学ぶ。 嚥下造影検査(VF)、嚥下内視鏡検査(VE)についての理解をする。
4	誤嚥と誤嚥性肺炎 誤嚥、窒息への対応	高齢者に多い誤嚥性肺炎についての原因、症状、治療法を理解する。 歯科衛生士が関わり誤嚥性肺炎の予防について理解する。
5	嚥下訓練について 間接訓練	嚥下訓練の間接訓練の方法と手技について相互実習を通して理解する。
6	嚥下訓練について 直接訓練	食べ物を使い行う直接訓練について相互実習を通して理解する。
7	在宅訪問歯科診療における摂食嚥下リハビリテーション	在宅における間接訓練と直接訓練の方法と実際の様子を理解する。
8	小児の摂食嚥下リハビリテーション1	乳幼児の摂食機能についての理解を深める。
9	小児の摂食嚥下リハビリテーション2	乳幼児、小児の口腔機能に対するリハビリテーションについて学び、バンケード法について相互実習を通して理解する。
10	介護施設における摂食嚥下リハビリテーション	介護保険施設における間接訓練と直接訓練の方法と実際の様子を理解する。
11	介護保険制度について	介護保険制度が出来た事の理解する。 介護保険施設とは、介護サービスの種類の理解する。 歯科医療が関わる介護保険サービスについて理解を深める。
12	在宅患者へのリハビリテーションの実際	在宅で療養していく方々に関わる職種と一緒に教室に来て、実際の口腔機能に対するアプローチを見ながら、これからの歯科衛生士に求められる知識と技術を学ぶ。
13	認知症の方へのアプローチ	歯科医療が認知症の方々にどのように関わり合えば良いのか、歯科衛生士性としての関わり方について理解する。
14	多職種との連携について、ケアマネとの連携 管理栄養士との連携 薬剤師との連携 NSTについて	在宅、施設、介護施設において、また、地域の行政や関連機関との連携を通して、一人の患者に対してどのような支援が歯科衛生士として行う事が出来るのかを理解する。NSTにおける歯科衛生士の役割について理解する。
15	まとめ これまでの講義の重要事項の確認 実際の現場における歯科衛生士の働き	実際の摂食嚥下訓練の様子と口腔リハビリ、歯科衛生士の活動の様子を紹介して、これから求められる歯科衛生士像を提示する。

【 隣接医学救急蘇生法Ⅰ 】 令和4年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	渡辺 洋 実務経験 歯科医師。福岡歯科大学歯科麻酔講座医員。歯科診療所院長。		
授業との関連性	大学病院歯科麻酔講座医員の経験を踏まえ、全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点について講義する。		
履修学年・学期	2年前期	授業方式	講義
		単位数	2単位(30時間)
			授業回数 15
授業目標	歯科衛生士として、全身疾患に関わる幅広い知識を習得する。		
評価方法	定期試験(100点満点)		
教科書名	「歯科衛生士版 改訂 全身管理と救急蘇生法」 渋谷 鈺著 学際企画 「イラストでわかる歯科医学の基礎」 淵端 孟著 他 永末書店 「歯科衛生士のための全身疾患ハンドブック」 橋本賢二著 他 医歯薬出版株式会社		
参考文献			
履修上の注意			
回	授業計画	到達目標	
1	総論	①この学科目で学習する内容を理解する。 ②救急処置の重要性について理解する。 ③救急処置について歯科医行為と歯科衛生士法を理解する。 ④歯科診療室での全身疾患偶発症の主な原因を知る。	
2	循環の生理・解剖	①心臓の構造と特性について理解する。 ②心電図とは何か説明できる。 ③体循環と肺循環について説明できる。	
3	呼吸の生理・解剖	①呼吸とは何か説明できる。 ②呼吸器の構造と呼吸運動、呼吸の調節について理解する。 ③肺気量について説明できる。 ④肺胞のガス交換について理解する。	
4	循環器系・呼吸器系の疾患	①循環器疾患並びに呼吸器疾患の主な疾患名とそれぞれの疾患の概要、症状について理解する。 ②歯科治療に際して注意すべきことについて理解する。	
5	自律神経	①自律神経とは何か説明できる。 ②自律神経の分類と各々の働きを説明できる。	
6	全身の検査と評価	①バイタルサインとは何か説明できる。 ②脈拍とは何か、観察部位、触知方法について説明でき測定できる。 ③脈拍の観察(数、リズム等)を説明できる。 ④呼吸の観察方法を説明できる。 ⑤血圧とは何か、血圧の測定方法、測定時の注意を理解し、測定ができる。 ⑥体温とは何か、測定部位と特徴、体温の正常と異常、影響する因子が説明できる。 ⑦意識レベルの観察方法、モニタリングについて理解する。	
7	歯科治療と麻酔	①麻酔法の種類と特徴について理解する。 ②歯科用局所麻酔薬の種類と特徴、使用方法について理解する。 ③注射針の特徴について理解する。 ④笑気吸入法、静脈内鎮静法の特徴と方法について理解する。 ⑤鎮静法の適用と禁忌について理解する。	
8	代謝系疾患	①糖尿病とは何か、症状等について理解する。 ②糖尿病患者への歯科治療時の注意点と歯周病リスクについて理解する。 ③甲状腺機能障害とは何か、症状等について理解する。 ④甲状腺機能障害患者への歯科治療時の注意点について理解する。	
9	アレルギー疾患	①アレルギーの反応型を理解する。 ②薬物アレルギーについて理解する。	
10	血液に係わる疾患	①血液疾患の種類と各々の症状について理解する。 ②血液疾患患者の歯科治療時の注意点を理解する。	
11	歯科における薬剤	①歯科における薬剤の種類と使用上の注意点を理解する。 ②歯科治療における投薬時の注意点と服薬指導について理解する。	
12	全身麻酔と救急蘇生	①全身麻酔とは何か、歯科における適応症を理解する。 ②全身麻酔薬の種類と特徴を理解する。 ③救急蘇生の概要について理解する。(詳細は3年次に履修)	
13	一般臨床と全身疾患の係わりについて	一般臨床と全身疾患の係わりについて理解する。	
14	口腔領域の解剖	口腔領域の解剖について理解する。	
15	総括	これまで学習した内容を再度確認し、解らない所を質問し理解する。	

講師名	吉武博美	実務経験	歯科医師。歯科口腔病院勤務。日本歯科麻酔専門医。日本障害者歯科学会専門医。有病者歯科医療学会指導医。AHA-BLSインストラクター歯科医師。
授業との関連性	日本歯科麻酔学会認定医・臨床歯科医の経験を踏まえ、救急蘇生の基礎知識、歯科診療時における全身的偶発症や注意が必要な患者の歯科治療について講義を行う。		

履修学年・学期	3年前期	授業方式	講義	単位数	1単位(15時間)	授業回数	8
---------	------	------	----	-----	-----------	------	---

授業目標	1. 歯科診療において、患者様に起こり得る合併症とその対処法について理解できる。 2. 救急蘇生を行うべき状態に早期に気づき、適切に対処できる能力を身につける。	
評価方法	定期試験(100点満点)	
教科書名	「歯科衛生士版 改訂 全身管理と救急蘇生法」 渋谷 鈺著 学際企画	
参考文献		
履修上の注意		
回	授業計画	到達目標
1	第1章 序論 第2章 救急処置に必要な基礎知識	1. 救急処置の重要性について理解できる。 2. 呼吸の生理・解剖について理解できる。 3. 循環の生理・解剖について理解できる。 4. 自律神経について理解できる。
2	第3章 バイタルサイン 第4章 全身状態の評価	1. バイタルサインの要素(脈拍、呼吸、血圧、体温、意識)の評価方法とその意義について理解できる。 2. バイタルサインの測定機器と方法について理解できる。
3	第5章 歯科診療時における全身的偶発症	1. 血管迷走神経性反射・過換気症候群・局所麻酔薬中毒・アレルギー・アドレナリン過敏症とその対処法について理解できる。 2. 局所麻酔時のその他の偶発症とその対処法について理解できる。
4	第6章 全身疾患を有する患者の歯科治療 (注意が必要な患者の歯科治療)	1. 歯科診療を行うにあたり特に注意を要する基礎疾患について理解できる。 (1)循環器系疾患 (2)呼吸器疾患 (3)内分泌・代謝系疾患 (4)その他の疾患
5	第7章 麻酔法 第9章 一般的な救急処置	1. 各種麻酔法について理解できる。(局所麻酔、精神鎮静法、全身麻酔法、はり麻酔など) 2. 外傷、熱傷に対する一般的な救急処置について理解できる。 3. 止血法について理解できる。
6	第8章 救急蘇生法	1. 救急蘇生法を行うにあたって必要な知識を身につける。(体位、患者搬送、加温・保温、心肺蘇生法、酸素療法、静脈路確保、点滴法、救急処置に必要な器具・器材・薬剤) 2. 救急蘇生の基礎知識について理解できる。
7 (6/10)	救急蘇生法 演習	1. 救急蘇生法が必要な患者を早期に認知できる。 2. 正しい方法で、胸骨圧迫・AED使用を実施することができる。 3. 実際に救急蘇生法を実施することができる。
8 (6/10)	救急蘇生法 演習	1. 救急蘇生法が必要な患者を早期に認知できる。 2. 正しい方法で、胸骨圧迫・AED使用を実施することができる。 3. 実際に救急蘇生法を実施することができる。

【 接遇 I 】 令和4年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	山本直子			実務経験	保育士。幼稚園教諭二種免許。企業などで接遇の講師を務めている。		
授業との 関連性	企業の接遇講師の経験を踏まえ、社会人として必要な身だしなみ、マナー、言葉遣いなどについて講義・演習する。						
履修学年・学期	1年前後期		授業方式	講義、実技		単位数	2単位(60時間)
授業回数	30						
授業目標	ビジネス社会で働く上で必要な社会常識、ビジネスマナー、コミュニケーション能力を身につける。						
評価方法	定期試験(90点)、提出物(レポートなど)(5点)、ロールプレイ(5点)など総合的に評価						
教科書名	①歯科スタッフのためのケア・コミュニケーション (株式会社 ウイネット)						
参考文献	講師資料/①実社会で求められるビジネスマナー (株式会社 専門教育出版) ②実践ビジネスマナー (株式会社 ウイネット) ③歯科スタッフのためのケア・コミュニケーション (株式会社 ウイネット)						
履修上の 注意	①資料をファイルするための「接遇専用ファイル」を用意する。 ②意思表示をはっきりする。 ③授業中の挨拶や返事、姿勢などの基本動作を常に意識しきちんと行う。 ④ロールプレイを積極的に行う。 ⑤理解度確認と伝える力をつけるため、毎回、授業のまとめを書き提出する。						
回	授業計画			到達目標			
1	接遇マナーの心構え1 ①気持ちの良い挨拶の仕方 ②挨拶時の声の出し方 ③「知行一致」と「体得」			①「接遇」の意味を知り、日々の行動への落とし込む。 ②自己紹介するときのポイントを知り、できるようになる。 ③他己紹介の方法とメリットを知り、お互いをより深く知る。			
2	接遇マナーの心構え2 ①マナーとエチケットの違い ②身だしなみとおしゃれの違い ③私たちの身だしなみは？			①マナーとエチケットの違い、身だしなみとおしゃれの違いを知り、自らを振り返る。 ②「接遇」の本質を知る。 ③身だしなみとはなんなのか、身だしなみのポイントを知り、学院生活に生かす。			
3	接遇マナーの心構え3 ①気持ちの良いコミュニケーション ②非言語的コミュニケーションの色々 立ち居振る舞いを見直す ③身だしなみの基本			①コミュニケーションに不可欠な気持ちの良い挨拶ができるようになる。 ②様々な場面での非言語的コミュニケーションを知り、日常生活で意識して行動できるようになる。			
4	接遇マナーの5つの基本 ①第一印象の重要性 ②始業・終業のあいさつ ③返事の仕方 ④遅刻・中座のマナー ⑤職員室の入退室のマナー			①接遇の大切さを理解する。 ②第一印象の重要性を理解する。 ③正しい姿勢で始業、終業のあいさつができる。 ④元気な声で返事ができる。 ⑤遅れてきたとき、中座するとき、職員室の入退室で、きちんとあいさつができる。			
5	①廊下のマナー ②階段のマナー ③ドアのマナー ④エレベーターでのマナー ⑤職場でのマナー			①様々なシーンで気持ちの良いあいさつができる。 ②きちんとした立ち方、座り方、歩き方などの基本姿勢ができる。 ③様々なシーンでの立ち居振る舞いを知る。 ④出る人と入る人の優先順位を理解し実践できる。			
6	言葉遣い1 ①正しい敬語 ②敬語の分類(尊敬語・謙譲語・丁寧語・丁寧語・美化語)			①尊敬語と謙譲語の違いを理解し、使い分けができる。 ②間違った尊敬語と謙譲語を指摘し、訂正することができる。 ③内部と外部の呼称の使い分けができる。			
7	言葉遣い2 ①敬語の使い分け			①ワークシートを通して、様々な敬語の使い分けを理解する。			
8	言葉遣い3 ①様々な言い回し(肯定形、依頼形、マイナスプラス法、サンドイッチ法ほか) ②相手に伝わる言い方			①言い回しを変えることで、同じ内容でも伝わり方が変化することをワークを通して知る。 ②ロールプレイを通して、同じ言葉遣いでも言い方の違いで伝わり方が変わることを知る。			
9	言葉遣い4 ①クッション言葉 ②職場用語、接客用語 ③否定表現、肯定表現、依頼形			①クッション言葉を使用した言い回しを学ぶ。 ②仕事の現場でよく使用する言葉遣いを知る。 ③同じ言葉でも、言い方が変われば伝わり方が変わることを知る。 ④依頼形や肯定語などで話すことができるようになる。			
10	言葉遣い5<様々な場面での言葉遣い> ①使ってはいけない言葉遣い ②好ましい言い回し ③陳謝の言葉、依頼するときの言葉			①様々な場面の応対において、最適な言葉遣い、言い回しを考える。 ②相手に、より真意が伝わる言い回しを知る。 ③陳謝や依頼時の誠意が伝わる言い方を学ぶ。			
11	言葉遣い6 ①敬語の総復習(ワーク)			①これまでの授業内容の理解度をはかる。 ②不足部分を認識し、意識して使えるようになる。			

回	授業計画	到達目標
12	ビジネス文書 ①文書の受発信 ②宛名の書きかた ③手紙の書きかた	①手紙の組み立て方や書きかたを知る。 ②お礼状を実際に書いてみる。 ③手紙を書くときの様々なポイントを確認する。
13	メールやFAXの送受信 ①受発信 ②本文の書き方 ③気を付けること	①メールやFAXし湯時の基本や作衛のポイントを知る。 ②実際に送信してみる。
14	来客対応の流れ ①受付～名刺の受け渡し～誘導・方向の指示し方～ドアの開閉～お茶の出し方～見送り ②席次	①来客対応の流れを知る。 ②物の受け渡し、名刺の授受の基本を知る。 ③誘導の仕方、方向指示の仕方、ドアの開閉の仕方、階段の上り下りなど様々なシーンでの立ち居振る舞いを知る。 ④様々な状況での上座下座を知る。
15	電話対応の基本 ①かけ方のポイント ②受け方のポイント ③名乗らないとき、聞き直すとき、聞き取りにくい時、携帯電話のとき など	①電話対応の基本を知り、実践できる。 ②様々な場面での受け応え方を知る。 ③電話で話すときの声のトーンや大きさ、スピードなどが適切にできる。
16	電話対応の応用 ①名指し人がいない場合の対応 ②伝言を受けるときのポイント ③伝言メモの取り方、処理の仕方	①名指し人がいない場合の様々な対応ができるようになる。 ②伝言受時のメモの取り方、復唱の仕方を知る。 ③伝言メモを実際に書くことができる。 ④名指し人不在時に何が必要なのかを確実に知る。
17	電話対応1 ①電話の仕組み ②電話対応の心構え ③電話対応の流れ ④ビデオ視聴	①電話対応の基本を知り、実践できる。 ②様々な場面での受け応え方を知る。 ③電話で話すときの声のトーンや大きさ、スピードなどが適切にできる。
18	電話対応2 ①基本取次ぎ ②ロールプレイ ③不在時の様々な電話対応	①名指し人に取り次げない場面での様々な対応を知る。 ②文章を読まなくても言えるようになる。 ③声には表情も態度も必要であることを体験する。
19	電話対応3 ①職場での様々な電話対応 ②伝言の受け方・伝え方 ③伝言メモの書きかた ④間違い電話の対応	①様々な場面での対応の仕方、言葉遣いを知る。 ②ロールプレイで実際に体験する。 ③自分の声を聞いて、さらに気持ちの良い電話対応を目指す。
20	電話対応4 ①電話のかけ方 ②かけるときの気遣い	①電話をかけるときのポイントを知る。 ②かけるときの気遣いを考える。
21	電話対応5 ①自分の声を確認する ②ロールプレイ(2人組)	①2人組で名指し人が不在の場合のロールプレイをする。 ②自分の対応を実際に聴き、言い方・話し方・言葉遣い・口調・スピードなどを確認する。
22	来客対応1 ①名刺とは ②名刺の取扱い方、名刺交換の仕方	①名刺の役割、取扱いで気を付けることなどを知り、実際に授受を体験する。 ②来客対応の一連の流れをロールプレイで経験する。
23	来客対応2 ①受付～名刺の受け渡し～誘導・方向の指示し方～ドアの開閉～見送り ②席次	①来客対応の流れを知る。 ②物の受け渡し、名刺の授受の基本を知る。 ③誘導の仕方、方向指示の仕方、ドアの開閉の仕方、階段の上り下りなど様々なシーンでの立ち居振る舞いを知る。 ④様々な状況での上座下座を知る。
24	来客対応3 ①来客対応の手順(お茶の接待～見送り) ②応対時の様々な言葉かけ ③ビデオ視聴	①美味しいお茶の入れ方、スマートなお茶の出し方、接待時のポイントを知る。 ②心が伝わる環境設営、声掛けを考える。 ③ビデオを視聴し、現場での動き方を確認する。
25	来客対応ロールプレイ<練習> <受付～名刺の授受～誘導～お茶の接待～見送り>	①お客様、受付、上司、とそれぞれの役割を経験することにより、より気持ちの良い、スムーズな対応を体感する。 ②実際に行うことにより、自分の所作を確認する。
26	来客対応ロールプレイ<実践> <受付～名刺の授受～誘導～お茶の接待～見送り>	①お客様、受付、上司、とそれぞれの役割を経験することにより、より気持ちの良い、スムーズな対応を体感する。 ②実際に行うことにより、自分の所作を確認する。

回	授業計画	到達目標
27	指示・命令の受け方 ①聴き方 ②受け方 ③相談・連絡の仕方	①聞き上手の基本と共感することの重要性を理解する。 ②業務遂行の基本である指示命令の受け方を知る。 ③指示命令→報告のロールプレイを通して自分の足りない部分を知る。
28	報告・連絡の仕方 ①報告・連絡時のポイント ②事例による報告・連絡ロールプレイ	①業務遂行の基本である指示命令の受け方、報告連絡相談の仕方を知る。 ②学院生活でもきちんとした報告連絡相談ができるようになる。 ③指示命令→報告のロールプレイを通して、自分が足りていないところを確認し、実践する。
29	自らを知る ①タイプ別診断 ②感情と行動の傾向を知り、他者とのコミュニケーションのポイントを考える	①感情と行動の傾向を知り、他者とのコミュニケーションのポイントを考える
30	まとめ ①接遇に対する自分の考えをまとめる ②今後の目標を設定する	①1年間学んだことを通して、接遇に対する考えを整理する。 ②目標を設定し、有言実行していけるよう相互激励する。

【 接遇Ⅱ 】 令和4年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	山本直子	実務経験	保育士。幼稚園教諭二種免許。企業などでの接遇講師。		
授業との関連性	企業の接遇講師の経験を踏まえ、社会人として必要な身だしなみ、マナー、言葉遣いなどについて講義・演習する。				
履修学年・学期	2年前後期	授業方式	講義、実技	単位数	2単位(60時間)
授業回数	30				
授業目標	社会人として、また歯科医院で働く医療人として求められるコミュニケーション能力を身につける。				
評価方法	定期試験(90点)、提出物(レポートなど)(5点)、ロールプレイ(5点)など総合的な評価				
教科書名	①歯科スタッフのためのケア・コミュニケーション (株式会社 ウィネット)				
参考文献	講師資料/①歯科スタッフのためのケア・コミュニケーション (株式会社 ウィネット) ②コミュニケーション技法 (株式会社 ウィネット)				
履修上の注意	①資料をファイルするための「接遇専用バインダー」を用意する。 ②習ったことを必ず実践する。 ③丁寧な挨拶や気持ちの良い返事、美しい姿勢など、基本動作をきちんと行う。 ④意思表示をはっきりする。 ⑤ロールプレイは積極的に行う。				
回	授業計画			到達目標	
1	<言葉遣い>の復習1 ①敬語テスト ②社内外での使い分け ③おかしい敬語の色々 ④使ってはいけない言葉遣い			①敬語のパターンを確認する。 ②即座に使えるようになる。 ③よくみかける間違っ敬語を確認する。	
2	<言葉遣い>の復習2 ①クッション言葉 ②依頼形 ③肯定表現 ④意向に添えない場合の代案			①敬語が使えるだけでなく、好感を持っていたげる言い回し、言い方ができるようになる。	
3	様々な場面での言葉遣い1 ①使ってはいけない言葉遣い ②好ましい言い回し			①否定語や曖昧語を使わないようにして話すことができる。 ②同じ言葉でも伝わる言い方ができるようになる。	
4	様々な場面での言葉遣い2 ①陳謝の言葉 ②依頼するときの言葉			①依頼形や肯定語などで話すことができるようになる。 ②陳謝や依頼時のきちんとした言い方、気を付けるべきポイントなどを知る。	
5	<電話応対>の復習1 ①電話の受け方 ②電話のかけ方 ③伝言メモの取り方 ④わからない時の答え方			①電話の基本を復習し、必ずできるようになる。 ②5W3Hを覚え、メモを素早く取れるようになる。 ③様々な場面での受け答えを知る。 ④ビデオ視聴の中で、自ら回答を見つける	
6	<電話応対>の復習2 ①電話応対のロールプレイ			①数パターンの電話応対を実際にロールプレイにより自分の応対の特徴を知る。	
7	<電話応対>の復習3 現場での様々な場面での電話応対 ①場所の問い合わせ ②予約			①様々な場面での電話応対を考える。 ②敬語の使い方、言葉遣いは間違っていないか、言い回しは優しいか、的確かなど、グループで知恵を出し合い、完成させる。	
8	<電話応対>の復習4 現場での様々な場面での電話応対 <前回の解答>			①好ましい話し方を知る。 ②なぜその言い方が必要なのか、患者感情を考える。	
9	来客応対ロールプレイ<練習><受付～名刺の授受～誘導～お茶の接待～見送り>			①お客様、受付、上司、とそれぞれの役割を経験することにより、さらに気持ちの良い、スムーズな応対を体感する。 ②練習により所作を洗練させる。	

回	授業計画	到達目標
10	来客対応ロールプレイ<実践①> <受付～名刺の授受～誘導～お茶の接待～見送り>録画	①実際に人前で行うことにより自分の所作を確認する。 ②他人の実技を見ながら、自己を振り返る。
11	来客対応ロールプレイ<実践②> <受付～名刺の授受～誘導～お茶の接待～見送り>確認・フィードバック	①自己の実技を振り返り、良く出来たところや不足を確認する。 ②他者のアドバイスを受け、今後の鍛錬の糧にする。
12	<ビジネス文書>の復習1 ①文書について ②文書の作成と取扱い ③社外文書の形式 ④ビジネス文書用語	①文書の役目や文書の流れ、種類などを知り、きちんとした文書作成と管理ができるようになる。 ②ビジネス文書で使用する言い回しや決まりを知る。
13	<ビジネス文書>の復習2 ①文書の受発信 ②ファイリングの仕方 ③手紙の書きかた ④宛名の書きかた ⑤郵便の知識	①手紙の組み立て方や書きかたを知る。 ②お礼状を実際に書いてみる。 ③手紙を書くときの様々なポイントを確認する。 ④普通郵便以外にも様々な用途に応じた郵送形態があることを知る。
14	メール(SNS)等について ①メールの受発信の仕方 ②送受信時の注意点 ③SNS発信時の注意点	①メールの送受信時のポイントを確認する。 ②ビジネス文書とメール送信の違いを確認する。 ③SNS発信時の注意点、コンプライアンスを知る。
15	職場外での様々なマナー1 ①冠婚葬祭のマナー	①冠婚葬祭時のマナーを知り、実践できるようになる。
16	職場外での様々なマナー2 ①訪問と面談のマナー ②接待のマナー	①訪問前の準備や挨拶の仕方、留意点を知る。
17	職場外での様々なマナー3 ①食事のマナー ②乗り物のマナー	①プライベート、及びオフィシャルで食事をする時のマナーの目的とポイントを知る。 ③乗り物の席次をはじめ、様々な場面での席次を理解する。
18	<執務の基本>復習 ①指示命令の受け方 ②報告連絡の仕方 ③整理整頓の仕方	①実習時の指示・命令や報告・連絡を想定し、ロールプレイする。 ②整理整頓の基本を確認し、日常生活に活かす。
19	受容と共感のコミュニケーション1 ①受容と共感のスキル ②傾聴のスキル	①受容的な反応、非受容的な反応を理解し、ロールプレイで体感し、その時の感情を経験する。 ②傾聴の姿勢や行動を知り、ロールプレイで確認する。 ③相手のご満足を得、信頼関係を築くためにはどのようなやり取りが必要かを考える。
20	受容と共感のコミュニケーション2 ①アサーティブなコミュニケーション (応対事例を考える)	同上
21	苦情・クレーム対応の基本1 ①クレームのメカニズム ②クレームに対する心構え ③対応のステップと気を付けること	①クレームとは何か、対応の心構えを知る。 ②対応は日々の接遇につながっていることを認識する。 ③対応時の言葉遣いや表情、態度をビデオで確認する。
22	苦情・クレーム対応の基本2 ①要求に応えられない場合の対応 ②様々な「謝罪」の仕方 ③様々な「提案」の仕方	①実際の現場での対応を考える。 ②ロールプレイを通して、その対応が相手にとってどのようなものであるかを確認する。

回	授業計画	到達目標
23	高齢の患者様、小児の患者様とのコミュニケーション ①小児の患者様対応のポイント ②高齢の患者様対応のポイント	①小児の患者に対して気を付けるべきポイントとあわせて、保護者に対する関わりも考える。 ②高齢になると身体的・精神的にどうなるのかを理解し、医療の現場でどのような配慮が必要かを考える。
24	配慮ある支援が必要な患者様とのコミュニケーション ①視覚障害者とのコミュニケーション ②聴覚障害者とのコミュニケーション ③言語障害者とのコミュニケーション	①様々な障害がどのようにについての理解を深め、医療の現場でどのような状況になるのかを知る。 ②障害をお持ちの方に対するそれぞれの配慮のポイントおよび心構えを学ぶ。
25	【現場での対応を考える1】 ①初診の患者様の受付 ②診察券や保険証を忘れた場合	①まず相手の要求がなんであるかを正しく見極める。 ②その先にある言葉にならない要求を探し出す。 ③相手の感情を想像し、満足を得、信頼関係を築くためにはどのようなやり取りが必要かを考える。
26	【現場での対応を考える2】 ①何度も無断キャンセルする患者様 ②連絡なしで大幅に遅れた患者様	同上
27	【現場での対応を考える3】 ①会計時のやり取り ②予約と次回来院を促す	同上
28	【現場での対応を考える4】 ①「時間が合わない」という患者様 ②「多忙で来られない」という患者様	同上
29	自己啓発と目標設定1 ①自己啓発とは ②目標設定の重要性 ③目標の立て方のポイント	①自己啓発とは何かを知り、今後の人生に役立てる。 ②日々の生活、人生においても大変重要な目標設定の仕方やポイントを知り、実際に目標設定してみる。
30	まとめ ①「働く」ということ ②目標と今後の決意	①「働く」とはどのようなことなのかを改めて考え、3年次の実習に向けての自身の心構えを確認する。 ②目標を発表し、有言実行のために相互激励する。 ③他者の価値観や目標を知ることによって自分を振り返る。

【 医療保険事務 】 令和4年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	松岡拓治	実務経験	歯科医師。東京医科歯科大学歯学部冠矯正歯学講座入局。熊本県歯科医師会前理事。歯科診療所院長。
授業との関連性	臨床歯科医、熊本県歯科医師会前理事としての知識、経験を踏まえ、介護保険制度の概要、居宅や施設への訪問診療・口腔健康管理と介護保険の関りについて講義する。		

講師名	中川真樹	実務経験	歯科医師。歯科診療所院長。
授業との関連性	臨床歯科医としての経験を踏まえ、日常診療に係る医療保険制度の概要やコンピューターを活用した歯科診療について講義する。		

講師名	一瀬智美	実務経験	株式会社医療事務部勤務。
授業との関連性	医療事務としての長年の実績をもとに医療保険制度概要や診療報酬制度の基本的な知識について講義する。		

履修学年・学期	3年前期	授業方式	講義・演習	単位数	1単位(30時間)	授業回数	15
---------	------	------	-------	-----	-----------	------	----

授業目標	<松岡拓治> 1. 介護保険の内容を理解する。 2. 介護保険報酬請求の実務を行える。 3. 居宅や施設での口腔ケアの実施にあたり、他職種との連携を図るための知識を獲得する。 <一瀬智美> 1. 医療保険制度の概要から診療報酬制度の基本的なしくみ、諸業務のよりどころとなっている法令との結びつき、請求・支払いの流れに至るまでの必要な知識を理解する。 <中川真樹> 1. 医療保険を理解する。 2. 保険医療の実務を理解し、レセコンを使ってレセプトが発行できるようになる。 3. 居宅や施設での口腔ケア等の実施にあたり、他職種との連携を踏むために必要な介護保険の知識を獲得する。
------	---

評価方法	定期試験(100点満点)
------	--------------

教科書名	「歯科衛生士のための衛生行政社会福祉社会保険 第9版」 末高武彦著 医歯薬出版KK
------	---

参考文献	厚労省のホームページ 介護支援専門員基本テキスト 新訂 医療事務の手引き 令和2年度版 社会保険研究所 保険診療ハンドブック 熊本県歯科医師会
------	--

履修上の注意	
--------	--

回	授業計画	到達目標
1	(松岡拓治) 社会保険 P91~93 介護保険の基礎知識	基礎知識の獲得 高齢者の医療福祉の流れと介護保険を理解する。
2	(松岡拓治) 介護保険の基礎知識	基礎知識の獲得 居宅や施設への訪問診療と介護保険の関わりを理解する。
3	(松岡拓治) 介護保険の基礎知識	基礎知識の獲得 請求の実務を理解する。
4	(松岡拓治) 居宅、施設での口腔ケアと介護保険	居宅、施設での口腔ケアの流れと介護保険との関わりを理解する。
5	(松岡拓治) 介護保険の復習	ケアマネージャー資格試験を使用したの演習
6	<中川真樹> 社会保険制度 衛生行政	社会保障制度と衛生行政の基礎を理解する
7	(一瀬智美) 保険医療制度と法規	国家試験の内容を理解する。 医療保険制度について理解する。
8	(一瀬智美) 診療報酬制度の基本的な仕組み 請求・支払いについて	国家試験の内容を理解する。 診療報酬制度の仕組みについて理解する。
9	<中川真樹> 衛生関係法 保健医療の動向	衛生関係法と保健医療の動向の基礎を理解する
10	<中川真樹> 社会保険 社会福祉	社会保険と社会福祉の基礎を理解する 国家試験問題の内容を理解する
11	<中川真樹> 保健医療の実務 実際のカルテ記載内容について 各種交付文書等	各種交付文書等を理解する。 歯周治療の算定要件を熟知する。 ～SPTによるメンテナンスまで
12	<中川真樹> 総括 国家試験問題等 各種交付文書 指導管理について	各種交付文書等を理解する。 国家試験問題の内容を理解する。
13	東和ハイシステム協力 レセコン操作演習①	レセコン操作について学ぶ①
14	東和ハイシステム協力 レセコン操作演習②	レセコン操作について学ぶ②
15	東和ハイシステム協力 レセコン操作演習③	レセコン操作について学ぶ③

【 看護概論 】 令和4年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	成瀬信裕	実務経験	看護師。病院に勤務しながら看護専門学校にて指導。
授業との関連性	長年看護業務に係った経験や看護専門学校の非常勤講師として培った知識や技術をもって、歯科衛生士に必要な看護技術、コミュニケーションスキルや医療安全構築のための講義・演習を行う。		

履修学年・学期	1年前期	授業方式	講義・実技	単位数	1単位(15時間)	授業回数	8
---------	------	------	-------	-----	-----------	------	---

授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科衛生士に必要な基本的な看護知識の理解と看護技術のスキルを習得する。 2. 人々の生活行動について、それらは健康とどのようにつながっているかを理解し、看護の視点から対象の健康問題を見出し、その上で対象者の生活行動を健康な状態に整える基本的な援助技術を学習する。 3. 歯科衛生士の専門職業人として、人間関係の成立の基本となるコミュニケーションスキルを高める 		
評価方法	・定期試験100点×0.8=80点 ・Moodle 小テスト 10点×4回×0.3=12点 Moodle レポート (4点×2回=8点) 合計100点		
教科書名	歯科衛生士のための看護学大意 柴原孝彦著 医歯薬出版		
参考文献	<ol style="list-style-type: none"> 1. 湯根ます 他 ナイチンゲール『看護覚え書』現代社 2. 湯根ます 他 ハンダーソン『看護の基本となるもの』日本看護協会出版社 3. 金井ひとえ 実践を創る 新看護学原論 4. 金井一薫 ナイチンゲール看護論入門 5. ビジュアル臨床看護技術 		
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業前にMoodleによる事前予習・授業後の復習 2. 講義を進める中で、学生さんへの問いかけを多く行います。(間違いを恐れずに発言ください) 目的:問いかけに対して、思考する時間が重要 他者の意見を聞いたときに、脳への刺激が強くインプットされ学習効果が高まる 3. 講義終了毎に、授業の感想・質問など記載を依頼します。Moodleより、期限内に入力ください。 		
回	授業計画	到達目標	
1 (4/14)	【看護の技術】教科書P24～ P59 歯科衛生士が知っておくべき看護技術 ① バイタルサインについて 【看護概念】 看護の定義 看護の対象 看護の目標 看護の役割 授業の進め方 グループ編成 ①～④グループ編成(ローテーション実習) 1. 全体講義 オリエンテーション バイタルサイン導入 2. グループ学習(4グループ) ① バイタルサインの自己学習 (グループワーク研修) ② バイタルサインの実技指導 (黒川講師) ③ バイタルサインの実技 (グループワーク研修) ④ バイタルサインの変化の体感 (成瀬講師) 3. 全体講義(実習の振り返り)	バイタルサインの測定方法を理解する 体温:正しく測定出来る 脈拍:正しく測定出来る 呼吸:正しく測定出来る 血圧:正しく測定出来る バイタルサインの正常値を学ぶ 臨床でのバイタルサインの意味を理解する 患者を守る、臨床スキルを身につけましょう！	
2 (4/14)	1. 全体講義 オリエンテーション バイタルサイン導入 2. グループ学習(4グループ) ① バイタルサインの自己学習 (グループワーク研修) ② バイタルサインの実技指導 (黒川講師) ③ バイタルサインの実技 (グループワーク研修) ④ バイタルサインの変化の体感 (成瀬講師) 3. 全体講義(実習の振り返り)		
3 (5/12)	【看護の技術】教科書P24～ P59 歯科衛生士が知っておくべき看護技術 ①採血について ②吸引および酸素吸入について 【看護概念】 看護の定義 看護の対象 看護の目標 看護の役割	<ol style="list-style-type: none"> 1. 採血に必要な解剖生理が解り、合併症を予測できる 2. 吸引に関する解剖生理が解り、合併症を予測できる (歯科衛生士の日常業務における予備知識の必要性とリスク予測の重要性を看護行為から学び取る) 3. 歯科衛生士に必要な看護概念を理解する 看護の5つのものさしについて理解する 歯科衛生士の実践で、看護の5つのものさしが活用出来る 	
4 (5/12)	講義の進め方 グループ編成 ①～④グループ編成(ローテーション実習) ① 採血実習エリア(40分) (松尾講師) ② 吸引・酸素吸入エリア(40分) (黒川講師) ③・④ 講義 (成瀬講師)		
5 (6/9)	【看護の実務】教科書P61～P97 1 歯科衛生士に必要な看護実務 患者の観察と記録 洗浄・消毒・滅菌 感染対策の基礎	患者の観察方法と記録の仕方が解る 洗浄・消毒・滅菌の基礎知識を学ぶ 模擬による患者の観察と記録が実践できる 滅菌と消毒の違いが説明できる 清潔ゾーンと不潔ゾーンの区別ができる	
6 (6/9)	【看護の実務】教科書P61～P97 1 歯科衛生士に必要な看護実務 感染対策および医療安全の基礎 感染対策および医療安全の実践 全体のまとめ	ガウンテクニックが実践できる 1人でKYTが実践できる チームリーダーとしてKYTの実践ができる 全体的な振り返りができる	
7 (7/14)	【看護実務】 1. 歯科衛生士として、どこでどのように働くのか？ 病院における歯科衛生士 地域における歯科衛生士 学院で3年間学ぶ意義を看護の視点で考える	病院における歯科衛生士について理解する 地域活動における歯科衛生士の役割を理解する 歯科衛生士に必要な患者との関わりを、看護の視点で理解する 本学院で3年間で学ぶカリキュラムの必要性を理解する	
8 (7/14)	全体の振り返り ◆ バイタルサインの意味 ◆ 必要とする病態生理と解剖(なぜ、学ぶのか) ◆ 医療安全と感染管理の重要性 ◆ 患者とのコミュニケーションスキル ◆ 楽しく仕事をする為に、看護の5つのものさしを活用する		

【 看護概論 】 令和4年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	成瀬信裕	実務経験	看護師。病院に勤務しながら看護専門学校にて指導。
授業との関連性	長年看護業務に係った経験や看護専門学校の非常勤講師として培った知識や技術をもって、歯科衛生士に必要な看護技術、コミュニケーションスキルや医療安全構築のための講義・演習を行う。		

履修学年・学期	2年前期	授業方式	講義・実技	単位数	1単位(15時間)	授業回数	8
---------	------	------	-------	-----	-----------	------	---

授業目標	1. 歯科衛生士に必要な基本的な看護知識の理解と看護技術のスキルを習得する。 2. 人々の生活行動について、それらは健康とどのようにつながっているかを理解し、看護の視点から対象の健康問題を見出し、その上で対象者の生活行動を健康な状態に整える基本的な援助技術を学習する。 3. 歯科衛生士の専門職業人として、人間関係の成立の基本となるコミュニケーションスキルを高める		
評価方法	・定期試験100点×0.8=80点 ・Moodle 小テスト 10点×4回×0.3=12点) Moodle レポート (4点×2回=8点) 合計100点		
教科書名	歯科衛生士のための看護学大意 柴原孝彦著 医歯薬出版		
参考文献	1. 湯横ます 他 ナイチンゲール『看護覚え書』現代社 2. 湯横ます 他 ヘンダーソン『看護の基本となるもの』日本看護協会出版社 3. 金井ひとえ 実践を創る 新看護学原論 4. 金井一薫 ナイチンゲール看護論入門 5. ビジュアル臨床看護技術		
履修上の注意	1. 授業前にMoodleによる事前予習・授業後の復習 2. 講義を進める中で、学生さんへの問いかけを多く行います。(間違いを恐れずに発言ください) 目的:問いかけに対して、思考する時間が重要 他者の意見を聞いたときに、脳への刺激が強くインプットされ学習効果が高まる 3. 講義終了毎に、授業の感想・質問など記載を依頼します。Moodleより、期限内に入力ください。		
回	授業計画	到達目標	
1 (4/20)	【看護の技術】教科書P24～ P59 歯科衛生士が知っておくべき看護技術 ①バイタルサインについて 【看護概念】 看護の定義 看護の対象 看護の目標 看護の役割 授業の進め方 グループ編成 ①～④グループ編成(ローテーション実習)	バイタルサインの測定方法を理解する 体温:正しく測定出来る 脈拍:正しく測定出来る 呼吸:正しく測定出来る 血圧:正しく測定出来る バイタルサインの正常値を学ぶ 臨床でのバイタルサインの意味を理解する 患者を守る、臨床スキルを身につけよう!	
2 (4/20)	1. 全体講義 オリエンテーション バイタルサイン導入 2. グループ学習(4グループ) ① バイタルサインの自己学習 (グループワーク研修) ② バイタルサインの実技指導 (黒川講師) ③ バイタルサインの実技 (グループワーク研修) ④ バイタルサインの変化の体感 (成瀬講師) 3. 全体講義(実習の振り返り)		
3 (5/12)	【看護の技術】教科書P24～ P59 歯科衛生士が知っておくべき看護技術 ①採血について ②吸引および酸素吸入について 【看護概念】 看護の定義 看護の対象 看護の目標 看護の役割	1. 採血に必要な解剖生理が解り、合併症を予測できる 2. 吸引に関する解剖生理が解り、合併症を予測できる (歯科衛生士の日常業務における予備知識の必要性とリスク予測の重要性を看護行為から学び取る) 3. 歯科衛生士に必要な看護概念を理解する 看護の5つのものさしについて理解する 歯科衛生士の実践で、看護の5つのものさしが活用出来る	
4 (5/12)	講義の進め方 グループ編成 ①～④グループ編成(ローテーション実習) ① 採血実習エリア(40分) (松尾講師) ② 吸引・酸素吸入エリア(40分) (黒川講師) ③・④ 講義 (成瀬講師)		
(6/1)	【看護の実務】教科書P61～P97 1 歯科衛生士に必要な看護実務 患者の観察と記録 洗浄・消毒・滅菌 感染対策の基礎	患者の観察方法と記録の仕方が解る 洗浄・消毒・滅菌の基礎知識を学ぶ 模擬による患者の観察と記録が実践できる 滅菌と消毒の違いが説明できる 清潔ゾーンと不潔ゾーンの区別ができる	
6 (6/1)	【看護の実務】教科書P61～P97 1 歯科衛生士に必要な看護実務 感染対策および医療安全の基礎 感染対策および医療安全の実践 全体のまとめ	ガウンテクニックが実践できる 1人でKYTが実践できる チームリーダーとしてKYTの実践ができる 全体的な振り返りができる	
7 (7/28)	【看護実務】 1. 歯科衛生士として、どこでどのように働くのか? 病院における歯科衛生士 地域における歯科衛生士 学院で3年間学ぶ意義を看護の視点で考える	病院における歯科衛生士について理解する 地域活動における歯科衛生士の役割を理解する 歯科衛生士に必要な患者との関わりを、看護の視点で理解する 本学院で3年間で学ぶカリキュラムの必要性を理解する	
8 (7/28)	全体の振り返り ◆ バイタルサインの意味 ◆ 必要とする病態生理と解剖(なぜ、学ぶのか) ◆ 医療安全と感染管理の重要性 ◆ 患者とのコミュニケーションスキル ◆ 楽しく仕事をする為に、看護の5つのものさしを活用する		